

成安造形大学紀要  
第9号

Journal of  
Seian University of  
Art and Design  
No.9

ISSN 1884-7919

# 成安造形大学紀要 第9号

---

## 目 次

### 研究論文

- 知的障害者による芸術表現の社会的受容に関する一報告  
—第7回「びかつ to アート展」をめぐって— …………… 鳥先 京一 001
- 大ブリュゲルの義母：ブリュゲル一族の繁栄の基礎を  
築いた女性画家、マーイケン・フェルヒュルスト …………… 千速 敏男 017
- 「発達障害」・極私論1  
——「世に棲む発達障害者」を視野に入れて—— …………… 山川 裕樹 031
- Building an EFL Course around a Feature-Length Film: Exercises to Accompany  
*Catch Me If You Can* and Its Screenplay …………… 三宅キャロリン 045
- 言葉と手仕事 ——「俳句×美術」展覧会報告—— …………… 田辺 由子 091
- 個展「鉄のシリーズⅥ 儚き移ろい」の開催報告 …………… 金澤 徹 105
- 「マンセル・カラーシステム・プロジェクト」と  
「PhotoMusic 実験室」の取り組みの記録 …………… 谷本 研 115
- 映像作品「水流Ⅷ」の制作報告 …………… 櫻井 宏哉 129
- カリキュラムとマネジメント：  
危機の時代のカリキュラムを考える …………… 渋谷 亮 141
- 造形大生が「仕掛け」で揺さぶる まちの可能性 …………… 由井 真波 159  
加藤 賢治

平成27年度特別研究助成 成果報告

大草 真弓 .....	182
-------------	-----

平成28年度特別研究助成 成果報告

小田 隆 .....	195
------------	-----

知的障害者による芸術表現の社会的受容に関する一報告  
—第7回「ぴかっ to アート展」をめぐって—

A Report on the Social Acceptance for Art Activities by  
Intellectually Disabled People  
— A Case of an Exhibition, “Pikka-to-Art”

島先 京一

Kyoichi SHIMASAKI



# 知的障害者による芸術表現の社会的受容に関する一報告

## —第7回「ぴかつ to アート展」をめぐって—

A Report on the Social Acceptance for Art Activities by Intellectually Disabled People  
— A Case of an Exhibition, “Pikka-to-Art”

島先 京一

Kyoichi SHIMASAKI

准教授（共通教育センター：障害学・芸術学）

In this report, I analyzed the key phrases found in the results of a questionnaire conducted in an art exhibition named the 7th. “Pikka-to-Art Exhibition”, which exhibited the art works by disabled people living in Shiga prefecture by public offering. In this analysis I found that we are in a transition period for development of disability arts and its social acceptance.

### 1. はじめに

近年、障害者に対する社会的な関心は、高まってきている。

例えば大きな社会的枠組みに関しては、1975年の国連による「障害者の権利に関する宣言」“The Declaration on the Rights of Disabled Persons”（第30回総会決議）以来、国連や WHO をはじめとする世界中の多くの国ぐにが参加する国際的な機関において、障害者の権利に対する制度的、政策的な改革が推し進められてきた。我が国においても、1995年の「障害者プラン（ノーマライゼーション7年戦略）」をはじめとする様々な施策が提案され、実施されてきた。[註1]

社会全体のインフラ整備に関しても、いまだ充分とはいえないまでも、いわゆるバリアフリーに対応した社会設備の設置が今や、当然のこととされている。公共空間における多機能トイレの設置も、当然の社会インフラとして当たり前の風景となった。

また新聞をはじめとする様々な報道メディアにおいても、障害者が関係する事柄が取り上げられる事例も増えているように思われる。それもかつては、障害者や障害者が関わる問題を社会的な周辺に位置するべき事案として捉えるような視点が中心であったが、最近は障害者も私たちの社会を構成する同等の構成員であるという基本的な姿勢に裏付けられた報道が増えてきているとっていいであろう。

テレビメディアにおいても、障害者を取り上げる機会は増えている。そしてテレビにおいても、障害者の問題を特別視したり、感動の対象とするような取り上げかたのみならず、日常的問題として多様な観点から障害者や彼女／彼らが直面する問題を取り上げる番組が増えている。[註2]

障害者の様々な活動とその成果に対する注目が高まってきていることも、最近の

傾向とってよいであろう。例えば、パラリンピックを頂点とする障害者によるエリートスポーツに対する関心の広がり、今や福祉関係者や体育教育関係者だけでなくとどまらず、一般的なメディアにまで及んでいる。エリートスポーツに対する関心の高まりが、障害者が日常生活の一部として楽しむ、あるいは障害者と平均者が共に楽しむ、レクリエーション・スポーツに対する関心の高まりを引き起こすことも期待されよう。

そして本報告の関心の対象である、障害者による文化活動、中でも芸術作品の創造と発表については、2010年のパリのアル・サンピエール美術館における「アール・ブリュット・ジャポネ」展の開催を大きな契機として、国内外において大きな社会的関心を集めてきていることはいうまでもない。書の金澤翔子や陶芸の澤田真一をはじめとする、世界的にも名の知られるようになった芸術家の登場は、大いに注目すべき事態であるし、様々な障害者福祉施設が利用者の積極的な活動として、自由な造形活動を取り上げるようになってきた。またその発表の機会も、主催団体の公私の別を問わず、確実に増えてきている。少なからぬ美術館が、いわゆるアール・ブリュットをはじめとする、知的障害や精神障害とともに暮らす芸術家の作品に照明を当てる展覧会を企画し、開催していることも、忘れてはならない。

本報告は、そのような障害者による芸術表現活動の成果発表の機会の一つに注目し、障害者の文化活動に対する社会的な認識の一断面を描出することを目指す。そしてその考察の資料として、2011年より滋賀県において開催されてきた、障害者を対象とした公募による展覧会、「ぴかつ to アート展」の第7回展を取り上げ、その概要を報告し、入場者によるアンケートの「語り」を分析する。

## 2. 「ぴかつ to アート展」について

本報告の考察対象は、2011年から毎年、開催されている、「ぴかつ to アート展」という、少しばかり奇妙な名称の展覧会である。主催者は滋賀県および「滋賀県手をつなぐ育成会」であり、複数の関係者から構成される実行委員会が組織される。事務局は「手をつなぐ育成会」が担当しており、展覧会実務の多くを「手をつなぐ育成会」が関係する福祉団体との協力関係の中で行い、滋賀県の障害福祉課が様々な局面で全面的なサポートをする体制で運営されている。ちなみにこの展覧会名は、ひらがな、アルファベット、カタカナを結合することによって、障害者による芸術表現の多様性、ならびに障害者自体の多様性を表しているという。

「ぴかつ to アート展」は、障害者の芸術作品を対象とした、公募展である点に特色がある。応募資格には特に厳密な制限事項はなく、障害者手帳の発給を受けている障害者、およびそれに準ずる個人であれば、応募できる。展示をおこなうという前提のもとに、応募作品については大きさ等の制限があるが、これもあくまで実務上の条件に基づくもので、特別な意図があるわけではない。

公募展としての「びかつ to アート展」の最も大きな特色は、あらかじめ公表された審査員による、2次に渡る作品の審査があることであろう。第1次審査は、応募作品の写真審査で、展覧会への出品の是非が決定される。第2次審査は、大賞を始めとするいくつかの賞の入選作品の選定で、実際の作品を審査する。第1回から今回の第7回までの審査は、今井祝雄とはたよしこの2名、および滋賀県立近代美術館学芸員と「手をつなぐ育成会」の役職者が当たっている。これらの審査員のうち、今井とはたは、知的障害者の芸術表現活動に対する様々な支援活動を行ってきたことで知られており、ともに滋賀県の代表的なアール・ブリュット発信拠点である、「ボーダーレス・アートミュージアム No-Ma」の重要な協力者として知られている。過去の入賞作品や、作品審査の現場に同席できた報告者の幸運な経験から判断する限り、今井もはたも、特定の政治的・政策的信条や芸術思潮、あるいは障害者福祉観に縛られることなく、純粋に作品自体の面白さやユニークさに対して判断を下していたといつてよいであろう。この二人の、日本の障害者芸術の発展に寄与した重要なアーティストの審査員としての参加は、「びかつ to アート展」にとって極めて重要な意味をもつ。

会場は例年、滋賀県草津市のイオンモール草津店の2階にある、イオンホールである。この会場選定は、主にはイオンモール草津店からの好条件での会場提供の申し出を受けてのものだということである。しかし後でも取り上げるが、イオンモール草津という集客能力の高い商業施設の一部を利用して、新しい芸術ジャンルとしての潜在的な力を秘めた障害者による芸術作品の展示を行うことの社会的意義や可能性は、今後、大いに注目すべきである。

なお「びかつ to アート展」では、作品の募集要項には特に障害の種別については触れてはいない。しかし実行委員会の構成メンバーに多くの知的障害者を対象とした組織や施設の運営実務者が参加していること、事務局を担当し、展覧会実施の現場においても取りまとめの役割を果たした「手をつなぐ育成会」がもともと、知的障害者の保護者の組織であったことなどもあり、応募作品ならびに展示作品の大半が知的障害者ならびに精神障害者によるものである。もちろんこのこと背景には、アール・ブリュットに対する社会の認識を高めることになった多くのアーティストが、知的障害者や精神障害者であったことが関係しているといえよう。

報告者は第1回から第6回までの「びかつ to アート展」に対しては、知的障害者の芸術表現に関心をもつひとりの愛好家、ならびに研究者として、鑑賞者としての立場で関わってきた。しかし第7回の「びかつ to アート展」においては、展示計画の作成ならびに展示の監修を任せてもらえることとなり、展覧会運営の実務の現場に参加することができた。また本報告の考察対象とした入場者アンケートも、以上の経緯から事務局の格別の配慮をいただき、閲覧することが可能になったものである。



### 3. アンケートの概要

第7回「ぴかつ to アート展」は、2017年12月1日に開幕し、12月10日に最終日を迎えた。会場は、先にも少し触れた、イオンモール草津店2階のイオンホールである。会期の10日間の総入場者数は、主催者の公式統計によれば、2548人に上るが、これは会場入り口の展覧会場監視スタッフの目視による確認に基づいており、会場混雑時の見落としの可能性を考えれば、実数はそこに若干数を加えたものとなるであろう。

入場者アンケートは、入り口の展覧会場監視スタッフから入場者へ、他の福祉関係の広報素材と合わせて、直接、手渡しすることによって配布された。したがって会場混雑時にはアンケートの手渡しの漏れがあった可能性も否定できないため、すべての入場者にアンケートが配布されていない可能性が高い（報告者も会場滞在時には受付業務の補助をおこなうことがあったが、来場者の快適な作品鑑賞を優先する観点から、アンケート用紙の配布を躊躇することがあった。）。

アンケートの回収数は、815件である。2,500人以上の総入場者数に対して815件というアンケートの回収数は、客観的な科学的調査の分析母体としては不十分であったとしても、入場者の意識や認識の一端を探るという目的に照らしたとき、有意な示唆を得ることを十分に担保し得る数であると考えられる。また一般的に考えても、調査対象母体数のほぼ三分の一という回収数は、決して低いものではないであろう。

アンケートの回収率が好調であった一つの要因として、入場者の作品に対する関心を高めてもらうための一つの工夫があった。入場者にアンケートと同時に投票用紙を配り、気に入った作品を1点、選んでもらい、会場出口で投票をしてもらったのである。この工夫によって入場者は漫然と展示品を眺めるだけではなく、主体的に自らの美的な判断を働かせるべく、熱心に作品を鑑賞することにつながったと考えられる。また投票用紙への記入はそれと同時に、アンケートへの積極的な回答を促す効果ももったと思われる。この一般の入場者による出展作品の人気投票は過去にもおこなわれており、「ぴかつ to アート展」や障害者の作品展に対する一般の人びとの関心を高めることに一役買っていることは間違いないであろう。ちなみに投票の結果はのちに公表されたが、公式の審査結果と重なる部分もありつつ、専門家の判断とは異なる独自の判断が示された点は、興味ふかい。

以下にアンケートの全文を示す（アンケートの明らかな誤記は訂正して記す）。

#### 第7回ぴかつ to アート展についてのアンケートのお願い

本日は、第7回ぴかつ to アート展にご来場いただき誠にありがとうございます。今後の取り組みの参考といたしますので、お手数ですがアンケートにご協力いただけますようお願いいたします。

※当てはまるものを○で囲んでください。

- 1) 年齢 ①10歳未満 ②10代 ③20代 ④30代 ⑤40代 ⑥50代 ⑦60代  
⑧70歳以上
- 2) お住まい ①滋賀県内 ・大津地域 (大津市)  
・南部地域 (草津市・守山市・栗東市・野洲市)  
・甲賀地域 (甲賀市・湖南市)  
・東近江地域 (近江八幡市・東近江市・日野町・竜王町)  
・湖東地域 (彦根市・愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町)  
・湖北地域 (長浜市・米原市)  
・高島地域 (高島市)  
②滋賀県外 ( )
- 3) ご来場いただいたきっかけ (複数回答可)  
①チラシ・ポスター ②新聞 ③インターネット ④テレビ・ラジオ  
⑤知人・友人の紹介 ⑥ 職場の紹介 ⑦イオンに来て知った ⑧作家本人  
⑨作家の家族 ⑩作家の友人・知人 ⑪ その他 ( )
- 4) 障がいのある方の作品展をご覧になるのは、これが何回目ですか。  
・初めて ・2回～5回 ・6回～10回 ・11回以上
- 5) ぴかつ to アート展を以前にもご覧になったことはありますか。  
1. 初めて 2. 以前にも観覧した 今回 ( ) 回目
- 6) 今回の展覧会はいかがでしたか。  
1. 大変良い 2. 良い 3. 普通 4. あまり良くない 5. 良くない
- 7) 今回の展覧会をご覧になった感想をお書きください。

※アンケート用紙は、回収箱にお入れ下さい。

ご協力ありがとうございました。

本報告においては、主として設問3)の展覧会への来場のきっかけと、7)の自由記述を分析対象とする。

設問3)の回答への注目点は、アンケート回答者全体を障害者関係者と一般の入場者に区別するためにおこなう。そしてその区別をもとに、設問7)の自由記述を中心に据え他の回答も参照しながら、芸術作品の制作と発表活動をはじめとする障害者の社会的活動や、障害者像そのものについての、障害者関係者と一般の人びととの間の認識の違いを抽出することを目指す。

以下の分析において障害者関係者という概念については、次のように理解していくこととする。一般に障害者関係者という言葉から連想されるのは、障害者当事者と彼

女／彼と家計を同一にする同居家族、そして当事者の社会活動の本拠としての障害者福祉施設の職員ということになるであろう。しかし本報告では障害者関係者という概念をこの一般的な理解にとどめず、家計を同一にしない家族や障害当事者の友人・知人、さらには障害者の積極的な社会参加を推し進めようとしている何らかの専門家の知人・友人にまで拡大して理解していく。すなわち、生活の何らかの局面で障害当事者や障害者支援者とのかかわりをもつ人全てを、そのかかわり方の濃淡は問わず、障害者関係者として捉えていくことにする。

この理解に対しては、大きくは二通りの否定的な批判が予想される。一つ目は、生活の何らかの局面での関係者とのかかわりをもつという理解が、ほとんど障害者関係者という資格制を規定していないことと近く、学術的な考察の根拠としての科学性に乏しいという点であろう。そして二つ目は、その無規定性ゆえに、障害者関係者という概念が無制限に拡大してしまう危険性であろう。

確かに先にも述べた、当事者ならびに家計を同一にする家族、そして公的に承認されている職能専門家に限る理解のほうが、考察の対象者の範囲の明確さを保証する立場からは科学性が期待できるといえるかもしれない。しかしこの理解からは、障害者に対する社会的な理解を深め、ひいては障害者の社会的権利や生活の質の向上という社会の大きな目標に微力でもよいから協力したいと願う、決して少なくはない善意の人びとの認識が漏れ落ちてしまう可能性が高い。〔註3〕

ここで設問の3) について確認しよう。この設問は、本展を知り来場することになったきっかけについて、問うている。11個用意された解答例は、本展を知ったきっかけとして、何らかのメディア(4例)、知人や友人といった個人や何らかの組織(5例)、会場の前を通りかかったこと(1例)、そして自由記述を含めたその他(1例)の4種に分けられる。

これらのうち、「⑩その他( )」は、その自由記述の大半が「偶然に通りにかかった」、あるいは「書店を訪れた時に向かいで開催されていた」であり、解答例「⑦イオンに来て知った」と同じように、一切の予備知識や情報をもたずに本展に入場した解答事例として考えることができる。

したがって本報告では、この設問3) について、「⑦イオンに来て知った」と「⑩その他( )」と回答した人びとを一般の入場者、それ以外の人びとをその関係性の濃淡を問わず、障害者関係者と規定することにする。

おそらくここで、この捉え方に対するもう一つの批判があり得る。というのも、直接的なあるいは間接的なものであるかは問わず、障害当事者との何らかの人的な関係の取り結びが認められる人びとについて障害者関係者と規定する捉え方はかろうじて承認してもらえらるとしても、本展について各種の広報メディアを通じて知った来場者をも障害者関係者として捉えることは、関係者という概念の過剰な拡大解釈ではないかと考えられるからである。

この批判は、少なくとも客観的科学性を重視する立場からは、正当なものである。

しかし本報告ではいささか強弁であるきらいを認識しながら、以下の2点を根拠としながら、広報メディアをきっかけとして本展に来場した人びとを、障害者関係者と理解していくことにする。

一つ目は、本展覧会のような主催者組織が比較的小規模な団体である場合、ポスターやチラシといった広報メディアの掲示や配布は、おのずと限定的にならざるを得ないという事実である。本展のポスターが掲示された場所は、行政機関や住民サービス機関のような一般の人びとが頻繁に訪れる場所と、本展の関係諸機関が管理や運営に当たっている場所であろう。そして県庁や市役所、或いは公民館のような公共的な場は、確かに一般の多くの人びとが訪れるのであるが、同時にそこに掲示されている広報物も数が多く、来館者全てが全ての掲示物を確認するという事態は想像しにくい。おそらくそのような場所で本展のポスターやチラシに目を止め、記憶にとどめた人は、何らかの形で障害当事者との人的な関係をもっている人が多いと想像できる。また本展の関係諸機関は大半が障害者福祉のためのサービス施設であり、そこで本展のポスターやチラシを見て本展に関心をもった人びとも、関係の濃淡はあれ、障害者福祉の関係者であると考えられるであろう。

新聞やインターネット、テレビ・ラジオといった場所や機会の限定を受けにくいメディアによって本展を知り来場した人びとも障害者関係者ととらえる根拠は、メディアにおけるコンテンツとの出会い方には求められない。コンテンツと出会った時点ではなく、展覧会の広報というコンテンツが視聴者の記憶に残り、その記憶が彼女／彼に展覧会を訪れるという行動を呼び起こしたという一連のプロセスが重視されるべきである。先にも触れたように、本展の主催者は決して巨大組織ではない。主催団体の一つに滋賀県が挙げられているが、しかし県がこの事業に対して特別な優先案件としての扱いをおこなったという事実はなく、また実質的な運営母体となった「手をつなぐ育成会」も組織力や資金面といった点からは決して大きな団体ではない。そのような小規模な組織がマスメディアを広報媒体として利用するときには、当然ながらその活用規模には制限が伴う。アンケートの設問3)において、これらのマスメディアにおける広報を来場のきっかけに挙げた来場者は、やはり障害者の社会参画について多少の関心を有している人びとであったと考えることができるのではないだろうか。

以上のように本報告では、「障害者関係者」の範囲を相当広く、拡大解釈する。日常生活の中で多少なりとも障害者と触れ合う機会をもつ、あるいは障害者の事が認識の中で去来する時間をもつ人びとの意識の一端を探ることにより、障害の医療モデルが陥りがちな閉鎖的専門性に対して、微力ながらもオルタナティブな思考の可能性を示すことによって、風穴をあけることに資するのではないかと期待してのことである。

本展覧会への入場のきっかけを問うた設問の3)の回答を中心に分析した結果、今回のアンケート総回収数815件のうち、347件が関係者による回答、478件が一般の入場者による回答と判断できた。

815件の総回答数に一般の入場者が占めた478件という回答数は、会場であったイオ

ンモール草津店に来店していたことが本展入場のきっかけであった人たちが、入場者の半数以上を占めていたということを表している。この数字は、ショッピングモール内の1区画という特別な場所が、ある種の社会啓発的な目的をもったイベントにとつて有効であることも表していると考えることができよう。

実際の展示会場であった、イオンモール草津内イオンホールは、音楽演奏会や宴会、展示会などさまざまな催し物に利用できるようにデザインされた多目的空間であり、逆にいえば特定の目的のために機能特化された場所ではない。先にも述べたように、「ぴかつ to アート」展は、2011年の第1回展からこのイオンホールを会場として開催されてきたが、これはイオンモール草津店からの破格の好条件での会場提供の申し出を受けてのことであり、主催者の積極的な主体的選択ではなかった。

実際、作品を展示する場としてイオンホールを考えたとき、壁面や照明設備は決して十分なものではなく、民間の展示会場設営業者の協力を借りる必要があった。今回、展示計画の立案および実施において協力した報告者も、搬入可能な造作壁面と限られた施工時間、そして搬入展示作業に動員できる専門家の数の少なさ等の問題に直面し、創意と工夫を迫られた。しかしそのような専門性の希薄性という欠点にもかかわらず、多くの人びとが往来するショッピングモールの一角という立地条件は、幾つかの工夫によって集客性を上げることができるようである。今回も出品入選作品の1点に注目し、その作品をイオンホールの外部からも見えるように配置することによって、家族連れを中心とした、通常的美術展では入場が期待しにくい人びとの入場を誘うことができた。〔註4〕造形作品を最高の状態で展示し、鑑賞してもらうということと、できる限り多くの人びとに展覧会を楽しんでもらう、それも美術展に日常的には親しみをもっていない人びとに展覧会に入場してもらうための、一つの工夫の可能性を提示できたのではないかと自負する。

最後に、次節のアンケートの自由記述回答に対する考察が、いわゆる統計学的なデータ分析を目指してはいないことを断っておきたい。本報告は、データの客観的な分析よりも、アンケートに現れた語法や言いまわしについて考察することによる、ある種の「語り」に対する考察 Narrative Studies を目指している。ただし、社会学などで用いられることの多い「語り」に対する考察の多くが、考察対象者と考察者によってかわされる長時間の聞き取りを考察資源としているのに対し、本報告は極めて断片的な「語り」を対象としている。そしてその「語り」の原資も、学術的な考察の対象となることをあらかじめ告知されたものではない。本報告の扱う「語り」は、告白の真剣さは期待できない可能性が高いが、しかし逆にいわゆる構えのないフランクな意識を抽出することには、有効であろうと思われる。

#### 4. アンケートの自由記述についての考察

次にアンケートの設問7)、展覧会に対する感想の自由記述の回答について、分析な

らびに考察を行う。

まず自由記述回答の総数であるが、障害者関係者アンケート回答者総数347通のうち、なんらかの自由記述があった回答が184通、一般入場者については、アンケート総数478通のうち、246通になんらかの自由記述があった。いずれもアンケート回収総数の半数を超えており、多くの入場者が本展覧会に対して、なんらかの親しみやすさを感じてくれた結果として理解することができよう。この親しみやすさの要因としては、先にも考察したイオンモール内という会場の特性、ぴかつ to アート賞選出のための投票という工夫の他に、多くの人びとが障害者による作品展に対して、美術の専門家による作品展とは異なる、ある意味で等身大に感じることができる親和性を感じていたということが予想される。我が国では残念ながら、多くの人びとがいまだに、芸術一般が示してしまいがちなハイカルチャーとしての専門性という幻影を否定することができず、芸術は高尚な<sup>たしな</sup>嗜好みであるという不要の不文律が生きながらえているようである。しかし、障害者による芸術作品とその展覧会は、これらの幻影や不文律を無力化するために有効である可能性が指摘できよう。

次に自由記述の中身について考えていきたい。質問文は、「今回の展覧会をご覧になった感想をお書きください。」というものであり、質問の第一義としては、展覧会そのもの、あるいは展覧会の企画全体に対する感想を尋ねている。しかし実際に回答文の中心を占めたのは、展覧会全体に対する感想ではなく、展示された作品に対する感想であった。それらには、特定の作品に対する回答や、特定の傾向を示す複数の作品に対する感想と、展示された作品全体に対する感想があったが、障害者関係者の自由記述回答187通のうちの131通が、そして一般入場者の自由記述回答246通のうち217通が、作品に対する感想を記していた。

この事実からは、二つのことが読み取れるように思われる。一つ目は、展覧会の企画ならびに開催という行為に窺うことができる創造的な性格についての、一般の人びとの認識の低さであろう。専門家および熱心な愛好家であれば、一つの美術作品がどのような展覧会に出品展示されるか、そしてその展覧会はどのような場所および日時におこなわれるのか、展覧会内部での作品のレイアウトはどのようなものなのかといった要素が、作品にとっても作者にとっても、そして鑑賞者にとっても重要な要素であることは、当然のこととして認識されている。しかしこれらのことを当然のこととして認識するためには、作者も鑑賞者も展覧会という経験のある程度積む必要がある。「ぴかつ to アート展」はしかしながら、そのような経験値の高いと思われる鑑賞者のみを対象とした企画ではなかった。したがってほとんどのアンケート回答者が、展覧会の感想として展示作品についての感想を記したのは、当然のことであったというべきかもしれない。

展覧会についての問いが作品に対する感想によって占められてしまったもう一つの理由は、喜ばしい事態を反映しているかもしれない。というのも、後に内容について検討していくが、ほとんどの作品をめぐる感想が、展示作品に対する好意的な評価を

記しているのである。中には絶賛しているといってもいいような、素直な興奮を表す回答も散見された。これはやはり、アンケート回答者にとって作品との出会いが、ある種の精神の美的な高揚をもたらす素晴らしい機会であったことを示している可能性が高い。彼女／彼はその気持ちの高ぶりをなんらかの形で外在化させたい欲求を抑えられなかったのであろう。障害者の芸術表現が多くの人びとの心を揺さぶるものであることを実証できる機会として、障害者の作品の展示には、芸術的、社会的意義が認められるとよいであろう。

次いで、それら作品を賛美する回答について検討していくが、その時に作品について語る、作品を評価する際の言葉の用いられ方については、慎重な吟味が必要であろう。作品とその美について語るという営為は、芸術学一般に関わりをもとうとする専門家にとっても、多くの困難を伴う。芸術作品を語ることについての専門的な訓練を経験していない一般の人びとの語り、時に不十分さを伴い、そして時には矛盾や誤解を伴うことは、意識しておく必要がある。今回の考察では、個々の回答の背景について他の設問に対する回答を参考にしながら推測することは一切行わず、回答に登場した評価に関わる言葉だけを取り上げ、語りのベクトルの集積の向かう方向を探ることに力点を置く。

アンケート自由記述に現れた展示作品に対する評価に関する言葉は、多岐にわたる。中には、「高い芸術性」や「プロにもまさる才能」のように、言葉の抽象性が高いがために、感動や感心の根拠を探ることが難しい回答もあった。しかしできる限り予断を排して作品の評価を述べている回答を分類すると、比較的、回答数の多い、4項目と、回答数は決して多くはないが、障害者の芸術表現の受容に対する認識の問題点を浮かび上がらせてくれると思われる2項目を抽出することができた。

回答数の多かった4項目を、以下に示す。

一つ目。具体的な根拠を明らかにしないものの、作品や作品展全体のクオリティーの高さを賞賛する回答。多くの場合、「素晴らしい」という形容詞がキーワードになっている。障害者関係者、34通、一般入場者、55通。

二つ目。障害者の作品に見ることのできる自由さ、あるいは他者の目や表現に囚われることのない個性の発揮を賞賛する回答。障害者関係者、40通、一般入場者、48通。

三つ目。特定の障害者の作品に顕著に現れる、集中力やこだわりがもたらすであろう細かい表現や丁寧な表現を賞賛する回答。障害者関係者、25通、一般入場者、32通。

四つ目。障害者の芸術表現が自らにはない何かを有しているが故に、精神の浄化などのなんらかの影響を受けたという回答。障害者関係者、9通、一般入場者、18通。

障害者関係者と一般入場者の回答の比率について、これら四つの回答分類を比較してみると、一つ目の総合的な判断と、四つ目の作品から精神的な影響を受けたとする回答が、一般入場者の回答比率が高く、二つ目の作品に現れる自由な個性に着目する回答と、三つ目の作者の良い意味での執着に注目する回答は、障害者関係者の方が比率が高いようである。

二つ目と三つ目の回答分類は、障害者の芸術表現をただ賛美するだけではなく、その何が優れているのか、あるいは何が人の心を動かすのかという、表現に対する分析的な考察が含まれているということができ、やはりそのような分析的な考察は、少しでも障害当事者に近い場所にいる人びとの方が適していたということなのであろう。一つ目と四つ目の回答分類は、分析的ないしは要素の評価であるよりも、総合的な評価であり、障害当事者について触れ合うことの少ないであろう、一般入場者の回答比率が高かったのは当然といえるかもしれない。「楽しい」という評価語が一般入場者の13通の回答に見られたが、この楽しいという形容詞も、特定の性質を抽出して評価しているというよりも、「素晴らしい」という最も多く見られた評価語と同じく、ある種の総合評価を表す語法というべきであろう。

一方で、データ数としては少ないものの、障害者関係者と一般入場者の間で明らかに差異を認めることができるであろう、回答分類が2項目あった。一つ目は、「上手」という評価語を含む自由記述であり、二つ目は、「障害のある人でも……ができる」という、条件節を含んだ評価である。一つ目の「上手」という言葉を含んだ回答は、障害者関係者の回答の中には1通しかなかったにもかかわらず、一般入場者の回答の中には7通あった。また二つ目の、「障害者でも……ができる」という回答も、障害者関係者からは1通しか挙がってこなかったのに対し、一般入場者の回答の中には6通あったのである。この2項目はどちらも、障害者は能力が劣っているはずなのに特定の技能において秀でているという感想として、まとめることができる。これらの回答に特に悪意が込められているということはないと思われるが、このアンケートの結果は、障害者との個人的な関係が希薄な人たちにとって、障害や障害者の問題を能力主義の観点から考えてしまうある意味で悪意のない純朴な誤謬が未だ根強いことの表れと考えることもできよう。いろいろな意味で障害者は、まだまだ深く知られるべき存在なのである。

## まとめにかえて

以上、第7回「びかつ to アート展」について概要を紹介し、入場者アンケートについて若干の考察を加えた。まとめにかえて、今後の展望や課題について記していく。

まず、障害者関係者と一般入場者の回答分類別の比率の比較に関する考察から、障害者の芸術表現に対する理解が、身近に障害者がいる人とそうでない人との間に少しばかりの温度差があることが分かった。しかし一方で、アンケートの回収率の高さや、展覧会全体に対する総合的な評価の高さから、障害者に近い人もそうでない人も、障害者の芸術表現に対して強い関心を示し得ることが分かった。いわばこれは、ニトリとタマゴの関係にも喩えられるかもしれない。障害者との接触が希薄であった人びとが障害者の芸術表現に触れその魅力に惹かれることで、障害者に対するより広範囲に渡るより深い理解を目指すのと同時に、障害者と日常的に関係を取り結ぶ人びとが、



障害者一人ひとりの新たな可能性に気がついていく。そのような機会として障害者による芸術表現を展示する展覧会の企画は、社会的にも重要な意義を担うというべきであろう。

そしてその際、会場設定を始めとする展覧会のグランドデザインは、重要である。本報告では、「ぴかつ to アート展」が商業施設の一角においておこなわれていることのポジティブな成果について考察した。しかしそのことは、単に多くの人が行き来する場所に会場を設定すればよいという問題にとどまらない。会場設定は、展覧会の根本的な目的に関わる問題というべきである。

おそらく現在のところ、障害者の芸術表現を中心とした展覧会の企画は、現代美術のコンテクストの一部として発信されるか、福祉的な目的に沿ったコンテクストの中で実施されているかの、どちらかであるように思われる。報告者は、美術のコンテクストや福祉のコンテクストのどちらかだけに依拠するのではなく、かといって安易に両者が手を結ぶだけでもない、新たな発信の基本姿勢を探るべき時に来ているのではないかと考える。報告者は残念ながら、その新たな方向性を提案することはいまだできないが、少なくとも美術関係者が障害者福祉の現場に新たな活動の場を求め、福祉関係者が単なる余暇活動にとどまらない、障害当事者の芸術表現活動の可能性に希望を抱くようになった現在は、新たな胎動に同席できている貴重な時間であることを感じている。「ぴかつ to アート展」は、その新たな胎動のためのいくつかある可能性の少なくとも一つを検証する場としての意義をもっていると信じている。

本報告をまとめるにあたって、「滋賀県手をつなぐ育成会」事務局の皆様から、資料のご提供をはじめとする多大なご協力をいただくことができた。ここに明記し、謝意を表します。

本報告は、文部科学省科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究・課題番号15K131020001「知的障害者による芸術表現に関する基礎的研究」による研究成果発表の一部である。

[註1] ただし詳しくは触れないが、2005年制定の「障害者自立支援法」ならびにその継承政策とされる2012年の「障害者総合支援法」という、現在の障害者施作の基本方針となる法案が、障害者の社会生活における自立を謳いながら、障害者に不当な過度の経済的負担を強いる悪法として、多くの関係者の批判の対象となっていることは、忘れてはならない。

2] 2017年8月27日にNHK Eテレで放送さ

れた「バリバラ」は、障害者を特別視したり、あるいは障害者の生活における様々な困難とその克服を、ことさら感動の対象として捉えようとする旧来のメディアの姿勢に対する強烈的な皮肉を表明した番組として、記憶に残るであろう。この回の「バリバラ」で出演者は、日本テレビ系列が1978年以来、毎年制作放送している「24時間テレビ 愛は地球を救う」の出演者たちが身にまとってきた

Tシャツを、明らかにパロディー化したTシャツで登場した。この衣装とこの回の内容は、障害者福祉への寄付を募るために障害者の困難に満ちた生活を感動の物語に仕立て上げる、いわゆるアメリカ由来のテレソン番組に対する強烈な皮肉であった。この回の「バリバラ」については、出演者の一人、玉木幸則氏が、第14回障害学会大会シンポジウムにおいて、詳細を報告している。またアメリカのテレソンについては、Baird, Robert M., Rosenbaum, Stuart E., Toombs, S. Kay, ed., "Disability - The Social, Political, and Ethical Debate", 2009, New York のⅡ "The Case of Christopher Reeve", pp. 105-134を参照されたい。

- 3] 例えば報告者自身も、障害者当事者、同居家族、支援の専門員ないしは支援組織の構成員といった肩書を一切、もっていないため、限定的な意味では障害者関係

者として認識される根拠をもたない。報告者自身の事例はともかく、障害を社会の問題ととらえるいわゆる「障害の社会モデル」の立場から、障害者関係者を社会的な承認を経た専門家だけに限定してしまうことは、問題の所在を矮小化してしまう危険性があることを指摘しておきたい。

- 4] 報告者が会場の入り口近くに配置した作品は、ダンボール製のヒーロー型ロボットの立体造形である。本作は、高さが130cmあり、他の立体作品のように展示台に設置することが難しかった。しかしその親しみやすい作品のキャラクターは必ずや子どもたちの目を惹きつけるものと期待し、会場入り口近くに配置したが、多くの子ども連れの家族の入場を誘うことができ、報告者の目論見は成功したといってよいと思われる。



大ブリューゲルの義母：ブリューゲル一族の繁栄の基礎を  
築いた女性画家、マイケン・フェルヒュルスト

Pieter Brueghel I's Mother-in-Law:  
A Female Painter, Mayken Verhulst Who Built the Basis  
for Prosperity of the Brueghel Family

千速 敏男

Toshio CHIHAYA



# 大ブリュゲルの義母：ブリュゲル一族の繁栄の基礎を築いた女性画家、マーイケン・フェルヒュルスト

Pieter Brueghel I's Mother-in-Law: A Female Painter, Mayken Verhulst Who Built the Basis for Prosperity of the Brueghel Family

千速 敏男

Toshio CHIHAYA

教授（共通教育センター：美学美術史）

Pieter Brueghel I died at a young age so he could not teach painting to his children, Pieter Brueghel II and Jan Brughel I. On behalf of Pieter Brueghel I, it was his mother-in-law, Mayken Verhulst, who built the foundation for the prosperity of the family. In this article, I would like to write a small episode regarding how the basis of the prosperity of the Bruegel's family was built.

2018年1月より東京都美術館をはじめとして日本各地で「ブリュゲル展：画家一族150年の系譜」〔註1〕が開催される。ブリュゲル一族は、ピーテル・ブリュゲル1世 (Pieter Brueghel I 1526年頃～1569年。以下、「大ブリュゲル」と呼ぶ) にはじまり、長男のピーテル・ブリュゲル2世 (Pieter Brueghel II 1564年～1638年) と次男のヤン・ブリュゲル1世 (Jan Brueghel I 1568年～1625年) を経て、孫のヤン・ブリュゲル2世 (Jan Brueghel II 1601年～1678年)、曾孫のアブラハム・ブリュゲル (Abraham Brueghel 1631年?～1697年) にいたるまで、まさに150年以上にわたって画家を輩出した。しかしながら、大ブリュゲルは当時であっても比較的若くして亡くなったため、その子どもたち、ピーテル・ブリュゲル2世とヤン・ブリュゲル1世に絵を教えることはできなかった。幼い子どもたちを遺して早世した大ブリュゲルに代わり、一族の繁栄の基礎を築いたのは、マーイケン・フェルヒュルスト (Mayken Verhulst 1520年頃～1600年) という名のひとりの女性である。大ブリュゲルの義母であった。本稿では、この大ブリュゲルの義母に光をあて、ブリュゲル一族の繁栄の基礎がいかにして築かれたのか、ささやかな挿話を記してみたい。

まずは、カーレル・ファン・マンデルが『画家の書 (*Het Schilder-Boeck*)』(1604年刊行) に記した大ブリュゲルに関する興味深いエピソードからはじめよう。

[大ブリュゲルが] まだアントウェルペンに住んでいたころ、ある若い女性とか娘と生活を共にし、彼女とは結婚するつもりでいた。しかし、真実を軽んじ彼女があまりにも頻繁に嘘をつくのに腹を立てていた。そこで、彼女と契約を結び、かなり長い一本の木を用意し、彼女が嘘をつくたびにそこに印をつけていき、一定期間以内にその木が一杯になったら、結婚はご破算で無しということに

した。ほどなくして、そのとおりになった。結局、ピーテル・クックの未亡人がブリュッセルに住むようになったころ、その娘に求愛するようになり——すでに述べたように、彼はこの娘をかつてはよく抱きあげたものだった——彼女と結婚した。しかし母親は、昔の女のところを離れ、忘れてしまうよう、ブリュッセルはアントウェルペンを去りブリュッセルに移住すべきだと主張した。そのため、ブリュッセルはブリュッセルに移った。〔註2〕

ここに登場する「ピーテル・クックの未亡人」が、マーイケン・フェルヒュルストその人である。「ピーテル・クック」、正しくはピーテル・クック・ファン・アールスト (Pieter Coecke van Aelst 1502年～1550年) 〔註3〕は大ブリュッセルが師事した画家で、マーイケン・フェルヒュルストはその再婚相手であった。

ピーテル・クック・ファン・アールストは、16世紀前半のネーデルラントで活躍した美術家で、絵画にとどまらず、木工・ステンドグラス・タペスリーなどの意匠も手がけ、ウィトルウィウスの『建築論』を翻訳するなど、教養豊かで多才な人物であった。イタリアにも遊学しており、いわゆる「ロマンスト」、16世紀前半に登場するイタリアに学んだ初期ネーデルラントの画家のひとりである。1533年から1534年にかけてトルコのイスタンブールに旅行したが、カーレル・ファン・マンデルによれば、オスマン朝トルコのスルタンから注文を受け、タペスリーを意匠するためだという。

〔最初の〕妻を亡くした後、彼 [=ピーテル・クック・ファン・アールスト] はブリュッセル出身のファン・デル・ムイエンというタペストリー職人の強い勧めで、トルコのコンスタンティノープルへ赴いた。そこではちょうど、トルコ皇帝のために美しく贅沢なタペストリーを制作するという特別な事業が計画されており、人々はピーテルにトルコ皇帝に見せるためのものを描かせた。しかしトルコ皇帝は、イスラム法に従って人物や動物の形象を望まなかったため、その旅はむなしく、無益な行程と高い出費を被ったばかりで何の結果も生むことがなかった。およそ一年間そこに滞在してトルコ語を学んだが、その間、ピーテルは何もせずにはいられなかったため、自らの楽しみのために、コンスタンティノープルの街や周辺の多くの地域を写生した。それらはトルコの習慣を示す七つの場面からなる木版画として出版された。〔註4〕

この「トルコの習慣を示す七つの場面からなる木版画」は、ピーテル・クック・ファン・アールストの没後、1553年に未亡人となったマーイケン・フェルヒュルストによって出版されている。

ピーテル・クック・ファン・アールストは1527年にアントウェルペンの画家組合に加入し、のちに組合役員も務めたが、1546年にブリュッセルに移っている。この移住は、神聖ローマ帝国皇帝カール5世の宮廷画家の座を得るためであったようだ。アン

トウェルペン在住の1534年にピーテル・クック・ファン・アールストは《アントウェルペンの巨人》という巨大な彫刻（現存しない）の意匠を担当しているが、この彫刻の台座にはすでに「皇帝カール5世の画家」と記されていたという。皇帝からの仕事を受注したことのある画家から宮廷で皇帝に仕える画家へと立身出世することを願ったのであろう。しかし、宮廷画家になるという願いがかなったのは、亡くなる直前の1550年のことであった。

ピーテル・クック・ファン・アールストは、自身が師事したと推測されるアントウェルペンの画家、ヤン・メルテンス・ファン・ドルニケ（Jan Mertens van Dornicke）の娘、アンナ・ファン・ドルニケ（Anna van Dornicke）と結婚し、2人の子、ミヘル・ファン・クック（Michel van Coecke）と、のちに画家となったピーテル・ファン・クック2世（Pieter van Coecke II 1527年以前～1559年）をもうけたが、カーレル・ファン・マンデルの記述にもあったように妻に先立たれていた。そこで、トルコからの帰国後、おそらく1538年ないし1539年にマイケン・フェルヒュルストと再婚したのであった。〔註5〕このとき、ピーテル・クック・ファン・アールストが37歳前後、マイケン・フェルヒュルストが19歳前後である。

チューリッヒ美術館にはピーテル・クック・ファン・アールストが描いた《家族の肖像》〔註6〕が所蔵されているが、この肖像画はピーテル・クック・ファン・アールストとマイケン・フェルヒュルストを描いたもので、ふたりの背後に小さく描きこまれた3人の子どもたちはふたりの間に生まれた子どもたちとされる。この3人の子の名は、のちに画家となったパウヴェルス（PauwelsまたはPauwelまたはPaul）、カテライネ（KatelijneまたはKatheline）、そして母と同じ名をもつマイケン（MaykenまたはMariaまたはMarie。以下、母と区別するため「マイケン・クック」と呼ぶ）という。大ブリュッゲルがのちに結婚したのは、1545年頃の生まれと推測されるマイケン・クック〔註7〕であった。

なお、パウヴェルス・クック・ファン・アールスト（Pauwels Coecke van Aelst）については、マイケン・フェルヒュルストの子ではなく、ピーテル・クック・ファン・アールストの庶子とする説もある。というのも、あとで紹介するように、カーレル・ファン・マンデルが『画家の書』において「ピーテル・クックの庶子パウヴェルス・ファン・アールスト」と述べているからである。1996年に刊行された『美術辞典（*The Dictionary of Art*）』では、マイケン・フェルヒュルストの項目（第32巻254ページ。執筆者は無記名）、ピーテル・クック・ファン・アールストの項目（第7巻518ページ。執筆者はジェイン・キャンベル・ハッチソン）、ブリュッゲル一族の項目（第4巻895ページ。執筆者はアレクサンデル・ヴィートとハンス・J・ファン・ミーケルット）のいずれもが、パウヴェルス・クック・ファン・アールストをマイケン・フェルヒュルストとピーテル・クック・ファン・アールストの間の子であるとし、ふたりの間には3人の子がいたとしている。〔註8〕一方、ハッセル・ミーデマは、1994年から1999年にかけて刊行したカーレル・ファン・マンデルの『画家の書』の英訳注解書において、パウヴェルス・クック



ク・ファン・アールストをピーテル・クック・ファン・アールストの庶子だとした。アントニア・ファン・デル・サント (Antonia van der Sant) との間にもうけた子で、1569年までに亡くなっているというのである。〔註9〕現在、オランダ美術史研究所のウェブサイト (RKD - *Nederland Instituut voor Kunstgeschiedenis*) では「ピーテル・クック・ファン・アールスト1世の庶子で、ピーテル・ファン・クック・ファン・アールスト2世の兄弟」〔註10〕としているので、本稿ではオランダ美術史研究所のウェブサイトに基づき、以後、マーイケン・フェルヒュルストの子ではなく、ピーテル・クック・ファン・アールストの庶子として考えることにしたい。

となると、チューリヒ美術館所蔵の《家族の肖像》の夫婦像の背後に小さく描かれた3人の子どもがあらためて問題となってくるが、この夫婦像がピーテル・クック・ファン・アールストとマーイケン・フェルヒュルストであることに、異論は提起されていないようである。あるいは、3人の子どものうちの左端の1人が顔を伏せて隠していることと、夫が頭蓋骨に手をあてていることから、夭逝した逸名の子を描き加えたのかもしれない。

さて、マーイケン・フェルヒュルスト〔註11〕も画家の娘であったが、彼女の父の画業についてはほとんど知られていない。1520年頃にアントウェルペンとブリュッセルの中間に位置するメヘレンで生まれ、おそらくは父から絵の手ほどきを受けたのであろう。マーイケン・フェルヒュルストに帰属することが立証された作品は現存しないが、彼女が生前、著名な女性画家であったことをフィレンツェ生まれのイタリア人商人、ロドヴィコ・グイチャルディーニ (Lodovico Guicciardini 1521年～1589年)〔註12〕が証言している。グイチャルディーニは、少なくとも1542年以降、アントウェルペンに移り住んでいた。歴史家、フランチェスコ・グイチャルディーニ (Francesco Guicciardini 1483年～1540年)の甥であったロドヴィコ・グイチャルディーニは、自身も豊かな教育を受けた人物であり、商売のかたわら著述に励んだ。その著作のひとつ、『全ネーデルラント地誌 (*Descrittione di tutti i Paesi Bassi*)』(1567年刊行)のなかで、ロドヴィコ・グイチャルディーニはこう記している。

Et di donne viue nomineremo quattro: la prima e Leuina, figliuola di maestro Simone di Bruggia ... la seconda e Caterina figliuola di maestro Giouanni d' Hemssen ... la terza e Maria de Bessemers di Malines, che fu moglie di maestro Couck d'Alost, nominato di sopra: & la quarta fia Anna Smiters di Guanto veramente gran' pittrice, & grande illuminatrice.〔註13〕

四人の名を挙げよう。一人目はブルーージュの画家、シモーネ [=シモン・ベニング (Simon Bening 1483年?～1561年)]の娘、レヴィーナ [=レヴィナ・テールリンク (Levina Teerlinc 1510/20年頃～1576年)] ……二人目は画家、ジョヴァンニ・デムッセン [=ヤン・サンドレルス・ファン・ヘメッセン (Jan Sandres van Hemessen

1519年～1556年に活動] の娘、カテリナ [=カタリナ・ファン・ヘメッセン (Catharina van Hemessen 1528年～1587年以後)] ……三人目は画家クック・ダロスト [=クック・ファン・アールスト] の妻であったメヘレンのマリア・ディ・ベッセメルス [=マーイケン・フェルヒュルスト] を挙げる。四人目はヘントのアンナ・スミテルス [=アンナ・デ・スマイテル (Anna de Smitere)] である。ほんとうに素晴らしい女性画家たちであり、素晴らしい女性写本挿絵画家である。〔註14〕

ここでは、最初のレヴィナ・テールリンクと二人目のカタリナ・ファン・ヘメッセンが「画家の娘 (figliuola di maestro)」として紹介され、それぞれの父も画家として著名であったのに対して、三人目のマーイケン・フェルヒュルストの場合は、「画家の妻 (moglie di maestro)」としてのみ紹介されていて、画家であった父の名は記されていない。また、四人目のアンナ・デ・スマイテルの場合は、ヘントで活動した画家、ヤン・デ・ヘーレ (Jan de Heere 1502/05年頃～1576/78年頃) の妻であり、ヘントとロンドンで活動した画家、ルーカス・デ・ヘーレ (Lucas de Heere 1534年～1584年) の母であったが、〔註15〕これらの事実も省かれている。なお、レヴィナ・テールリンクとカタリナ・ファン・ヘメッセンについては作品が現存するが、マーイケン・フェルヒュルストとアンナ・デ・スマイテルについては現存する作品がない。

さて、大ブリュゲル〔註16〕が、自身が師事したピーテル・クック・ファン・アールストとマーイケン・フェルヒュルストの間の娘、マーイケン・クックと結婚したのは1563年であった。マーイケン・クックはこのとき18歳前後で、大ブリュゲルは37歳前後である。この年齢差は、マーイケン・フェルヒュルストとピーテル・クック・ファン・アールストの年齢差と重なり合う。

そして、ロドヴィコ・グイチャルディーニの『全ネーデルラント地誌』が刊行されたのは1567年。つまり、大ブリュゲルがマーイケン・クックと結婚したわずか4年後のことであるから、大ブリュゲルがマーイケン・クックにカーレル・ファン・マンデルがいうところの「求愛 (vrijen)」をしたとき、義母となるマーイケン・フェルヒュルストは、当時珍しい女性画家として名声を博していたことになる。

一方、マーイケン・フェルヒュルストの夫、ピーテル・クック・ファン・アールストが亡くなったのは1550年であった。幼い子どもたちをかかえて未亡人となったマーイケン・フェルヒュルストは、夫と先妻と間の子であるピーテル・ファン・クック2世や、夫の庶子と推測されるパウヴェルス・クック・ファン・アールストとともに、神聖ローマ帝国皇帝の宮廷画家にまで登りつめた夫、ピーテル・クック・ファン・アールストの画業、というよりも「家業」を子どもたちに継承させるべく奮闘していた。1553年に「トルコの習慣を示す七つの場面からなる木版画」を刊行したのもその一例である。しかし、先妻と間の子で、ピーテル・クック・ファン・アールストがなくなったときにはすでに画家になっていたと推測されるピーテル・ファン・クック2世は、1559年に早世してしまった。

このような状況において、夫の許で学び、その後イタリアへも遊学して画家としての技量を高めていた大ブリュッゲルが娘のマイケン・クックに「求愛」したことは、マイケン・フェルヒュルストにとっても好都合であった。「昔の女のところを離れ、忘れてしまうよう、ブリュッゲルはアントウェルペンを去りブリュッセルに移住すべきだと主張した」とカーレル・ファン・マンデルは記しているが、マイケン・フェルヒュルストの真意は、夫が築き上げた家業を娘婿に継承させようということだったのである。

事実、大ブリュッゲルに関する世界的な権威である森洋子氏によれば、マイケン・クックと結婚した1563年、大ブリュッゲルは「ブリュッセルでマルガレータの顧問グランヴェル枢機卿の庇護を受ける」<sup>〔註17〕</sup> ことになった。この「マルガレータ」とは、神聖ローマ帝国皇帝カール5世の庶子でパルマ公オットヴィオ・ファルネーゼの妻となったパルマ公妃マルガレータのことであり、1559年にネーデルラント総督に任命されていた。グランヴェル枢機卿は、このときパルマ公妃マルガレータの顧問に就任した人物である。マイケン・フェルヒュルストが夫の遺した家業、すなわち宮廷画家の地位を継承させるべく、娘婿の立身出世のために尽力していることがうかがわれる。しかしながら、グランヴェル枢機卿が「過酷な異端狩りをし、人民の反感を買い、1564年3月にフランスに送還されたため、パトロン関係はごく短期間に終わってしまったのであった。

大ブリュッゲルとマイケン・クックの間には、1564年に長男、ピーテル・ブリュッゲル2世が生まれ、1568年には次男、ヤン・ブリュッゲル1世が生まれた。家業を継承することのできる孫たちを相次いで得たマイケン・フェルヒュルストには、うれしかざりだっただろう。ところが、翌1569年、頼りとする娘婿の大ブリュッゲルが亡くなるのである。まだ四十代前半での他界であった。また前述のとおり、ハッセル・ミーデマによれば、大ブリュッゲルが死去した1569年までに、ピーテル・クック・ファン・アールストの庶子と推測されるパウヴェルス・クック・ファン・アールストも亡くなっている。孫たちに夫の遺した家業を継承させるべく、マイケン・フェルヒュルストは再び奮闘しなければならなくなった。カーレル・ファン・マンデルは『画家の書』にこう記している。

彼は二人の息子を遺した。どちらもよい画家である。一人はピーテルと呼ばれ、ヒリス・ファン・コーニクスローに師事し、実物に即した作品を制作している。ヤンは祖母にあたるピーテル・ファン・アールスト未亡人の許で水彩画を学び、その後ピーテル・フーキントなる人物の許にいて油彩画を学んだ。フーキントの家には美しいものがたくさん揃っていた。次いでケルンに旅し、さらにイタリアに足をのばし、そして風景画小品や小さな人物たちを描いたきわめて美しい仕上がりの小品を製作し、大いに名声を博した。<sup>〔註18〕</sup>

大ブリュッセルが亡くなったとき、長男のピーテル・ブリュッセル2世は5歳、次男のヤン・ブリュッセル1世はわずか1歳である。「祖母にあたるピーテル・ファン・アールスト未亡人」、すなわちマーイケン・フェルヒュルストは、孫たちに水彩画を教えたのであった。ファン・マンデルの記述では、マーイケン・フェルヒュルストの許で水彩画を学んだのは二人目の孫、ヤン・ブリュッセル1世のみとなっているが、初孫にあたるピーテル・ブリュッセル2世にも水彩画の手ほどきをしたことだろう。

とはいえ、マーイケン・フェルヒュルストが孫たちに教えたのは絵画の、初歩だけであった。その後は、しかるべき画家の許に弟子として送り出したのである。そのひとりがヒリス・ファン・コーニンクスロー 3世 (Gillis van Coninxloo III 1544年～1607年頃) [註19] であった。娘婿の大ブリュッセルが他界してから9年後の1578年、マーイケン・フェルヒュルストは、今度は娘のマーイケン・クックに先立たれてしまう。このとき、ピーテル・ブリュッセル2世は14歳、ヤン・ブリュッセル1世は10歳であった。マーイケン・フェルヒュルストは、二人の孫を連れてブリュッセルからアントウェルペンに移り住み、このヒリス・ファン・コーニンクスロー 3世の許に年長の孫、ピーテル・ブリュッセル2世を弟子入りさせたのである。[註20]

ヒリス・ファン・コーニンクスロー 3世は、15世紀末にブリュッセルで活動したヤン・ファン・コーニンクスロー 1世 (Jan van Cononxloo I 1490年に活動の記録) の孫にあたる。父のヤン・ファン・コーニンクスロー 2世 (Jan van Cononxloo II 1489年～1552年以降) も画家であり、この父の代にアントウェルペンに活動の場を移した。このファン・コーニンクスロー一族は、15世紀末から17世紀初頭にかけて6世代にわたって画家を輩出した、ブリュッセル一族にも匹敵する画家一族である。そしてなによりも、ヒリス・ファン・コーニンクスロー 3世は、マーイケン・フェルヒュルストの夫、ピーテル・クック・ファン・アールストの弟子だったのだ。ピーテル・ブリュッセル2世は、ヒリス・ファン・コーニンクスロー 3世が宗教上の理由でアントウェルペンを離れる1585年まで指導を受け、同年あるいはその前年にアントウェルペンの画家組合に加入した。こうして年長の孫は、画家として一人前になったのである。

なお、カーレル・ファン・マンデルが『画家の書』に記したピーテル・クック・ファン・アールストの伝記のなかに以下のような記述がある。

彼は皇帝カール五世に仕えた画家でもあり、皇帝在職中の一五五〇年頃、彼が住んでいたアントウェルペンで亡くなった。未亡人マーイケン・フェルヒュルストは、建築についての彼の本を彼の死後の一五五三年に出版している。ピーテル・クックの庶子パウヴェルス・ファン・アールストは、ヤン・マビューズの作品を模写することに優れていた。彼はまた、ガラス器に生けられた美しく精緻な花の絵を制作した。彼はアントウェルペンで暮らして同地で没し、その未亡人は、ヒリス・ファン・コーニンクスローの妻となった。[註21]

このピーテル・クック・ファン・アールストの庶子と推測されるパウヴェルス・クック・ファン・アールストの妻の再婚相手としてその名が記された「ヒリス・ファン・コーニクスロー」は、ピーテル・ブリュゲル2世が師事したヒリス・ファン・コーニクスロー3世とは別人である。この人物、ヒリス・ファン・コーニクスロー2世 (Gillis van Coninxloo II) は、1539年から1543年にかけて活動の記録が残る同名の父の子であるが、ファン・コーニクスロー一族との関係もわからない。アレクサンデル・ヴィートとハンス・J・ファン・ミークルットが『美術辞典』に掲載した家系図〔註22〕によれば、ヒリス・ファン・コーニクスロー2世の母は、ピーテル・クック・ファン・アールストの最初の妻、アンナ・ファン・ドルニケと姉妹のアドリアナ・ファン・ドルニケ (Adriana van Dornicke) でもあった！ 当時の同業者間での濃密な親族関係がうかがわれる。

一方、年少の孫、ヤン・ブリュゲル1世が師事したのは、ピーテル・フーキント (Pieter Goetkindt 1583年没)〔註23〕という画家であった。この画家の詳細については知られていないが、マーイケン・フェルヒュルストと同郷のメヘレン出身の画家、アントニ・ファン・パレルメ (Anthoni van Palerme 1503/13年頃~遅くとも1589年)〔註24〕に師事し、その娘を妻に迎えているので、同郷のつてを頼ったのかもしれない。興味深いことに、アントニ・ファン・パレルメとピーテル・フーキントの師弟は、いずれも画家よりも画商としての活動に力をいれていたようである。カーレル・ファン・マンデルも「フーキントの家には美しいものがたくさん揃っていた」と記している。マーイケン・フェルヒュルストは、年少の孫、ヤン・ブリュゲル1世には画商として兄、ピーテル・ブリュゲル2世の画業を手伝わせようとも考えていたのだろうか。

しかしながら、森洋子氏が思わず「兄よりもはるかに画才に恵まれた弟」〔註25〕と漏らしてしまうほどに、この二人に実力には差があった。カーレル・ファン・マンデルが記したように「ケルンに旅し、さらにイタリアに足をのばし、そして風景画小品や小さな人物たちを描いたきわめて美しい仕上がりの小品を製作し、大いに名声を博した」のは、弟のヤン・ブリュゲル1世のほうだったのである。

森洋子氏が作成した年譜にしたがってヤン・ブリュゲル1世の画業をたどってみよう。〔註26〕1578年に祖母のマーイケン・フェルヒュルストに連れられてアントウェルペンに移り住むことになったヤン・ブリュゲル1世は、ピーテル・フーキントに師事したのち、1590年にはナポリに滞在している。そして1592年から1594年までローマで暮らしてアスカニオ・コロナ枢機卿の庇護を受け、さらに1596年にはローマで庇護を受けたフェデリーゴ・ボッロメオ枢機卿のミラノの邸宅に住んでいた。すなわち、父の大ブリュゲル、そして母方の祖父、ピーテル・クック・ファン・アールストと同じようにイタリア遊学を果たしたのであった。1596年にアントウェルペンに戻ると、翌1597年に画家組合に加入する。その後、1606年にはブリュッセルの宮廷に迎えられ、いくつもの仕事をこなした。このときのスペイン領ネーデルラントを統治していたのは、スペイン国王フェリペ2世の娘、イザベル・クララ・エウヘニアとその

夫のアルブレヒトであった。ピーテル・パウル・リュベンスをはじめとして多くの芸術家たちを庇護した夫妻である。1610年、ヤン・ブリュエゲル1世はブリュッセルの宮廷に対して思い切った要望を出した。ピーテル・パウル・リュベンスのように宮廷画家に任命してほしいと願い出たのである。残念ながらこの要望はかなわなかったが、税金を減免されるなど、それ相応の待遇を受けるようになった。祖母のマイケン・フェルヒュルストは1600年に没しているので、孫の活躍ぶりを十二分にながめることはできなかったかもしれないが、まさに夫、ピーテル・クック・ファン・アールストの立身出世に準じた地位を得たといえるだろう。

一方、ヤン・ブリュエゲル1世の兄、ピーテル・ブリュエゲル2世は、どのような画業だったのだろうか。森洋子氏は、「ピーテル2世は生涯、外国を知ることなく、アントウェルペンの工房で助手たちと仕事し、他の画家と共同制作をすることもなかった」〔註27〕と述べ、「作品の値段においては、ピーテル2世は生前、死後を通じ、ヤンのそれよりは2,30分の1に過ぎなかった」と続けている。弟とは対照的なつつましい画業であった。

そして、カーレル・ファン・マンデルは「実物に即した作品を制作している」と記していたが、この記述は誤りであった。カーレル・ファン・マンデルは『画家の書』の巻末に本文の訂正をまとめて掲載したが、そこに「第二三四葉表七行目。ピーテル・ブリュエゲル（子）は写生で描いていると誤った情報を得ていたが、実際のところ、たいていは特徴をよくとらえて父親の作品を写し、模倣しているのである。」「〔註28〕と正しているのだ。「実物に即した作品を制作」したのは、弟のヤン・ブリュエゲル1世のほうだったのだろう。兄、ピーテル・ブリュエゲル2世の仕事ぶりを祖母のマイケン・フェルヒュルストがどのように見ていたのかはわからない。しかし、「特徴をよくとらえて父親の作品を写し、模倣」したピーテル・ブリュエゲル2世は、大ブリュエゲルの画業をしっかりと後世に伝えたのである。

- [註1] 「ブリュエゲル展：画家一族150年の系譜」は、東京都美術館（2018年1月23日～4月1日）、豊田市美術館（4月24日～7月16日）、札幌芸術の森美術館（7月28日～9月24日）で開催されたのち、広島県と福島県に巡回する。なお、筆者は、この展覧会の関連事業として2018年7月1日に豊田市美術館で「フランドル・バロックの魅力：ブリュエゲルの子どもたちを中心に」と題した講演を行う予定である。
- 2] Carel van Mander. *Het Schilder-Boeck*. Haarlem, 1604. Fol. 233r-233v. 尾崎彰宏、幸福輝、廣川暁生、深谷訓子編訳『カーレル・ファン・マンデル「北方画家列

伝」注解』（中央公論美術出版、2014年）147ページ。

- 3] ピーテル・クック・ファン・アールストの生涯については、以下の事典を参照した。Jane Campbell Hutchison, Coecke van Aelst. *The Dictionary of Art*. Oxford, 1996. Vol.7, p.518-520.
- 4] Carel van Mander. *Het Schilder-Boeck*. Haarlem, 1604. Fol. 218r-218v. 尾崎彰宏、幸福輝、廣川暁生、深谷訓子編訳『カーレル・ファン・マンデル「北方画家列伝」注解』（中央公論美術出版、2014年）99～100ページ。
- 5] マイケン・フェルヒュルストとの結婚

- の年については、以下のウェブサイト  
を参照した。Explore Mayken Verhulst.  
*RKD - Nederland Instituut voor  
Kunstgeschiedenis*. URL: <https://rkd.nl/nl/explore/artists/342425> (2018年1月7日閲覧)
- 6] ビーテル・クック・ファン・アールスト作《家族の肖像》の詳細については、画像も含めて以下のウェブサイト  
を参照されたい。toegeschreven aan Pieter Coecke van Aelst (I). *RKD - Nederland Instituut voor Kunstgeschiedenis*. URL: <https://rkd.nl/nl/explore/images/39434> (2018年1月7日閲覧)
- 7] マイケン・クックの生年については、以下の事典に掲載された家系図 (895ページ) を参照した。Alexander Wied; Hans J. van Miegroet. Bruegel. *The Dictionary of Art*. Oxford, 1996. Vol.4, p.894-918.
- 8] □ . Verhulst, Mayken. *The Dictionary of Art*. Oxford, 1996. Vol.32, p.254; Jane Campbell Hutchison. Coecke van Aelst. *The Dictionary of Art*. Oxford, 1996. Vol.7, p.518; Alexander Wied; Hans J. van Miegroet. Bruegel. *The Dictionary of Art*. Oxford, 1996. Vol.4, p.895.
- 9] Hessel Miedema. Karel van Mander. *The Lives of the Illustrious Netherlandish and German Painters*. Doornspijk, 1996. Vol.3, p.82.
- 10] Explore Pauwels Coecke van Aelst. *RKD - Nederland Instituut voor Kunstgeschiedenis*. URL: <https://rkd.nl/nl/explore/artists/record?query=pauwel+van+Aelst&start=0> (2018年1月7日閲覧)
- 11] マイケン・フェルヒュルストの生涯については、以下の事典を参照した。□ . Verhulst, Mayken. *The Dictionary of Art*. Oxford, 1996. Vol.32, p.254.
- 12] ロドヴィコ・グイチャルディーニの生涯については、以下の事典を参照した。□ . Guicciardini, Lodovico. *The Dictionary of Art*. Oxford, 1996. Vol.13, p.806.
- 13] Lodovico Guicciardini. *Descrittione di tutti i Paesi Bassi*. Antwerpen, 1567, p.100. 以下のウェブサイトから原典をダウンロードし、試みに訳出した。Descrittione di M. Lodouico Guicciardini patritio fiorentino, di tutti i Paesi Bassi, ...Guicciardini, Lodovico. *AMS Historica: Collezione digitale di opere storiche*. URL: <http://amshistorica.unibo.it/185> (2018年1月7日閲覧)
- 14] シモン・ベニングについては、以下の事典を参照した。Bodo Brinkmann. Bening. *The Dictionary of Art*. Oxford, 1996. Vol.3, p.724-727. レヴィナ・テールリンクについては、以下の事典を参照した。Mary Edmond. Teerlinc, Levina. *The Dictionary of Art*. Oxford, 1996. Vol.30, p.411-412. ヤン・サンドレルス・ファン・ヘメッセンとカタリナ・ファン・ヘメッセンについては、以下の事典を参照した。Burr Wallen. Hemessen. *The Dictionary of Art*. Oxford, 1996. Vol.14, p.379-382. アンナ・デ・スマイテルについては、Digitale Bibliotheek voor de Nederlandse Letteren (DBNL) のウェブサイト ([http://www.dbnl.org/tekst/\\_ver016197401\\_01/\\_ver016197401\\_01.pdf](http://www.dbnl.org/tekst/_ver016197401_01/_ver016197401_01.pdf) 2018年1月7日閲覧) からダウンロードした以下の文献を参照した。Ten geleide. Leven en betekenis van Lucas D'Heere door W. Waterschoot. *Verslagen en mededelingen van de Koninklijke Academie voor Nederlandse taal- en letterkunde*. 1974, p.16-17. また、以下の事典も参照した。Carl van de Velde. Heere de. *The Dictionary of Art*. Oxford, 1996. Vol.14, p.296-297.
- 15] ヤン・デ・ヘーレとルーカス・デ・ヘーレについては、以下の事典を参照した。Carl van de Velde. Heere de. *The Dictionary of Art*. Oxford, 1996. Vol.14, p.296-297.
- 16] 大ブリュージュの生涯については、森洋子氏による以下の詳細な年譜を参照した。森洋子「ビーテル・ブリュージュと二人の息子の年譜」『明治大学教養論集』通巻406号 (2006年) 43～80ページ。
- 17] 森洋子「ビーテル・ブリュージュと二人の息子の年譜」『明治大学教養論集』通巻406号 (2006年) 55ページ。
- 18] Carel van Mander. *Het Schilder-Boeck*. Haarlem, 1604. Fol. 234r. 尾崎彰宏、幸福輝、廣川暁生、深谷訓子編訳『カーレ

- ル・ファン・マンデル「北方画家列伝」  
 注解』（中央公論美術出版，2014年）148  
 ～149ページ。
- 19] ヒリス・ファン・コーニンクスロー 3世  
 とファン・コーニンクスロー一族につい  
 ては、以下の事典を参照した。Jetty E.  
 van der Sterre. Coninxloo, van (i) .  
*The Dictionary of Art*. Oxford, 1996.  
 Vol.7, p.709-712.
- 20] 森洋子「ピーテル・ブリューゲルと二人  
 の息子の年譜」『明治大学教養論集』通  
 巻406号（2006年）64ページ。
- 21] Carel van Mander. *Het Schilder-Boeck*.  
 Haarlem, 1604. Fol. 218v. 尾崎彰宏、幸  
 福輝、廣川暁生、深谷訓子編訳『カーレ  
 ル・ファン・マンデル「北方画家列伝」  
 注解』（中央公論美術出版，2014年）100  
 ～101ページ。
- 22] Alexander Wied; Hans J. van Miegroet.  
 Bruegel. *The Dictionary of Art*. Oxford,  
 1996. Vol.4, p.895.
- 23] ピーテル・フォーキントについては、以下  
 の事典を参照した。Ulrich Thieme and  
 Felix Becker. *Allgemeines Lexikon der*  
*bildenden Künstler von der Antike bis*  
*zur Gegenwart*. Leipzig, 1921. Vol.14,  
 p.318.
- 24] アントニ・ファン・バレルメについては、  
 以下の事典を参照した。Ulrich Thieme  
 and Felix Becker. *Allgemeines Lexikon*  
*der bildenden Künstler von der Antike*  
*bis zur Gegenwart*. Leipzig, 1932. Vol.26,  
 p.158.
- 25] 森洋子「17世紀の“2人のブリューゲル”  
 —ピーテル2世とヤン兄弟の継承と展開」  
 『国際シンポジウム報告書 ヴァン・ダイ  
 クと17世紀のフランドル美術』（日本大  
 学芸術学部芸術研究所，2003年）34ペー  
 ジ。
- 26] 森洋子「ピーテル・ブリューゲルと二人  
 の息子の年譜」『明治大学教養論集』通  
 巻406号（2006年）72～75ページ。
- 27] 森洋子「17世紀の“2人のブリューゲル”  
 —ピーテル2世とヤン兄弟の継承と展開」  
 『国際シンポジウム報告書 ヴァン・ダイ  
 クと17世紀のフランドル美術』（日本大  
 学芸術学部芸術研究所，2003年）27ペー  
 ジ。
- 28] Carel van Mander. *Het Schilder-Boeck*.  
 Haarlem, 1604. Errata. 尾崎彰宏、幸福  
 輝、廣川暁生、深谷訓子編訳『カーレ  
 ル・ファン・マンデル「北方画家列伝」  
 注解』（中央公論美術出版，2014年）355  
 ページ。





「発達障害」・極私論1  
——「世に棲む発達障害者」を視野に入れて——

Notes on Developmental Disorders Part 1:  
A Consideration of Lives of People Living in Society with  
Developmental Disabilities

山川 裕樹

Hiroki YAMAKAWA



# 「発達障害」・極私論 1

## ——「世に棲む発達障害者」を視野に入れて——

Notes on Developmental Disorders Part 1:

A Consideration of Lives of People Living in Society with Developmental Disabilities

山川 裕樹

Hiroki YAMAKAWA

准教授（共通教育センター：心理臨床学・学生相談）

It is highly likely that there are many people in our society who would be diagnosed with some sort of developmental disorder if they were examined, but who can somehow manage to live amongst the people surrounding them. Based on this concept, I discuss developmental disorders not as a singular phenomenon, but as a continuum to our daily life. In this report I present the following two points: 1) developmental disorders as statistical dispersion and 2) developmental possibilities within developmental disorders.

世の中には、発達障害的な特性を持ちながらも、周囲とそれなりに折り合いをつけて生きている人は多くいるのではないか。本稿ではそのことを出発点として、発達障害を特異なものを見なすのではなく、日常と連続線上でとらえると云う観点でとらえて論じてみたい。発達障害を統計的な散らばりとして見るという視点、発達障害の変化可能性を見据える必要性、以上について指摘した。

### はじめに

かなり前のこと、日曜日の昼間にぼんやりテレビを見ていたときのことである。ぼんやりなので番組名も忘れてし正確な発言も再生できない。街の人たちと芸人さんが交流するような関西ローカルの番組でどこかの商店が出てきた。奥さんは如何にも関西の“おばちゃん”的シャキシャキした人で、芸人さんとも対等に渡り合って話すような人だ。その奥さんが旦那（店主）を指してこう云う。「この人、ほんま天然なんよー。注文取りにいったのにすぐ忘れてたり、配達に出かけたのに配達せんと帰ってきたり。ほんま天然で」と笑う。具体的なエピソードについてはうろ覚えなので間違っているかもしれないし、もうちょっと強烈だった気もする。芸人さんが「ご主人、なんでそんなことしはるんですか」と旦那に訊くが、旦那は照れたように頭をかき、顔を逸らしてにやけるばかり。奥さんはそんな旦那の「天然」エピソードを次々開陳する、というものだ。

ひょっとしたら、その旦那さんは「発達障害」と名付けられるかもしれない。注意欠如・多動性障害かもしれないし、自閉症スペクトラム障害かもしれない。いや、こ

れら発達障害には「社会的、職業的、または他の重要な領域における現在の機能に臨床的に意味のある障害を引き起こしている」ともあるし（後述）、それなりに仕事をしておられる方をそう見立てることはできないし、なによりその人物と直接会ったこともないのにそうした診断名を振りかざすのは害こそあれど益はない。だからそのご当人が何らかの「障害」をお持ちかどうかはここでは問題ではない。ここで考えておきたいのは、そういうかたちで周囲との関係を切り結びながら生きていく「市井の人」の存在である。そして、そうした彼らを、「発達障害」として名付けてしまうことの後戻りできなさ、と、そうした彼らを「天然だから」と受け入れる周囲の人たちの生きる姿、なによりもそのことを覚えておかねばなるまい。

そもそも人は一人一人異なる姿をしており、またその中身についても文字通り百人百様である。そうした人を何らかの観点で分けるためにそうした「診断」が用いられる。我々は世界を認識するのに言葉を用いる以上、世界を切り分けるなにかの概念は必要となるが、その診断を実体化することの愚は避けたいものだ。先に見たように、この世に生きる多くの人たちは、専門家の助けなど借りずとも充分ほどよく生きている。そうした人たちにまで診断を振りかざそうとするなら、程なくして次にくるのは優生思想である。

「普通の言語交流とはちょっと変わったコミュニケーションを取る人たち」のことを、「この人天然だから」と片付けて笑いながら生きている人たちがいる。中井(1980)は「世に棲む患者」として統合失調症者の退院後の姿に焦点を当てたが、その羣ひそみに倣えば「世に棲む発達障害者」も当然たくさんいよう。我々専門家は、とりわけ正常からの逸脱よりもこの世に生きる健康さに焦点を当てたい心理臨床家という専門家は、「天然だから」と笑って生きる人たちのありようには当然目を向けねばならない。前置きが長くなったが本稿が目指すのは、そうした「この世の人たち」との関連で考えた発達障害についての私論である。

筆者は長らく、発達障害概念の拡がりには抵抗があった。彼らをすべて「発達障害」との枠組みでくくってしまうことへの抵抗があったのだ。それには、筆者の周囲には（広く捉えれば）そうした特性を持つ愛すべき友人知人が多数いたからであり、筆者が生きる上で親しみを覚えるのはそうした彼らのような人たちだからだ（筆者自身そうした特性と遠からず生きていることも付言して然るべきか）。そうした彼らをすべて「障害」で片付けてしまうことに筆者はかなり抵抗があった。数年前であればこのようなタイトルの論文を書くこと自体筆者には考えられないことだったろう。ただ最近、所謂「定型発達者」とは違うパラダイムで生きる人たちのことをそう名付けてもいいのかもしれない、との思いからその抵抗も薄くなってきた（ただ、口語では「発達障害」よりも「発達系の人」や「非定型発達」などを用いているから、「障害」と名付けることへの違和感はやりはあるのだろう）。むしろ、そういう筆者だからこそできる発達障害論もあるのかもしれない、との思いからこの論を残していこうと思うに至っている。

なお、筆者は心理療法のトレーニングを受け、どちらかと云えば深層心理学的オリ

エンターションでの心理療法・カウンセリング実践を日々行っているものであり、その主フィールドは学生相談である。病態的には様々な学生が訪れており、健康な学生から精神病圏の学生まで、また発達障害の診断がついた学生も当然訪れる。ただし、筆者は「発達障害」について、どこまで専門家と云っていいのかわからないところがある。確かに発達障害傾向の学生は多く訪れており、彼らへの支援は日常的に行っているものの、その専門家かと云われるとやや違うような気がする。発達障害についてその「専門家」が書いた本を多く読んだわけでもないし、私の専門性は主に心理臨床であり学生相談である。その意味で、障害を専門とする中で多く云われている学説と異なるものもあるかもしれない（あるいは何ら新味はないかもしれない）。だから、ここで行うのは、筆者が学生相談で（そして日常の中でも）出会ってきた数多くの人たちの中から考える「発達障害論」である。ただの素朴な実感をまとめたものに過ぎないだろうが、発達障害狂想曲が奏でられる今、筆者のような見方からそれを考えることも必要であろうと思い、管見をまとめておきたいと思う。

本稿では、まず発達障害を概観し、筆者なりの発達障害に関する考えを述べていくこととする。上述した、「世に棲む発達障害者」についてより詳しく考えてみたいのであるが、そうした素描は紙幅の都合から続報に回したい。本稿では各論に入る前段階として、発達障害をどう考えるか、どのように理解していくかについて総論的考えをまとめておくこととする。

## 1. 発達障害の診断基準から

まずここで、発達障害についての定義を確認しておこう。もちろん発達障害と云っても、自閉症スペクトラム障害やADHD、学習障害など含まれるし、それらを網羅するだけでもそれなりの分量になるので、実践上必要となる範囲とする。

現在よく使われる、アメリカ精神医学会の作成によるDSM-5（APA, 2013/2014）では神経発達障害群というカテゴリーがあり、知的能力障害、コミュニケーション障害、運動障害と、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、限局性学習障害があり、おおむね後者の三つ（あるいは学習障害を除く二つ）が「いわゆる発達障害」に含まれる。なお、自閉症スペクトラム障害は、以前は広汎性発達障害と名付けられ、その中に自閉性障害とアルペルガー障害、特定不能の広汎性発達障害、小児期崩壊性障害が含まれていたが（APA, 2000/2002）、現在では知的機能の障害は知的（能力）障害としてチェックすることとし、対人コミュニケーションにおける独特の難しさを自閉症スペクトラム障害としたようだ（つまり従前における（狭義の）自閉症の人たちは、自閉症スペクトラム障害と知的能力障害の両方でチェックされることとなる）。

今現在、実践上よく挙がるのは自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害であるので、この二つの基準について簡単にまとめておこう。自閉症スペクトラム障害は、(1) 相互の対人的・情緒的関係の欠落、(2) 対人的相互反応で非言語コミュニ

ケーション行動を用いることの欠陥、(3) 人間関係を発展させ、維持し、それを理解することの欠陥、この三つを必須条件とするもので、注意欠如・多動性障害は、(1) 不注意（注意が持続しない）、(2) 多動性（落ち着きがない）、(3) 衝動性（思いついたらすぐ行動する）の三つから構成されている。なお自閉症スペクトラム障害の診断基準にも影響を与えた、いわゆる Wing の3つ組（Wing & Gould, 1979）についてもここで参照しておこう（表1）。この表は吉田（2006）を参考にまとめたものである。この定義を見ると、他者とのかかわり、その際に用いることば、ならびに他者の置かれた状況をイメージする際に独特の困難を感じる一群が想像されるであろう。苦手であったり過剰に得意であったり、要は通常からの逸脱に当てはまる人たちがあればこの基準を満たすことは容易にありうる。表1の文言からも、それがなにごしかの特異な才能として（逸脱がプラス方向に評価されて）世に出ることもありうるとの想定があるのが分かるだろう。

表1 ウィングの3つ組

1. 社会性の質的な差異
対人関係がうまくもてない。人とのかかわりが少ない場合もあるが、積極的に（相手のことを考えずに）かかわりを求めていく場合もある。「相手にも都合のあることを知能年齢相応に気づき、相手を快適にさせることを自分自身も楽しく思い、その技術を自然に身に付けて相手とかかわりをもつことの困難」（吉田、2006）。いわゆる「空気を読む」ことが難しい。視線が合わない。ただ、後天的に対人能力を獲得していくこともある。
2. コミュニケーションの質的な差異
言語発達が独特。知っていることばと会話表現でのギャップ。相手に伝えるためのことばになりにくい。言外の意味が取りにくい（文字通り意味を捉えてしまう）、一方的な発話になる、独り言が多い、相手が察することを前提としたつぶやき。CMのコピー（再現）のような、その人なりの言語表現になる場合もある。うなずきや視線、表情などでの表現が乏しい。ただし、こうした独特な言語発達が、特異な能力として発揮される場合も少なくない（小説やエッセイ、哲学など）。
3. イマジネーションの質的な差異
目の前にないものを想像するのがイマジネーション。通常は想定とずれたときも、いろいろ相手の事情などを想像することが可能だが、それが困難である。リセットがきかない、急な変更があると混乱するなどが生じる。やろうと思っていたことができなくなるとパニックになる。限局的な興味関心、柔軟性に乏しい、同じことを何回も繰り返す、道を通るときには必ずルートが決まっている。集めるのが好きなことも。空想ができないわけではなく、空想の発展させるやりかたが独特（それが才能につながる場合も）。

ただししかし注意しておきたいのは、自閉症スペクトラム障害の診断基準の中に、「その症状は、社会的、職業的、または他の重要な領域における現在の機能に臨牀的に意味のある障害を引き起こしている」という基準（基準D）が備えられていることである（APA, 2013/2014）。ADHD もそれとほぼ同様の、「社会的、学業的または職業的機能を損なわせているまたはその質を低下させているという明確な証拠がある」（基準D）という限定がついている（APA, 2013/2014）。これらのことは逆に云えば、「社

会的、職業的」などにおいて「臨床的に意味のある障害を引き起こして」いない場合には、この診断基準が適用されないことになる。つまり、生活上の差し障りがない場合には、自閉症スペクトラム（or 注意欠如・多動性）障害と名付けなくてもいい、と云うことをこの診断基準が示しているのである。

しかしこの診断基準は、「障害があれば障害である」との意であり、同語反復感がつきまとう。そのためここで「障害」という語について少し触れておこう。滝川（2017）は、日本語における「障害」を「こなれの悪いことば」だと指摘している。「英語では defect、difficulty、disability、dysfunction<sup>【註1】</sup>、disorder、disturbance、handicap、impediment などそれぞれちがう意味内容やニュアンスで使い分けられている諸概念に、日本語では一律にこの訳語があてられてきた」。つまり、日本語で「障害」と名づけられる事態はそもそも多様な内実を抱えたままの概念であり、現状それが一律「障害」の名で指し示されているのである。（なお「障害」の「害」の字は「語義的には、①損なう、②妨げる」であり「障害」は②に当たると指摘し、本来は「当事者をおとしめたり傷つける表現ではない」と言及されている（滝川、2017）ことも付け添えておこう。）なお、DSM-5において、先ほどのD基準の「臨床的に意味のある障害」は原文では clinically significant impairment と表記されている。“impairment”は損なう impair から来ており、「損失」と訳してもよからう。辞書では a person with a visual [hearing, speech] impairment を「(遠回しに) 視覚[聴覚、発話]障害者」と書かれており（ウィズダム英和辞典）、日本語での慣用からすると「不自由」とも訳せそうだ。つまり臨床的定義の「障害があれば障害である」は、「損失（不自由）があるから障害（disorder = 調子が崩れた状態）である」という意味であると理解できる。

その特性のために日常生活に何かしらの不自由があるから、それは障害となる。そのことは日常生活に支障がなければ障害とはならないと云うことでもあるが、但し精神科医療に、あるいは学生相談面接に訪れるような、「多かれ少なかれ日常生活に何かしらの支障を感じて専門機関に来談した層」においては、この基準は何ともしがたく満たしてしまう（満たさなければその場を訪れない／訪れたからには満たしたとみなされても仕方がない）。精神科医療が気軽なものとなりアクセシビリティが向上すると、「軽い層でもそのような基準を満たしてしまう」危険性はどうしても高まることを我々は肝に銘じておかねばならない。

## 2. 発達の二軸から見た発達障害

診断基準については以上で確認できた。しかし発達障害という事態をどう理解するかについては、診断名がついたところで何も進むわけではない。診断名というのは、あくまでも現状に生じているなにかしらの事柄に対してある一定のまとまりを持った



名前をつける行為であって、とりわけDSMのような操作的診断はそうである。こうした状態像を呈している人をこのように名付ける、という決まり事を示すものなのだ。

発達障害を別の角度から理解するために、ここで滝川(2017)の説を参照しよう。滝川は人間の精神発達を「認識の発達」と「関係の発達」とに分ける。「認識の発達」とは「世界をただモノとして物質的に知覚してとらえ分けていくのではなく、まわりの人たちが歴史的・社会的・文化的に作り上げて共有している『意味』や『約束』からなる観念の世界としてとらえ分けていくことの発達」であり、「関係の発達」とは「ただモノとしてある環境世界に物質的にかかわることではなく、まわりの人たちと対人関係的・社会的にかかわっていくことの発達」である。認識の発達は、大人たちから教えられることによって知識を獲得していくことから関係の発達に支えられ、関係の発達は、人間の社会的行動の意味を知ることによって関係の理解が深まることから認識の発達に支えられる。この双方が支え合って進んでいくのが人間の精神発達である、というのが滝川(2017)の主張である。

ではそれと発達障害はどのように関連しているのか。関係の発達をX軸に、認識の発達をY軸に取り、この両者を合わせたものが発達のベクトル(Z)となる(図1; 出典は滝川(2017))。しかし発達には個人差があり、早い子どももいれば遅い子どももいる。その散らばりは(ほぼ)正規分布を描く。X軸Y軸それぞれ正規分布を描くので、関係の発達が早くて認識の発達が遅い子どももいるし、両者とも早い子ども、勿論両者とも遅い子どももいる。しかしZへ向かうベクトルが基本存在するので、Z軸を中心にプロットされる。このうち、両者ともおおむね平均的な発達を遂げているものを「定型発達」と呼び、関係の発達はそれなりに持てるが認識の発達が遅いものを「知的障害」、認識の発達はそれなりに持てるが関係の発達が遅いものを「アスペルガー症候群」、両者とも遅いものを「自閉症」と呼ぶ(現行のDSMの診断基準では関係の発達の遅さ

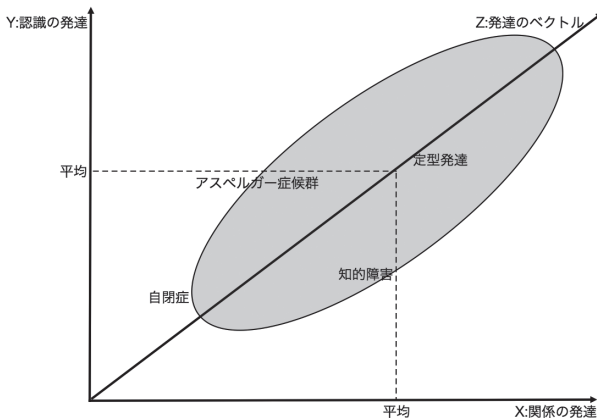


図1 発達の分布と呼び名(滝川(2017)より作図の都合上簡素化)

が総じて「自閉症スペクトラム障害」と名付けられる)。

「スペクトラム」との名付けが示すように、段階をもってなだらかに変化しているのが一人一人の人間であり、そこには様々なレベルのものが存在している。歩みに早い遅いがあるように、関係の発達・認識の発達にも早い遅いがある。なにかの障壁によりその歩みに制限はあるけれども、あるときに急激な進歩を見せることもある。そのような散らばりがあるのが人の発達なのである。そのなだらかなばらつきはなか、程度の著しいものが何かしらの名前がつき、いわゆる「正常」とされる範囲までグラデーションで広がっている。自閉症スペクトラム障害とは、その中でも関係の発達が他者と比して比較的ゆるやかであるものを指すと理解できる。

### 3. 自然で生じる散らばりとして発達障害を理解する

滝川 (2017) の指摘の一番大きなところは、「こうした散らばりは統計的なものである」と云うことだ。サイコロを二個振ったとき、出目の期待値は7であり、2も出るし12も出るが、確率的には頻度が低い。7の出る確率は一番高く、低い極である2、高い極である12にむかってなだらかなカーブを描く。二つのサイコロを振り、2が出た次に2の出る可能性は、当然ながら存在する、が確率は低い ( $1/1296=0.077\%$ )。確率は低い、ある。そうしたことを滝川の説は教えてくれよう。

こう考えたときに、次の発言が如何におかしいものかが理解できよう。「発達障害が増えた」、との時折聞こえる言説である。

発達障害は、脳の機能に起因して起こるものであるという (ただしこれも諸説あり今なお明確な証拠は出ていない)。育て方などではなく、環境などではなく、元々生まれ持ったハードウェアの問題もあって、発達障害が生じる。のだとすると、どうして発達障害が「増える」ことがあるのだろうか。工業製品において、材料も機械もなにも替えていないのに、不良品率が一気に向上するなどということがあるのだろうか (文脈上「不良品」という語を用いたが、筆者は発達障害がそれに該当すると意図しているわけではない。念のため)。いやもちろんそうしたことから「発達障害は環境ホルモンによる」というインチキ学説を敷衍することもないことでもないが、滝川の云う認識機能にしても関係機能にしても、その違いが統計的なばらつきによるものであるならば、その発達のありようが時代によって大きく異なることはありえない。ただもちろん、のちに云うよう発達障害は成長しうるものであるので、時代が変化因となりうる要素もある。そのことは確かなのだが、元々のハードウェアのばらつきに帰因しうる要素については、それが「増える」ことなどありえないのだ。

二個のサイコロで考えたとき、例えば2が出た次に2が出る確率が変わるだろうか？

もちろん、それが何回も連続して起きる可能性も0とは云えない。しかし、それはあくまでも確率的な可能性であり、何回もサイコロを振り続けることによってそれは収束していく。サイコロの出目の確率は、反復されることによってなだらかな正規分

布を描くのである。そうした中で「増える」ことがありえるとしたらそれは何故か。

単純なことだ。今までは2だけを「小さい数」としていたのが、近年3や4、ひょっとしたら5や6までも「小さい数」とするようになった。それしか考えられない。自閉症とされる特徴は以前からさほど変わらないし、確かにDSM-5において大きく改訂されたものの、Wingの3つ組みにしてもその提唱は1979年と既に40年近く経過している（Wing & Gould, 1979）。その意味で、ここ数年（少なくとも10年程度）において線引きが変わったわけではない。だから、それはもう我々の認識にしか求むべきところはない。先ほど云ったように、スペクトラムとはそうした散らばりを指すものであり、連続体を示す名付けである。虹が文化によって色数が異なるように、どこまで赤色と呼ぶか青色と呼ぶか、その極は確かに異なるけれども中間体は微妙になってこよう。今までは紫は紫と認識していたけれども、赤色の認識を広げていくと、紫も充分赤の要素が含まれる。赤の視点からすれば紫も赤の仲間になる。つまりそういうことだ。変わったのは我々の認識なのである。

一臨床家の実感としても、社会的な苦難として認識していた事柄を、本人の持つ固有の特性として認識することが増えている。10年ほど前にお会いしていた学生で、今では発達的なものがベースにあると考える学生は少なからず存在する。つまり、パーソナリティの問題として、あるいは社会的な苦難として捉えていた事象を、本人が持つ特性に帰因させることが多くなってきたのだ。「そういう人が増えた」のではなく、「そういう人だと考えることが増えた」。今までは2でないと小さい数と考えていなかったのに、5や6も小さい数と見なしていいかと思うようになった。あるいは、そういう人の生きづらさを、「元々持っているもの（で変わりにくいもの）」と認識するようになった。二つのサイコロで2がでる確率はかなり低いが、3や4、5、6と平均に近付くにつれその確率は高くなる。つまりそれに属する母集団は多くなる。そのことが、近年の「発達障害が増えた」という認識なのであろう。

#### 4. 「変わらない」という認識、「変わる」という認識

では、この発達障害と認識することが増えたことは何をもたらすのか。

それは、その人の持つ生きにくさをその人だけの問題とせず社会的ハンディキャップと認識することであろう。なにがしかの生きにくさを抱え、適応に苦勞している人は一定の割合存在する。人と同じような生き方ができず、集団適応も難しく、クラスの中で大勢を占める人たちのあいだではひっそりと暮らしながら趣味の話となると生き生きする。守られている感覚が弱く、外界の刺激に対してすぐ反応してしまいあとになって疲れる。そういう「生きにくさ」を、その人が乗り越えるべき課題として捉えるのではなく、その人の元来持つ生きにくさ（特性）と捉え、生まれ持った個性であるとして捉えるのである。

その認識に基づくと、適応すべきは個人の側ではなく社会の側であることになる。

生きづらさを隠しひそひそと生きるのではなく、そうした多様なあり方を認め、そうした人たちでも生きやすくなるよう社会の側に配慮が求められることとなる。彼らの側が無理に合わせる必要がなく、彼らのそのままが認められるようになる。支援の手が差し伸べられるようになる。生きづらさを彼らのせいにするのではなく、社会が彼らの求めるものに追いついていない、という発想になる。

しかし「ありのままを認める」というのは美しい言葉であるが、難しい側面も孕んでいる。なぜならそれは、成長する道を求めないという方向にもつながるからである。

ここでふたたび滝川 (2017) に戻る。『精神発達』には、白紙で生まれた子どもに環境からさまざまなものが描き込まれてその子その子の『個性』がつくられるという古くからのイメージがある。しかし、実際は逆。(略) 生まれ落ちたときがもっとも「個性的」なのである。(引用者註：原文改行) ただ、それらがそのままキープされて成長するのではなく、その個性(生物的な個体差)のばらつきが環境との相互作用によってしだいに均されて、社会的な『平均人』に向かっていくプロセスが定型的な精神発達なのである」(滝川、2017)。イギリス経験論が用いたタブララサのように、白紙の個人にいろいろなものが描き込まれていくのではなく、元々バラバラなものが成長していくにつれて均されていき、共通性を持つ人になっていく。このイメージは人の成長を考える上で極めて大きな示唆を持っている。

個性を大切になど云われるが、生まれ持って人は個性的である。行動主義の源流でもある心理学者 Watson が、子どもを育てるための特殊な環境さえ与えられればその子をどんな専門家にでもしてみせると豪語していたが (Watson, 1930)、同じ大学院にいた子育て経験者からは「Watson は絶対自分で子育てしていない」とのことばが聴かれる (パーソナルコミュニケーション)。保育園の新生児クラスなどを見てみても、子どもたちの個性はそれぞれあり、バラバラなのだ。そのように個性的な子どもを、特殊な環境さえあれば高度な専門家にすることが (果たして實際上) 可能なかどうか。タブララサで生まれつくのではなく、元々がバラバラで個性的な存在が育っていく中で、いわゆる言語に代表される「社会常識」などを身につけていく。ネコを「ネコ」と呼びイヌを「イヌ」と呼ぶ。あるいは英語圏なら “cat” と呼び “dog” と呼ぶ。体内に惹起される得も言われぬ感覚を「オナカスイタ」や「オヤツホシイ」、「サミシイ」、「カナシイ」などとも言い表せるようになる。そのようにして「平均人」(滝川、2017) となっていくのである。

そう考えたときに、「ありのままを認める」ことは、「成長しないままに留め置く」ことを意味するのではないか、との発想も浮かんできて当然だろう。ありのままの子どもであれば、言語習得などしなくてもよい。サリヴァン先生と出会う前のヘレン・ケラーのように、思うままに生きていてもよい。「ありのままを認める」とは、言語未習得のヘレン・ケラーのありかたをよしとすることにもつながっていく。果たしてそれでいいのかどうか。みながみな、「ありのまま」でいいのなら、我々はことばをもつ必要すら存在しないだろう。

これに対しては簡単に答えなど出まい。その子がありのままでいられるように、無理せずに明るく楽しく生きていけるのが一番だ、という考えももちろん正しく、しかし我々は社会で生きる生きものなのだから、その子が困らないよう成長できるところは成長したほうがいいだろう、という考えにも正当性がある。無論これはどちらかを選べというものでもない。ただ、「ありのままを認める」という美辞麗句の影にひそやかに「成長可能性への絶望」が入り込むことには気をつけねばなるまい。

生まれ持った生きにくさであることは理解しつつ、しかし人は成長するものであるのだから、その成長の道のりを支援する。無理せずに明るく楽しく生きることも大切だし、しかし社会の中で生きていくので、社会で通用するような共通言語を育むことも大切。そもそも「ありのままを認める」とことと「成長を信じる」ことは背反ではないのだ。おそらくその両者を揺れ動きながら成長を信じて見守り続けるのが子育てのプロセスである。だから「無理に成長させる」必要もないし、「諦める」のはもつてのほかである。可能性を信じ、かつ現実を見据えることが必要になるだろう。

しかし、この時往々にして無視されがちなのが、「本人がどう感じているか」である。コミュニケーションに課題を抱える人も多いので、本人の意志がなかなか出てこないことも少なくない。出てきたとしても、周囲の心配からはズレていることもある。ただししかしどんなものであっても、「本人がどうなりたいか」に基づかない支援はただの押しつけである。

それは、「本人も荷物を背負う」ことにもつながる。生きにくさを他人が肩代わりするわけにはいかない。勿論障害ゆえの動きづらさをカバーする手段は講じてしかるべきであるが、持てる荷物は持てるようにしないと本人の筋力も衰える。障害に原因を求め本人を免罪するような姿勢も稀にあるが、それが本人の成長可能性を奪うことだってありうる。我々は皆ひとりで生まれ、人とのつながりのなか喜びと悲しみを知り、そしてひとりで死んでいく。我々は一人ひとり違う存在だからこそつながりに喜びが生まれる（そして得られないときに悲しみを抱く）ことを見据えておかねば、本人をいつまで経っても幼子の状態に留めおいてしまう危険性がある。いわゆる合理的配慮において本人との話し合いが重視されるのは、我々が一人ひとり異なる存在であるからだろう。「あなたの生きにくさの中で、配慮できるところはフォローする。しかし、あなたの人生はあなたで背負うものなので、あなたの人生を背負うわけにはいかない」。この当たり前の認識なしに、発達障害を考えることはできない。我々は皆困難に出会い、困難の中自分の生きる術を見出していく。それこそが生きる原点であり、創造性の原点である。生きる上での障壁が多いのも困りものだが、全く障壁がない世の中も生きる手応えが感じられないだろう。発達障害への支援を考える上では、乗り越えられるだけの困難とそこからの成長可能性に目を配ることが実のところ一番必要なのではないだろうか。

## おわりに

幾度となく繰り返しているが、誰一人として同じ人はいない。人は一人一人顔が異なり、姿も異なり、性格も異なる。名前も一人一人違い、生まれ落ちた環境、育った環境、誰一人同じことはない。たとえ親が同じであろうとも、第一子か第二子かでその「環境」は（親の子育て慣れという観点で）微妙に異なるし、経済状況の変化などもありえる。生まれ持ったものも育った環境も、何一つとして同じものはないのである。

本来異なる一人一人を、何かしらの符牒でしかその個性を語れないというのは、果たして豊かなことなのだろうか。好奇心旺盛な子ども、静かな遊びよりにぎやかな遊びを好む子ども、堰堤の片隅で黙々と木の葉をすりつぶして遊ぶ子ども、日がないの行進を眺めて安らぎを感じる子ども、なんてことない石を握りしめてその感触にニマニマする子ども。そうした彼らを、ADHDなりアスペルガーなりの語彙でしか語れないというのは、それを語る我々の側がひょっとして相当貧しい語彙しか持ち得ていないと云うことではないのだろうか。

何か人の生まれ持つての能力・育ちかたに「定型」があり、それから外れたものをすべて「非定型」と名付け、それらは「障害」であるから「支援」が必要で、その「育ち」の「ハンディキャップ」を「支援」する。それは確かに間違っていないし、その取り組みも必要だと思うのだけれども、そういうことばでしか一人一人の違いを語れないのだとすれば、それは如何に多様性が抑圧された社会の中で我々が生きているかをあらわしているのかもしれない。ちょっとした生きづらさを「障害」として扱い「支援」の対象とすることで、一人一人異なるその人のありようを隠蔽し、個性あるその人を「発達障害」のフラッグで覆い隠してしまう可能性だってありうる。そうならないためにも、発達障害という名付けで分かった気にならず、その人の個性に基づいて、個性性をしっかりと眼差しうることを我々は作っていかねばならないだろう。

しかし、それは簡単なことではない。一人一人に焦点が当たるのはいいことだとしてもそれには甚大なるエネルギーが求められる。やはり困ったときには単純なマニュアルがほしくなるのも道理である。先に挙げた「乗り越えられるだけの困難」にしても、どれが乗り越えられるのか、どれだと挫折してしまうのかは実際現場では判断に困るところがある。運良く成長に繋がる困難もあれば、絶望に繋がる困難もある。どれがどうかはやってみないと分からない。

しかし、一つだけ云えることがあるとすると、同じ困難であっても一人で抱えるのと共に考えようとしてくれる人がいるのでは意味合いが異なる、ということだ。うまくいかず一人でうちひしがれるのよりは、うまくいかなかったことを話せるサポーターがいると、気持ちはまだ救われる。時に発達障害傾向の人で、好訴的とも思えるくらいに苦痛を訴える人がいるが、やはり彼らの思いも（一般的なものと異なるとは云え）受け皿を求めているのである。どのようなものであるとしても人とのかつなりのなか

でヒトは人へと育っていくのであり、そうしたつながりの存在こそが第一義なのではなかろうか。

本稿では発達障害に関して、まず診断基準を概観し、滝川 (2017) に基づいて認識の発達と関係の発達の二軸におけるばらつきとして理解する視点を参考に、ばらつきの意味について、そして成長可能性について (とりわけ「ありのまま」に潜む陥穽) 指摘した。文献的参照が多くなってしまい、筆者の論じたい本題にはまだ入れていないのだが、この認識を基盤として第二報に続けていきたい。

[註1] 原文では disfunction とあるが修正した。

## 文献

- American Psychiatric Association (2000). *Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fourth Edition, Text Revision (DSM-IV-TR)*. American Psychiatric Publishing. 高橋三郎・大野裕・染矢俊幸 (訳) (2002). DSM-IV-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル. 医学書院.
- American Psychiatric Association (2013). *Desk Reference to the Diagnostic Criteria from DSM-5*. American Psychiatric Publishing. 高橋三郎・大野裕 (監訳) (2014). DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き. 医学書院.
- 中井久夫 (1980). 世に棲む患者. 中井久夫 (1991). 中井久夫著作集5巻 病者と社会. 岩崎学術出版社.
- 滝川一廣 (2017). 子どものための精神医学. 医学書院.
- 吉田友子 (2006). 自閉症スペクトラム・高機能スペクトラムベック解説用チラシ. <http://i-pec.jp/jiheisp01.html> (2017年12月8日閲覧)
- Watson, J. B. (1930). *Behaviorism* (revised edition). University of Chicago Press.
- Wing, L., & Gould, J. (1979). Severe impairments of social interaction and associated abnormalities in children: Epidemiology and classification. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 9, 11-29.

Building an EFL Course around a Feature-Length  
Film: Exercises to Accompany *Catch Me If You Can*  
and Its Screenplay

三宅キャロリン

Carolyn Miyake





# Building an EFL Course around a Feature-Length Film: Exercises to Accompany *Catch Me If You Can* and Its Screenplay

三宅キャロリン  
Carolyn Miyake

教授（共通教育センター：英語教育・日本学）

This paper is a compilation of the course materials I have designed for EFL students to accompany the movie *Catch Me If You Can* and the DHC Complete Subtitle Series book by the same title, which includes the annotated screenplay and Japanese subtitles for the movie.

この小論は、映画 *Catch Me If You Can* に付随して DHC 株式会社から出版されている DHC 完全字幕シリーズの一編 *Catch Me If You Can* のバイリンガルスクリプトを使って、EFL の学生のために開発し、授業で用いた教材を提示したものである。

## 1. Introduction.

This is the fifth in a series of papers in which I introduce materials to be used with a feature-length film and its bilingual annotated screenplay in an EFL class. (See also Miyake 2010, 2015, 2016, 2017.) Here I will present worksheets that I have written to accompany the movie *Catch Me If You Can* and DHC Publishing Company's screenplay book (hereafter referred to as SP) *Catch Me If You Can* (DHC Corporation 2003). This SP, one of many in the DHC Complete Subtitle Series (DHC 完全字幕シリーズ), includes the movie's complete English script, with stage instructions; the DHC Publishing Company's choice of Japanese subtitles for the movie; and detailed explanations of English words and expressions in the script that are useful for English language learners. The worksheets presented here correspond to a specific range of pages in each of the five chapters in the SP. They are prefaced by an introductory worksheet that explains US banking terminology helpful to understanding parts of the movie. The worksheets are the core of the movie-based courses that I have designed for EFL students at a university of art and design in Japan.

Since the inception of video the substantial body of research attesting to the value of video in second-language learning, from short clips to feature-length films, continues to grow (Nunan 1989, Tomlinson 1998, Sherman 2003). Indeed, I have found that feature-length films provide an excellent platform for the development of

language-learning materials, exercises and projects that can be designed to match the level of nearly any class. Furthermore, in the case of a course built around a feature-length film, the continuity of the story as it unfolds over the semester helps to make the course work more interesting to the learners. The courses I have built around a film and its SP have proven very popular with my students over the years. At the same time, as an instructor I have found these classes especially enjoyable to develop and to teach.

An in-depth explanation of my method of using a film and its SP in a language class and an analysis of some of the different styles of exercises I have written to use with them can be found in the two-part paper titled “Movies in English-Language Teaching: Building an EFL Course around a Feature-Length Film” (Miyake 1999, 2002). Also, a variety of other activities and games that I have designed for use with films are introduced in my “Video-Based Language Learning” series (Miyake 2012, Miyake 2013, and Miyake 2014).

## **2. Excerpt from “Movies in English-Language Teaching: Building an EFL Course around a Feature-Length Film Part I .”**

The following is a revised and abridged expert from “Movies in English-Language Teaching: Building an EFL Course around a Feature-Length Film Part I” (Miyake 1999), which explains my basic design for a class built around a film and its screenplay.

### **Materials**

#### *The movie*

The movie, of course, is the most crucial element to the class. On the topic of selecting a textbook for an EFL class Marc Helgesen wisely advises to “choose it carefully. Nothing can make a year more miserable than having a book that doesn’t work well for you and your students” (Helgesen 1993:47). This holds equally true to the choice of the film to be used in the course...It is important to choose a film that will hold the students’ interest and one whose content will not be offensive to the target group.

The other more vital element to look at in selecting the movie for a class

is, of course, language content. Here I look for vocabulary, phrases, dialogues, and language usage which represent modern spoken English and which can be used to develop a wide array of language-learning activities. One disadvantage to using movies with SPs is that one's choice is limited to only those movies for which SPs have been published, but even so there is quite a wide variety of movies which meet the criteria above to choose from and new SPs are being published regularly.

Regarding the legality of showing these videos in the classroom, a very informative article by Casanave and Simons (Casanave and Simons 1995) helps to clarify this point. They cite Article 38 of the Japanese Copyright Law, which states "a work already made public may be publicly presented, performed, recited or presented cinematographically for non-profit making purposes and without charging any fees to the audience or spectators" (p. 82). This can be interpreted to mean that the showing of pre-recorded videotapes to college students in a university classroom setting does not represent an infraction of the law.

### *Screenplay*

The SP is a book of the complete script of the movie written in both English and Japanese. Written in between the dialogue are brief explanations of what is happening in the scene, such as one would find in the script of a play. The SP also includes notes explaining the significance of certain words and phrases in the dialogue when the meaning of such phrases is not evident through translation alone, as is sometimes the case with jokes, idioms, slang, historical references, and the like. My choice of a book that includes a Japanese translation of the dialogue is deliberate...My purpose in this class is to develop listening and speaking skills, and the SP provides a sort of database from which classroom activities can be developed. For large classes of students with varying ability levels, beginning with a shared understanding of the dialogue in the movie allows the conversational activities to progress more smoothly. Students are more than sufficiently challenged linguistically by the worksheets and printouts that they are given to complement the SP. (For a discussion of the importance of comprehensible input in second language acquisition see Krashen and Terrell [1983].)

### *Worksheets and printouts*

The printouts and worksheets are an integral element of the course. The worksheets are designed to help the students assimilate the language used in the movie and to give them opportunities to work with useful vocabulary, phrases, and language structures in the movie and SP. The type of exercises I use on the worksheets and the number of worksheets I provide vary from unit to unit, but for each unit I always begin with a list of what I feel are the most useful phrases for the students to know from that part of the movie based on my knowledge of current language usage in the United States. In subsequent sections of the worksheets I include exercises designed to give students further practice in using the vocabulary and expressions introduced in the first section of useful phrases.

I also introduce the students to various aspects of American culture by means of printouts that I prepare periodically. In these printouts I either reproduce or summarize information which I have found on the Internet or in TV reports, newspapers, magazines, or books that is relevant to a particular aspect of culture which we have been exposed to in the movie and which we have discussed in class. This provides the students with an opportunity to study from realia and gives them an up-to-date look at various facets of modern American society.

### *Notebooks*

In addition to these materials, students are required to keep an A-4 sized notebook into which they put the printed materials that I give them, write-ups of group work, notes which they take in class, and any other work they do that is relevant to the class. I collect these notebooks periodically to make sure the students are keeping up with their work and to give them feedback on their written assignments. Since we refer to previous worksheets regularly throughout the year, I emphasize to the students the importance of keeping their printouts and worksheets in chronological order in their notebooks and bringing their notebooks to class with them every week (Miyake 1999).

### 3. *Catch Me If You Can* worksheets.

The following is the complete set of worksheets that I wrote to accompany the movie *Catch Me If You Can* and DHC Publishing Company's SP for that movie. The materials consist of an introductory worksheet about banking in the US; a set of worksheets to accompany each of the five chapters in the SP; and a review worksheet. I designed these materials for a class of intermediate-level students but they can easily be adjusted to suit students at other levels.

## Introduction: US Banking Terminology

### I. Useful Phrases

1. to cash a check (v.) 小切手を現金化する
2. a checkbook (n.) 小切手帳
3. a check bounces 小切手が不渡りとして戻ってくる
4. a checking account (n.) 当座預金
5. a savings account (n.) 普通口座
6. to be overdrawn (v.) 貸し越す
7. insufficient funds 資金不足
8. account number (n.) 口座番号
9. to deposit money in a bank (v.) 銀行に預金する
10. to withdraw one's money from a bank (v.) 預金を引き出す
11. to earn interest 利子がつく
12. to pay your bills (請求) 料金を払う
13. amount 額

### II. Savings Accounts and Checking Accounts

In general, when you open a savings account, you put your money in the bank to save it and to earn interest. With a checking account, you put money into an account and then write checks on that account to pay your bills and to buy things at the store.

When you open a checking account, the bank will make personalized checks for you. The name of your bank, your name and address, and your account number are printed on each check. These checks come in groups of fifty. You carry them in a

checkbook. When you write a check, the amount of money you write the check for must already be in your checking account. If you write checks for an amount of money that is more than what you have in your account, your account will be overdrawn. If your account is overdrawn, you have spent more money than you have in the account. For example, if you write a check to a store for \$50.00 but you only have \$30.00 in your checking account, your account will be overdrawn by \$20.00. In this case, we say that you have insufficient funds in your account to cover the check, and the check will bounce. A check that bounces is called a bad check.

To deposit money into your account means to put money into your checking or savings account. To withdraw money from your account means to take money out of your account. If someone writes you a check, you can take the check to a bank where you have an account and your bank will cash the check for you. Before you can deposit the check you must endorse it. To endorse a check means to sign your name on the back of the check. If you need cash, you can write a check and ask a store or bank to give you cash for the amount of the check. Changing a check for cash is called cashing a check. Most stores will not cash personal checks because they fear that the check may bounce.

- Note: 1) A teller is someone working at a bank who receives and pays out money.  
2) Funds means money.  
3) These days most people who do not wish to pay with cash use credit cards or debit cards rather than writing checks for purchases. Furthermore, as online banking has become the norm, checks are used far less frequently today than they were at the time this movie takes place.*

### III. Banking Expressions

I'd like to cash this check. / Would you please cash this check for me?

May I pay by check?

I'd like to deposit my paycheck.

**IV. Application of Banking Terms:** Look at Exercises 1 and 2. Write your answers to the questions below on a separate sheet of paper

1. What does a teller do? (What is a teller's job?)

2. a. What does “insufficient” mean, too much or too little?  
b. What does “sufficient” mean, enough or not enough?
3. What is another word for “funds” in English?
4. If a checking account is overdrawn, what is the problem?
5. If someone says their check has bounced, what has happened?
6. How do you endorse a check?
7. What is a checkbook used for? (What does a checkbook hold?)
8. When you put money into your bank account, you \_\_\_\_\_ money into the account.  
When you take money out of your bank account, you \_\_\_\_\_ money from your account.
9. If you write a check to someone but you don't have any money in your checking account, you have written a \_\_\_\_ check and the check will \_\_\_\_\_.
10. When you cash a check, you write a check out for a certain amount and the store or bank gives you \_\_\_\_\_ for the amount of the check you wrote.

### Chapter One: Just Write Down a Name Part One (pp. 42-63)

**I . Vocabulary: Find the following words and phrases in your book and underline them. Then fill in the blanks in 1-11 below.**

- 1) slot 2) con man 3) daring 4) pediatrician 5) in all fifty states 6) badge 7) briefcase  
8) stool 9) corridor 10) cell 11) impersonate (v.) 12) obviously 13) prison guard

1. A businessman carries his papers in a \_\_\_\_\_.
2. Another way to say “everywhere in the US ” is \_\_\_\_\_.
3. The person in a jail who watches the inmates (that is, the people locked in the jail cells) is called a \_\_\_\_\_.
4. A seat (chair) with legs but with no support for the arms or back is a \_\_\_\_\_.
5. To pretend to be someone you aren't is to \_\_\_\_\_ (v.) someone.
6. A small room in a prison that a prisoner is locked up in is called a \_\_\_\_\_.
7. Another word for hall or hallway is \_\_\_\_\_.
8. A doctor who specializes in treating children is called a \_\_\_\_\_.
9. The long, narrow hole in Frank's prison door is called a \_\_\_\_\_.
10. A person who tricks other people into giving them their money is a \_\_\_\_\_.



11. A person who fearlessly takes risks is \_\_\_\_\_.

## II. Comprehension Questions

1. Who is Carl Hanratty talking to in front of the prison?
2. Where is Frank Abagnale Jr. when Carl is talking to him?
3. Why does Carl need an umbrella inside the building?
4. Why does Carl call for a doctor?
5. Why do the prison guards carry Frank out of his cell?
6. Why do the prison guards wash their hands?
7. What does Frank do while the guards are washing their hands?

## III . Discussion Points: Write your answers, then ask and answer with a partner.

1. Frank Abagnale Jr. was an outrageous imposter. Spielberg explains on page 16 that he was an imposter too once when he was young. Explain who Spielberg impersonated and why.
2. Have you ever pretended to be someone you weren't? Explain.
3. Have you or anyone you know ever been conned? Explain.
4. One review of this movie notes that "the opening credits are some of the most creative I've seen in a long time - a fun blend of sixties jazz and cartoon frolic." What did you think of them?
5. "To Tell the Truth" was a popular television game show in the 1960's. Are there any television game shows that you like to watch?

## Chapter One: Just Write Down a Name Part Two (pp. 64-79)

### I . Vocabulary Building

A. Make sentences to describe scenes in the movie using these verbs. You can use the verb in any tense you choose.

Ex. 1: gesture

Frank Sr. gestures to Frank Jr. to stand up, but Frank Jr. is shy and remains seated.

Ex. 2: crawl

Frank Jr. crawled out of the infirmary and along the prison floor in his attempt to escape.

1. peel off
2. applaud
3. shake hands
4. smoke a cigarette
5. stand up
6. embrace
7. giggle
8. hang
9. cram (NOTE: 塾 is called a “cram school” in English because you cram facts into your head there.)
10. spill

**B. Look up the meaning of the words below from the story of the two little mice.**

bucket; give up; drown; quit; struggle; eventually; turn something into something; crawl

## II . Dictation: Two Little Mice

**A. This is the story of the two little mice that Frank Sr. tells in his speech to the Rotary Club. Cover Part B below. Now listen as your partner reads the story of the two little mice and fill in the missing words. When you finish you will read the story to your partner and your partner will fill in the missing words. This dialogue is on page 70 in your book.**

- 1) Two little \_\_\_\_\_ into a \_\_\_\_\_ of \_\_\_\_\_.
- 2) The \_\_\_\_\_ quickly \_\_\_\_\_ and \_\_\_\_\_.
- 3) The \_\_\_\_\_ mouse \_\_\_\_\_.
- 4) He \_\_\_\_\_ so \_\_\_\_\_ that \_\_\_\_\_ he \_\_\_\_\_ that \_\_\_\_\_ into \_\_\_\_\_ and \_\_\_\_\_ out.
- 5) Gentleman, as of this moment, I \_\_\_\_\_ that \_\_\_\_\_ mouse.

**B. Dictate the five lines below to your partner. Make sure your partner is not looking at the story as you read!**

- 1) Two little mice fell into a bucket of cream.
- 2) The first mouse quickly gave up and drowned.
- 3) The second mouse wouldn't quit.
- 4) He struggled so hard that eventually he turned that cream into butter and crawled out.
- 5) Gentleman, as of this moment, I am that second mouse.

### **III . Comprehension Questions**

1. What is Frank Abagnale Sr. receiving at the award dinner? Why?
2. What is the difference between "stationary" and "stationery?"
3. What kind of store does Frank Sr. own?
4. What is Frank Jr. doing at the table while the speaker is introducing his father?  
(Use "peel off" in your answer.)
5. In his speech, why does Frank Sr. compare himself to the second mouse in the fable he tells?
6. What is Frank Sr. doing while Frank Jr. dances with his mother?
7. What is the title of the song that Frank Jr. and his mother are dancing to?
8. Where and when did Frank Jr.'s parents meet?
9. Why does Frank Jr.'s mother ask him to go get a cloth (= towel)?
10. What does Paula call Frank Jr.?

NOTE: In English you can add "y" or "ie" to the end of some words to make them "cute," usually when speaking to children. For example, when speaking to children, "kitten" become "kitty," "toilet" is "potty" (from "pot," which is slang for toilet), and blanket is "blankie." We also add "ie" or "y" to the end of names to show affection for the person we are talking about, or because the person is a baby or small child. Thus, for example, "Frank" becomes "Frankie," "John" becomes "Johnnie" and "Nicole" becomes "Nicky."

## Chapter One: Just Write Down a Name Part Three (pp. 80-147)

### I . Underline the phrases below in your book.

1. pedestrians; traffic; fire hydrant (p. 86)
2. Don't hit the curb. (p. 86)
3. Frank Sr. lifts a spatula as he flips a pancake at the stove. (p. 100)
4. Frank flips through the checkbook. (p. 100)
5. I'm used to it. (p. 104)
6. Frank tosses the cigarette out the window. (p. 104)
7. I always sub (v.) for Roberta. (p. 112)
8. attendance (p. 114)
9. Your son has been pretending to be a substitute teacher. (n.) (p. 114)
10. Mrs. Glasser has been ill and there was some confusion with the real sub. (p. 114)
11. a teacher / parent conference (p. 116)
12. a field trip (p. 116)
13. It's a fake, right? You should fold it. (p. 116)
14. If it's real, where's the crease? (p. 118)
15. I asked her out today. (p. 120) (to ask someone out)
16. I think we'll go to the junior prom. (p. 120)
17. Ma, is this my driver's license? (p. 120)
18. I gave him a tour of the apartment. (p. 122)
19. It's very spacious Paula. (p. 122)
20. You promised you were going to quit. (p. 130)
21. Stay away from me! (p. 132)
22. Frank, calm down, will you? (p. 132)
23. Leave your things here. (p. 132)
24. You don't have to be scared. (p. 132)
25. Dad, what's going on? (p. 136)
26. Your father and I are getting a divorce. (p. 138) (to divorce; to get a divorce)
27. Take your time. (p. 142)
28. Frank runs left on the sidewalk. (p. 142)
29. Don't look so scared. (p. 144)
30. Is it okay if I write you a check? (p. 146)

## II . Comprehension Questions

### ***Frank Sr. and Frank Jr. go to the bank***

1. Why did Frank Jr. ask if it was snowing outside?
2. What was on the table next to Frank Jr.'s bed?
3. How did Frank Sr. convince the salesclerk, Darcy, to loan his son a suit?
4. What was written across the real estate sign on the lawn of the Abagnale's house? (p. 94)
5. What did Frank Sr. take out of his briefcase and give to Frank Jr. on his birthday?
6. How much money did Frank's father deposit in Frank's account?
7. Did all of the banks turn down Frank Sr.'s request for a loan? Name one of the banks.

### ***Frank Jr. at school***

8. What did Frank say to his mother when she started to light a cigarette, and what did he do with the cigarette?
9. Why did the students say that Frank looked like an encyclopedia salesman? (Hint: Look at what he is wearing and what he is holding.)
10. Who did Frank impersonate in the French class?
11. What did the high school principal tell Frank's parents that Frank did with the French class while he was pretending to be their substitute?
12. Why did Frank tell the girl in the office that she should fold her note?

### ***Frank Jr. in the apartment with his mother***

13. What did Frank Jr. get in the mail? (What was in the envelope he opened?)
14. How can you tell that Frank Jr. is upset about Barnes' visit to his mother?
15. How did Paula bribe Frank Jr. to keep him from telling his father about Barnes' visit?

### ***Frank Jr. in the apartment with his parents, grandmother and the lawyer***

16. What was the decision that Paula told Frank Jr. he had to make?
17. Why was Frank confused when Mr. Kesner told him to write down a name?
18. Why do you think Frank ran away?

III . A) Fill in the blanks in 1-22 below with an underlined word or phrase from Exercise I, 1-15. Choose a word that has the same or almost the same meaning as each expression below. You will use one of the words twice.

1. pretend, not real \_\_\_\_\_

2. I'm accustomed to it. \_\_\_\_\_
3. to fill in for someone temporarily \_\_\_\_\_
4. sick \_\_\_\_\_
5. to ask someone to go on a date \_\_\_\_\_
6. a line of concrete forming the edge of the sidewalk next to the road \_\_\_\_\_
7. a misunderstanding of the facts \_\_\_\_\_
8. a talk between a pupil's parents and his instructor about the pupil's progress at school \_\_\_\_\_
9. to bend something thin and flat over on itself \_\_\_\_\_
10. genuine; not fake \_\_\_\_\_
11. throw \_\_\_\_\_
12. a teacher who works temporarily in place of another who cannot come to work \_\_\_\_\_
13. people walking on the streets and sidewalks \_\_\_\_\_
14. to turn the pages of a magazine or book quickly \_\_\_\_\_
15. the act of regularly going to school or classes \_\_\_\_\_
16. a flat, flexible utensil with a handle used to lift something from a fry pan \_\_\_\_\_
17. a straight line formed in paper by folding, or in fabric by pressing \_\_\_\_\_
18. to act in a way meant to make people believe something untrue about yourself \_\_\_\_\_
19. the movement of vehicles (cars, trucks, motorcycles, etc.) along the road \_\_\_\_\_
20. to quickly turn something from one side to the other \_\_\_\_\_
21. an upright pipe in a street connected to a water main, with a valve that a hose can be attached to \_\_\_\_\_
22. an outing with a class of students \_\_\_\_\_

**B) Fill in the blanks in 23-36 with an underlined word or phrase from Exercise I, 16-30.**

23. Another way to say "What's happening?" is \_\_\_\_\_
24. A \_\_\_\_\_ is a paved path for pedestrians alongside the street.
25. Another way to say "There's no need to be frightened" is \_\_\_\_\_
26. Another way to say "Put your stuff here" is \_\_\_\_\_
27. Another way to say "You told me you'd do such and such" is \_\_\_\_\_
28. Another way to say "Do you mind" is \_\_\_\_\_.
29. A document required to drive a car or motorcycle on public roads is called a \_\_\_\_\_

30. The legal termination of a marriage is called a \_\_\_\_\_
31. When you show people around your home you give them a \_\_\_\_\_ of your place.
32. The \_\_\_\_\_ is a formal dance held once a year at high schools.
33. A phrase meaning “settle down” or “don't get upset” is \_\_\_\_\_
34. Another word for roomy is \_\_\_\_\_.
35. Another way to say “Don't come any closer” is \_\_\_\_\_
36. Another way to say “There's no rush” or “You don't have to hurry” is \_\_\_\_\_

## Chapter Two: I'll Get It All Back Part One (pp. 152-188)

### I . Underline the following phrases in your book.

1. When do I get to call my father? (= When can I call my father?) \*
2. When we get to New York. (“Get to” here means “reach” or “arrive in/at”)
3. It's the best room the FBI can afford. (EX: I can't afford to go abroad this summer.)
4. Two checks bounced. (= You bounced two checks.)
5. He cuts out the name with a pair of scissors. (p.158)
6. We can't cash checks from other banks. How would we know if they were good? (A check that bounces is called a bad check.)
7. (Do you know what I found on the sidewalk? (Do you know what I saw on TV last night? OR Do you know what I bought yesterday? = “Guess what I bought yesterday?” etc.)
8. It's my midterm next week and my books were stolen. (I have midterms next week. / I have final exams in January.)
9. flight attendants (p.162)
10. Can I have your autograph?
11. I've applied to a big airline and I have promising interviews lined up.
12. receptionist (p.168)
13. I have an appointment with Mr. Moran.
14. You're the young man who's writing the article for the school paper.
15. a Pan Am employee (An employee is a worker, and an employer is the person or company that the employee works for.)
16. What does a pilot make in a year? (make = earn EX: “How much do you make an hour at your part-time job?” = “How much money do you earn an hour at your part-time job?”)

17. ID badges (ID stands for identification. If you want to cash a check, you will have to show picture ID-that is, an ID card with your picture on it, such as your driver's license or your passport.)
18. I'm calling about a uniform. (This means, "I'm calling to ask you about..." For example, "I'm calling about your ad in the newspaper." OR "I'm calling about the party next week.")
19. full-length mirror; cuff (v.) (p.174) (Cuff is also a noun.)
20. Fill in your employee ID number. I'll bill Pan Am and they'll take it out of your next paycheck.
21. I'm trying my best not to be afraid.

\* Note: "Get to" is used in speaking about getting permission (or a chance) to do something you want to do, or something that you're looking forward to doing.

EX: I get to study in London this summer with a group of students from my university.

(This means that you are going to London and you are looking forward to it.)

"Have to" is used in speaking about obligation. Maybe this is something that you don't want to do, or maybe it is something that you do want to do, but either way, you have no choice.

EX: I have to study in London this summer with a group of students from my university.

(The nuance here is that you don't really want to go to London to study, but you must. If you were looking forward to going you would usually say, "I get to go to London," or simply "I'm going to London.")

"To let someone do something" is to allow someone to do something they want to do.

EX: My dad let me use his new car. / My parents won't let me study in London this summer.

## II . Comprehension Questions

1. What is the difference between "get to" and "have to?"
2. What are FBI agents Fox and Amdursky doing at the table in the hotel room?
3. How do you know that the FBI agents are working on a tight budget?
4. Why was Frank thrown out of the Times Square Hotel?



5. What changes does Frank make to his driver's license? Why?
6. List three excuses that Frank uses when he tries to convince the bank tellers to cash his checks.
7. Why does Frank pretend that he is a high school student writing an article about pilots?
8. Frank calls Pan Am about his uniform. What excuse does Frank use for needing a new uniform?
9. The uniform supplier asks Frank why he seems so nervous. What explanation does Frank give the supplier for being nervous?
10. Why do you think that Frank lies to his father in the postcards he sends to him?
11. The bank manager at New York Savings and Trust doesn't recognize Frank. He shakes Frank's hand and thanks him for using his institution. Why is he so friendly to Frank?

### III . About You

1. If you could afford to travel anywhere in the world over summer vacation where would you want to go? Why?
2. Have you ever had a job interview? When? Did you get the job?
3. a) Have you ever asked anyone for their autograph? If so, who? b) Whose autograph would you most like to get?
4. How much money do university students in Japan usually make an hour doing a part-time job?
5. What is something you're trying your best to do this year?

### IV . Fill in the blanks below using the underlined words in Exercise I , 1-21.

1. Another way to say arrive is \_\_\_\_\_.
2. Another way to say "earn money" is \_\_\_\_\_.
3. If you don't have enough money to do something, you can't \_\_\_\_\_ to do it.
4. To write something in blank spaces on a form is to \_\_\_\_\_ the form.
5. A person working for a company is an \_\_\_\_\_ of that company.
6. An \_\_\_\_\_ is the person or company that someone works for.
7. When you ask a well-known person or someone you admire to write their signature on something for you to keep, you are asking for that person's \_\_\_\_\_.
8. A short written piece published in a newspaper or a magazine is called an \_\_\_\_\_.

9. A test halfway through the semester is called a \_\_\_\_\_.
10. An employer writes a \_\_\_\_\_ to the company employees every week or once a month to compensate (pay ) the employees for their work.
11. An \_\_\_\_\_ is an arrangement to meet someone at a particular time.
12. A two-bladed instrument with a handle, usually used for cutting paper and thin items, is called \_\_\_\_\_.
13. If you have permission to do something you want to do you say, "I \_\_\_\_\_ to do such and such." If there is something you must do that you don't really want to, you say "I \_\_\_\_\_ to do such and such."
14. A word meaning stewardess or steward is \_\_\_\_\_.
15. An employee who greets visitors, customers, or patients, answers the telephone, and makes appointments is a \_\_\_\_\_.
16. If something is taken from someone without the owner's permission it is \_\_\_\_\_.
17. If there are not sufficient funds in your account to cover a check you write, that check is a bad check and it will \_\_\_\_\_.

V . Pretend that you are going from bank to bank trying to get a bank teller to cash a check for you from another bank. Go to three different banks. Make up a different excuse at each bank. Write the conversations between you and each bank teller.

VI . Describe one of your favorite scenes in the movie so far.

VII . Your partner will dictate these conversations from Chapter Two. Listen and fill in the blanks. These conversations are between pages 152 and 162 in your book.

1) **Frank:** When do I \_\_\_\_\_ to \_\_\_\_\_?

**Carl:** When we \_\_\_\_\_ to New York. We \_\_\_\_\_ for the airport \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_, \_\_\_\_\_, \_\_\_\_\_, \_\_\_\_\_.

**Frank:** \_\_\_\_\_ they've \_\_\_\_\_ suites that \_\_\_\_\_ \_\_\_\_\_.

**Carl:** \_\_\_\_\_.

**Frank:** It's okay. \_\_\_\_\_.

2) **Frank:** Please, you have to \_\_\_\_\_.

**Hotel Manager:** I don't want to \_\_\_\_\_.

**Frank:** The bank \_\_\_\_\_. I'll \_\_\_\_\_ you another check \_\_\_\_\_.

---

3) **Hotel Manager:** \_\_\_\_\_?

**Frank:** It's midnight. \_\_\_\_\_?

**Hotel Manager:** You're just a kid. \_\_\_\_\_.

---

4) **Ashley:** We can't \_\_\_\_\_. How would we \_\_\_\_\_ if \_\_\_\_\_?

**Frank:** \_\_\_\_\_?

**Ashley:** Ashley.

**Frank:** (Do) you \_\_\_\_\_ what I \_\_\_\_\_? (It) must have \_\_\_\_\_.

**Bank Manager:** Is there \_\_\_\_\_ son?

---

5) **Frank:** \_\_\_\_\_ and I want to \_\_\_\_\_.

**Frank:** \_\_\_\_\_ and my books were \_\_\_\_\_.

**Frank:** Just \$5. \_\_\_\_\_.

**Female Bank Teller:** I'm sorry but \_\_\_\_\_ checks from \_\_\_\_\_.

---

**VIII . Fill in the blanks with the verbs below. Do not look in your books. You can use some verbs more than once. Check your answers with the book or Exercise VII when you're done. These conversations are between pages 152 and 162 in your book.**

1. write 2. call 3. afford 4. go (x2) 5. get (x3) 6. know (x4) 7. listen 8. slipped  
9. made 10. allowed 11. want 12. leave 13. look 14. be 15. say 16. sit 17. cash  
18. stolen 19. stayed 20. bounced 21. were 22. found 23. got 24. hear 25. born  
26. was 27. help 28. is 29. take

**Frank:** When do I \_\_\_\_\_ to \_\_\_\_\_ my father?

**Carl:** When we \_\_\_\_\_ to New York. We \_\_\_\_\_ for the airport in seven hours. Until then, \_\_\_\_\_ there. \_\_\_\_\_ quiet.

**Frank:** On the other side of the hotel they've \_\_\_\_\_ suites that face the park.

**Carl:** It's the best room the FBI can \_\_\_\_\_.

**Frank:** It's okay. I've \_\_\_\_\_ in worse.

**Frank:** Please, you have to \_\_\_\_\_.

**Hotel Manager:** I don't want to \_\_\_\_\_ your story. Two checks \_\_\_\_\_.

**Frank:** The bank \_\_\_\_\_ the mistake. I'll \_\_\_\_\_ you another check right now.

**Hotel Manager:** Do I \_\_\_\_\_ like I was \_\_\_\_\_ yesterday?

**Frank:** It's midnight. Where will I \_\_\_\_\_?

**Hotel Manager:** You're just a kid. \_\_\_\_\_ home.

**Ashley:** We can't \_\_\_\_\_ checks from other banks. How would we \_\_\_\_\_ if they \_\_\_\_\_ good?

**Frank:** What did you \_\_\_\_\_ your name \_\_\_\_\_?

**Ashley:** Ashley.

**Frank:** (Do) you \_\_\_\_\_ what I \_\_\_\_\_ on the sidewalk? (It) must have \_\_\_\_\_ right off your neck.

**Bank Manager:** \_\_\_\_\_ there something I can \_\_\_\_\_ you with son?

**Frank:** It's my grandmother's birthday next week and I \_\_\_\_\_ to \_\_\_\_\_ her something special.

**Frank:** Please, it's my midterm next week and my books were \_\_\_\_\_.

**Frank:** Just \$5. No one would have to \_\_\_\_\_.

**Female Bank Teller:** I'm sorry but we are not \_\_\_\_\_ to \_\_\_\_\_ checks from people we don't \_\_\_\_\_.

## Chapter Two: I'll Get It All Back Part Two (pp. 188-271)

### I . Useful Phrases

1. Who cashes checks at the airport? (p. 194)
2. Today was graduation. (p. 200)

3. I am now a co-pilot earning \$1400 a month, plus benefits. (to earn money) (p. 202)
4. drink cart (p. 202)
5. I'd like to cash this check...and then take you out for a steak dinner. (cash a check) (p. 208)
6. The remote thing is broken. You'll have to do it by hand. (p. 214)
7. This carousel doesn't work. (p. 214)
8. Move it manually. ("manually" means "by hand") (p. 214)
9. Have you gotten the postcards? (Did you get my e-mail?) (p. 22)
10. This fork is ice cold. (p. 222)
11. No dad, that's a chilled salad fork. (p. 222)
12. convertible (p. 224)
13. I have plenty of money. (plenty of = more than enough) (p. 226)
14. I think that calls for a toast. (p. 228) (Let's make a toast to your new job!)
15. windshield (Windshield wipers are used to keep rain off of the windshield.) (p. 232)
16. That's a funny story. People always laugh at that story. (p. 234)
17. I screwed up in the field. (to screw up) (p. 234)
18. Does it bother you? (p. 234)
19. blind man (p. 240)
20. Drop it! (p. 250)
21. He jumped right through the window, onto the hood of my car. (The hood covers the engine of the car. The trunk is the storage space in the back of the car.) (p. 254)
22. LAPD should be here any sec. ("Sec" is short for "second." "Any sec" means "any moment" or "very soon." LAPD stands for Los Angeles Police Department. NYPD stands for New York Police Department.) (p. 258)
23. Your wallet. (p. 260)
24. Hang onto it for a minute. I trust you. (In this sentence "hang onto" means "keep.") (p. 260)
25. Just don't put yourself in this type of position.  
What type of position?  
The position of being humiliated. (p. 266)
26. I'm not in the mood for this right now. ("He's in a good mood today." "He's in a bad mood today." A moody person is someone who is often in a bad mood, or someone whose moods often change.) (p. 268)

**II . Application of Useful Phrases: Fill in the blanks below using the underlined words in Exercise I .**

1. An expression meaning “extremely cold” is \_\_\_\_\_.
2. Another way to say “Don’t put this down!” or “Keep this!” is \_\_\_\_\_.
3. If a person cannot see, that person is \_\_\_\_\_.
4. Things are \_\_\_\_\_ in the refrigerator so that they will be cold when we use them.
5. A car with a top that can be pulled back is called a \_\_\_\_\_.
6. If you do something manually, you do it \_\_\_\_\_.
7. Students usually carry their money, driver’s license, and student ID card in a \_\_\_\_\_.
8. \_\_\_\_\_ means to make a mistake.
9. Another way to say, “Does it annoy you?” is \_\_\_\_\_?
10. If someone has done something that makes you feel ashamed or stupid, they have \_\_\_\_\_ you.
11. When you raise your glass and drink to honor someone or to celebrate some event you \_\_\_\_\_ to that person or event.
12. When you ask a bank teller or hotel clerk to exchange your check for money, you are asking them to \_\_\_\_\_.
13. Another way to say “many” is \_\_\_\_\_.
14. Another way to say “to make money” is to \_\_\_\_\_ money.
15. Another way to say “put it down” is \_\_\_\_\_.
16. If something is not functioning properly you say it \_\_\_\_\_.

**III . Put the following events in the proper sequence.**

- \_\_\_\_\_ Frank leaves the room with the encoder under his arm.
- \_\_\_\_\_ Frank hands Hanratty his wallet.
- \_\_\_\_\_ Frank walks out of the bathroom drying his hands.
- \_\_\_\_\_ Hanratty barges into Frank’s hotel room.
- \_\_\_\_\_ Hanratty asks Frank to show him his ID.
- \_\_\_\_\_ Hanratty pushes in the door to Frank’s room.
- \_\_\_\_\_ Hanratty sits on Frank’s bed and opens his wallet.
- \_\_\_\_\_ Frank asks to see Hanratty’s ID.
- \_\_\_\_\_ Frank says hello to Mr. Murphy on the stairway.
- \_\_\_\_\_ Hanratty realizes that Frank was impersonating a Secret Service agent.

- \_\_\_\_\_ Frank introduces himself to Hanratty as US Secret Service agent Barry Allen.
- \_\_\_\_\_ Hanratty shows the maid in the hallway his FBI badge.

### Vocabulary list for Exercise III

- to barge in: to enter suddenly  
to hand something to someone: to give something to someone  
to realize: to become aware of something  
a pistol: a hand gun

### IV . Knock Knock Jokes (See p. 236 in your book for a crude knock-knock joke.)

Knock is the sound or action of hitting a door with your fist. You knock on a door when there is no doorbell. If there is a doorbell, you usually ring the doorbell instead of knocking.

When someone says their first name, or when someone talks about a person and only says the person's first name, such as John, if you aren't sure who the person is you say "John who?" When you say "John who?" you are asking what John's last name is. Then the speaker will answer with a full name, for example, "John Sharp."

Knock knock jokes are jokes that follow the pattern below:

- A: Knock knock.  
B: Who's there?  
A: XXX  
B: XXX who?  
A: XXX\_\_\_\_\_.

These jokes are popular with children, but there are also adult knock-knock jokes. Knock knock jokes often involve changing the pronunciation of a word slightly so it sounds like a different word or phrase. Here are some common knock knock jokes:

- |              |              |
|--------------|--------------|
| Knock knock. | Knock knock? |
| Who's there? | Who's there? |
| Mary.        | Police.      |

Mary who?	Police who?
Merry Christmas!	Please let me in. It's cold out here!
("Mary" is a girl's name. "Merry" means happy.)	("Police" sounds a little like "please.")
Knock knock.	Knock knock!
Who's there?	Who's there?
Boo.	Nobel.
Boo who?	Nobel who?
Don't cry. It's only a knock knock joke!	No bell. That's why I knocked!
(Boo hoo, spelled with an "h," is the sound of someone crying.)	(Nobel is a person's name. "No bell" means "There's no doorbell.")
Knock knock.	Knock knock.
Who's there?	Who's there?
Lettuce.	Atch.
Lettuce who?	Atch who?
Let us in! It's cold outside.	Bless you!
("Lettuce" sounds like "let us.")	(Achoo is the sound someone makes when they sneeze. After someone sneezes we say "Bless you.")

### Chapter Three: Barry Allen Is the Flash (pp. 276-319)

#### I . Useful Phrases

1. Haven't I seen you before?
2. So, do you think I could get an autograph?
3. He buys a deck of cards at the hotel gift shop.
4. How much did these cards cost?
5. Make me an offer.
6. I'll be right back.
7. I'm going downstairs to cash a check.
8. Don't you think they might get a little suspicious?
9. Does this belong to anybody?
10. I wanted to apologize for what happened out in Los Angeles.
11. I volunteered so the men with families could go home early. (A person who volunteers to do something is a volunteer [n.]
12. I'm really sorry if I made a fool out of you.



13. How did you know I wouldn't look in your wallet?
14. What do you mean?
15. You have no one else to call.
16. What are you talking about?
17. (Do) you mean, like the comic book?
18. Slow down. What are you talking about?
19. It says he was in the service.
20. Help yourselves.
21. You filled out a missing person's report for a runaway juvenile by the name of Frank Abagnale, Jr. (to fill out [v.] )
22. Half of the kids his age are on dope, throwing rocks at police.
23. And they scare me to death because my son made a little mistake.
24. Forging checks? Wait. I'm sure we can take care of that.
25. I'm working part-time at the church. Tell me how much he owes and I'll pay you back.

## II . Comprehension Questions

1. What did Frank buy at the hotel gift shop? Why do you think he bought that?
2. Why did Frank choose to pay Cheryl with a \$1,400 cashier's check, and not a \$1,000 one?
3. Frank never passed bad checks to individuals, only to large institutions. Why do you think he made an exception and gave a bad check to Cheryl?
4. Where was Carl while Frank was with Cheryl?
5. Why did Carl's shirts turn pink?
6. Why did Frank tell Carl that he was calling him?
7. Why was Carl working on Christmas Day?
8. What did Frank apologize to Carl for doing?
9. Why do you think Frank hung up the phone when Carl said, "You have no one else to call?"
10. Based on his telephone conversation with Carl, how do you know that Frank wants to be caught?
11. Who is Barry Allen?
12. How did Carl realize that the check forger he was looking for was a juvenile?
13. How did Frank's mother defend Frank to Carl?
14. What did Frank's mother offer to do to get Frank out of trouble with the FBI?

### III . Application of Useful Phrases: Fill in the blanks using underlined words in Exercise I

1. To write something in blank spaces on a form is to \_\_\_\_\_ the form.
2. When you ask a well-known person or someone you admire to write their signature on something for you to keep, you are asking for that person's \_\_\_\_\_.
3. To leave work before the usual time is to \_\_\_\_\_.
4. The opposite of a full-time job is a \_\_\_\_\_ job.
5. Another expression for using illegal drugs is to be \_\_\_\_\_.
6. A legal term for a person who is not yet an adult (that is, a person who is under 18) is a \_\_\_\_\_.
7. When you promise to return money you have borrowed, you say \_\_\_\_\_.
8. Another way to say "Don't I know you?" is \_\_\_\_\_?
9. A phrase meaning "they terrify me" is \_\_\_\_\_.
10. When guests visit your house and you serve them food or something to drink, after you put the food or drink on the table you say \_\_\_\_\_.
11. A \_\_\_\_\_ is a person who works without pay to help others.
12. Another term for "writing bad checks" is \_\_\_\_\_.
13. An expression meaning "I'll return soon" is \_\_\_\_\_.
14. A child who has left home for more than a day without his parents' permission is called a \_\_\_\_\_.
15. To say you're sorry is to \_\_\_\_\_.
16. Another way to say "no other person" is \_\_\_\_\_.
17. If you suspect (have a feeling) that something someone is doing is dishonest or illegal, you are \_\_\_\_\_ of that person.
18. When you change a check for money, you \_\_\_\_\_.
19. A person who is lost and cannot be found is called a \_\_\_\_\_ person.
20. If you say you are \_\_\_\_\_ it means you are working in the military, for example, in the army or navy or air force.
21. Another way to say, "Don't go so fast" is \_\_\_\_\_.
22. Another way to say, "What do you mean?" or "What are you talking about?" is \_\_\_\_\_.
23. A set of 52 cards and two jokers is called a \_\_\_\_\_.
24. Another way to say, "Is this yours?" is \_\_\_\_\_ you?
25. You keep your credit cards and money and student ID card in your \_\_\_\_\_.

## Chapter 4: I Want It to Be Over Part One (pp. 324-372)

### I . Useful Phrases

1. When you're in the house use an ashtray.
2. This fondue is so good!
3. These bottles must be labeled!
4. Nod your head and tell me you won't do it again.
5. It's my first week. I think they're going to fire me.
6. I bet you're good at your job.
7. Mr. Applebaum fractured his ankle.
8. How do you like those braces? (She wears braces./She has braces.)
9. I got mine off last year. EX: When did you get your braces off? How long did have to you wear them?
10. I really think those braces look good on you.
11. Are they hiring here at the hospital? (to hire)
12. I decided to get off the road for a while.
13. Who knows, maybe I'll even find someone to settle down with.
14. This is a pretty impressive resume, Dr. Connors.
15. Will you be taking roll every night? (take roll = take attendance)
16. If you're going to be late I suggest you bring a note.
17. Do you concur?
18. You got your braces off!
19. Did it hurt when they took them off?
20. They're so slippery!
21. Yeah, it feels incredible.
22. What if he's in surgery?
23. We should take an X-ray, stitch him up, and put him in a walking cast. (stitches [n.]
24. I blew it, didn't I? Why didn't I concur?
25. If you're going to arrest me I'd like to put on a different suit.
26. Frank made up a fake ID and enlisted in the Marine Corps.
27. Please don't come to my house and call my boy a criminal.
28. I had an abortion two years ago.
29. They kicked me out of the house.
30. Please don't be mad at me.

31. What if you were engaged to a doctor?
32. What if I went to your parents...and I spoke to your father...and asked permission to marry you?

II . A. Find words or phrases in the above that have to do with the medical world. (You can add more words from the book if you'd like.)

B. Find words or phrases in the above that have to do with love and marriage.

C. Find words or phrases in the above that have to do with law enforcement and the military.

### III . Application of Useful Phrases

1. If something makes a deep, favorable (good) impression, it is called \_\_\_\_\_.
2. \_\_\_\_\_ are worn on the teeth to make crooked teeth straight.
3. To call the names of the students in a class to see who is present and who is absent is to \_\_\_\_\_.
4. If you ask someone to allow you to do something, you ask for their \_\_\_\_\_ to do something.
5. A stiff casing made of plaster of Paris to hold a broken bone in place while it's healing is called a \_\_\_\_\_.
6. Somebody who has committed a crime is called a \_\_\_\_\_  
Usage: to commit a crime; to commit suicide; to commit a murder (commit here means do; carry out)
7. Something that is not real but is made to look real to trick people is \_\_\_\_\_.
8. If a bone is broken or cracked we say that it is \_\_\_\_\_.
9. Another way to say "I missed my chance" or "I failed" is \_\_\_\_\_.
10. To dismiss someone from their job (to make someone quit) is to \_\_\_\_\_ someone.
11. To employ someone to work for you is to \_\_\_\_\_ someone.
12. You should put cigarette butts in an \_\_\_\_\_.
13. A word meaning "very surprising" or "unbelievable" is \_\_\_\_\_.
14. To move your head up and down as a way of saying "yes" is to \_\_\_\_\_ your head.
15. \_\_\_\_\_ means "Sew up his wound."
16. \_\_\_\_\_ is short for identification.
17. When Brenda said, " \_\_\_\_\_ " she meant that her parents told her she could not live with them anymore, and they made her move out.
18. An operation to terminate (end) a pregnancy is called an \_\_\_\_\_.

19. Another way to say "Don't be angry with me" is \_\_\_\_\_.
20. The police \_\_\_\_\_ criminals and put them in jail.

#### IV . About You

1. Have you ever worn braces? Do you know anyone who has?
2. Make two sentences using the term "decide to" or "decided to."  
EX: After hearing about the earthquake I decided to do volunteer work at the disaster site.
3. What is something that you're good at?
4. Make a sentence about someone you know using the word "cast." (Useful phrases 23)  
EX: She couldn't take a bath because her leg was in a cast. / He had a cast on his lower arm.
5. Make a sentence using the phrase "look(s) good on." EX: That hat looks good on you.
6. Look at Note 1 on page 368, "to have someone do something." EX: I had my mother write a note to the teacher. / The executive had his secretary make the reservations for his business trip. Make a sentence using this expression.

#### V . Dictation: Your partner will read the dialogue between Hanratty and Frank Sr. on the selected pages. Complete the conversation.

##### (pp. 360-362)

1. You're not a \_\_\_\_\_, \_\_\_\_\_ you were \_\_\_\_\_.
2. If you're going to \_\_\_\_\_, I'd like to \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_.
3. I'm not here to \_\_\_\_\_. I'm \_\_\_\_\_.  
He's in trouble. \_\_\_\_\_?
4. If I tell you where he is, \_\_\_\_\_.
5. \_\_\_\_\_
6. Frank made up a \_\_\_\_\_ and \_\_\_\_\_ the Marine Corps.
7. He's \_\_\_\_\_ Vietnam \_\_\_\_\_.
8. That kid is \_\_\_\_\_, \_\_\_\_\_ through the damn \_\_\_\_\_,  
\_\_\_\_\_ Communists, so please don't come to my home and  
\_\_\_\_\_.
9. I never said \_\_\_\_\_.

10. If you'd like to \_\_\_\_\_, here's \_\_\_\_\_.

(p. 364)

11. \_\_\_\_\_, are you?

12. \_\_\_\_\_?

13. If you were a father, \_\_\_\_\_, \_\_\_\_\_.

14. I would \_\_\_\_\_.

15. Yes, sir. \_\_\_\_\_.

**VI . Answer the questions below. (pp. 358-364)**

1. What is Frank Sr. holding when he goes into his apartment?
2. Where does Frank Sr. put the bag of groceries?
3. What does Carl show Frank to prove that he works for the FBI? (prove=show)
4. What does Frank Sr. take out of the bag of groceries?
5. What had Frank Sr. been doing before he came back to his apartment?
6. What word does Frank use to mean "police?"
7. Where does Carl find Frank Jr.'s address?
8. Why would Frank Jr. need to make a false ID to enlist in the Marine Corps?

**VI . Actions: Work with a partner. One of you will look at Sections 1a and 1b and the other will look at Sections 2a and 2b. Cover your partner's sections so you cannot see them. If you have extra time, switch sections with your partner and begin again. These actions can be found between pages 324 and 366 in your book.**

**1a) Give you partner the commands below.**

Pretend to vomit. (p. 358 = throw up)

Pretend to go into a phone booth and make a call.

Pretend to unpack a bag of groceries.

Pretend to turn over an envelope.

Pretend to lower a bag of groceries onto the counter.

Pretend to hang up a telephone receiver.

Whistle. (p. 366)

**1b) Now ask your partner who does these things in the movie, and in what scene.**

EX: sob

Q: Who sobs in what scene in the movie?

A: The injured boy in the emergency room sobs when the doctors are checking him.

**2a) Give you partner the commands below. Your partner will act them out.**

Pretend to spill a drink.

Pretend to take out your badge and display it. (p. 360)

Pretend to hold a bag of groceries.

Pretend to put something in the refrigerator.

Nod your head. (p. 362)

Pretend to hold a telephone receiver.

Look over your shoulder. (p. 364)

**2b) Now ask you partner who does these actions in the movie, and in what scene.**

EX: spill a drink.

Q: Who spills their drink in what scene in the movie?

A: One of the people at Frank's party spills their drink on Frank's sweater.

## Chapter 4: I Want It to Be Over Part Two (pp. 372-408)

### I . Useful Phrases

1. Please call me Frank.
2. Would you like to say grace?
3. Absolutely
4. I practiced law for one year, then I decided...why not try my hand at pediatrics?  
(A doctor of pediatrics is called a pediatrician.)
5. Where did you go to law school?
6. Good luck, Mr. Conners.
7. You know what I could never figure out?
8. How did you cheat on the bar exam?
9. Or do you want to split it with me?
10. I'll figure it out sooner or later.
11. Your Honor, ladies and gentlemen of the jury, this is irrefutable evidence that

the defendant is, in fact, lying. (NOTE: "Refute" means "deny.")

12. I lost all track of time.

## II . Application of Useful Phrases

1. To break the rules when you are taking a test or playing a game is to \_\_\_\_\_.
2. A group of twelve people chosen to decide whether or not a person is guilty in a court of law is a \_\_\_\_\_.
3. An expression meaning "sometime" or "eventually" is \_\_\_\_\_.
4. An expression meaning "I didn't realize what time it was" is \_\_\_\_\_.
5. A children's doctor is called a \_\_\_\_\_.
6. Another way to say "understand" is \_\_\_\_\_.
7. Something presented in court to try to prove that someone is guilty or innocent is called \_\_\_\_\_.
8. When you divide something in two so that you can share it you \_\_\_\_\_ something.
9. A word meaning "definitely" is \_\_\_\_\_.
10. What do you say to someone who is about to attempt something difficult?  
\_\_\_\_\_
11. Many Christians \_\_\_\_\_ before they begin to eat a meal.

## III . Comprehension Questions

1. Does Frank refuse to say grace? What does he do when he's asked to say grace?
2. Where does Frank say he went to law school? Why is everyone surprised?
3. How do you know that Roger was poor when he proposed to his wife?
4. Why does the bar examiner say "Good luck, Mr. Connors"?
5. Does Carl split his éclair with Frank?
6. What does Frank enlarge to show the judge?
7. When Frank says "Your Honor" who is talking to?
8. Why does the judge scold Frank?

## IV . Dictate the lines below to your partner. (pp. 388-390)

ROGER: \_\_\_\_\_ Frank, what are you doing here? What is  
\_\_\_\_\_ doing with Brenda? \_\_\_\_\_, if you want my daughter...



I'd like to \_\_\_\_\_ now.

FRANK: The truth is, sir...\_\_\_\_\_ I'm nothing really.  
\_\_\_\_\_.

ROGER: You know what you are? \_\_\_\_\_. Men like us are nothing without the women we love. \_\_\_\_\_, \_\_\_\_\_ the same foolish whimsy. \_\_\_\_\_ to Carol after five dates... with two nickels \_\_\_\_\_ and \_\_\_\_\_ ...because I knew she was the one. \_\_\_\_\_, Frank. \_\_\_\_\_ you came here to ask me.

V . With your partner, discuss some of your favorite scenes between p. 324 and 408. Write about some of the scenes you like.

VI . Write some of your favorite lines between p. 324 and 408. Read them to your partner, and ask your partner to repeat them.

## Chapter 4: I Want It to Be Over Part Three (pp. 408-418)

### I . Useful Phrases

1. I took a government job.
2. I had a deal with them.
3. I want to sue them. (past tense: sued)
4. They ate the cake and now they want the crumbs.
5. It's great to see you, Daddy.
6. I want to show you something.
7. I came here to give this to you.
8. Can you believe I'm getting married?
9. Why don't you call her right now?
10. Tell her I have two first-class tickets to go see her son's wedding.

### II . Comprehension questions

1. Why does Frank Jr. go to see his father?
2. Frank Sr. works for the government now. What exactly does he do for a living?

3. What is Frank Sr. wearing in this scene?
4. Why does Frank Jr. say, "What are you doing dressed like this?"
5. Why does Frank Jr. ask if his mom has seen his dad dressed like that?
6. Who did Frank Sr. make a deal with?
7. What kind of invitation did Frank give his father?
8. Frank Jr. uses the term "brand new" twice.
  - a) What does he use it to refer to the first time?
  - b) What does he use it to refer to the second time?
9. Why does Frank Jr. reach inside the pocket of his trousers?
10. How does Frank Jr. react to the news that his mother has remarried?
11. Why do you think Frank Jr. leaves the bar without having a drink with his father?
12. What signs of Christmas can you see in the bar where Frank Jr. meets his father?

**III . Fill in the Blanks: Use words from the useful phrases on the previous page. Use the same word twice in number two.**

1. Frank Sr. made a \_\_\_\_\_ with the FBI, but they are still chasing him.
2. Very small fragments (pieces) of bread, cake, or cookies are called \_\_\_\_\_.  
Also, we sometimes dip chicken pieces in dry bread \_\_\_\_\_ before frying it.
3. Frank Sr. is employed by the \_\_\_\_\_ now.
4. After Frank Jr. hugs his father he says, "\_\_\_\_\_."
5. An expression meaning "immediately" is \_\_\_\_\_.
6. In 1994 an American woman \_\_\_\_\_ McDonald's when she spilled McDonald's coffee on herself. She said that it was McDonald's fault that she burned herself, because the coffee was too hot.
7. An expression meaning "Maybe be should..." is \_\_\_\_\_.

**IV . Look at page 410. Read the dialogue between Frank Jr. and his father to your partner and have your partner repeat the lines to you.**

**V . After you finish Exercise IV , close your book. Fill in the blanks. Choose from the words below. The verbs may need to be put into the proper tense. (p. 410) After you finish, look at your book and correct your answers.**

- 1) I \_\_\_\_\_ a government \_\_\_\_\_. You see what I'm doing? Do you have a good \_\_\_\_\_?

- 2) Well, I \_\_\_\_\_ am a \_\_\_\_\_ now.
- 3) Look at this \_\_\_\_\_. The IRS wants \_\_\_\_\_. I had a \_\_\_\_\_ with them.
- 4) Two penalties, they \_\_\_\_\_ the cake and now they want the \_\_\_\_\_. I want to \_\_\_\_\_ them. Now they want the \_\_\_\_\_.
- 5) Sit down. They're trying to \_\_\_\_\_ me, \_\_\_\_\_ me. You know what?
- 6) You know what? I'll \_\_\_\_\_ them \_\_\_\_\_ me for the \_\_\_\_\_ of their \_\_\_\_\_.

rest; more; make (v.); lives; sue (v.); intimidate (v.); chase (v.); scare (v.); job; lawyer (x2); take(v.); deal; all; eat (v.); have(v.); crumbs (x2); letter; sort of

#### Chapter 4: I Want It to Be Over Part Four (pp. 419-449)

I . Choose the appropriate sentence from Part B to complete the sentence, and write it on the lines in Part A.

##### Part A

1. Frank calls Carl from a bar on Christmas Eve \_\_\_\_\_
2. Brenda's father introduces Carl to Brenda's mother \_\_\_\_\_
3. Frank stops on the staircase on his way upstairs to the "little boys room" (the bathroom) \_\_\_\_\_
4. Hanratty tells Brenda's father \_\_\_\_\_
5. Frank pulls Brenda into the bedroom, \_\_\_\_\_
6. When Hanratty checks the champagne bottle \_\_\_\_\_
7. Frank whispers instructions to Brenda \_\_\_\_\_
8. Frank tells Brenda his real name \_\_\_\_\_
9. When Hanratty opens the bedroom door, \_\_\_\_\_

##### Part B

that he'd like to meet that groom.  
 the window is open and Frank is gone.  
 when he sees the headlight beams of a police car pulling up in front of the house.

and they shake hands.

just before he jumps out the window.

as he sits in the open window.

then he takes a suitcase full of cash down from the upper bed and begins packing.

and says, "I want it to be over."

he sees that the label has been peeled off.

**II . Read pages 419 to 430 and write two comprehension questions for your partner.**

**III . Read pages 430 to 448 and write two comprehension questions for your partner.**

**IV . Write answers to the questions you wrote in Part II above.**

**V . Write answers to the questions you wrote in Part III above.**

#### **Chapter 4: I Want It to Be Over Part Five (pp. 450-485)**

##### **I . Useful Phrases**

1. How do you know he hasn't rented a car and driven to New York? (p. 456)
2. Thank you very much for coming. (p. 458)
3. Did you see that blonde out front? (p. 568) (You can call a woman with blonde hair a blonde, a woman with red hair a redhead, and a woman with brown hair a brunette.)
4. I should have been a pilot. (p. 468)
5. Your walkie-talkie wasn't working. (p. 470)
6. He's got his pilot's cap on. (p. 470) (= He's wearing his pilot's cap.) NOTE: What was he wearing in the first scene? = What did he have on in the first scene?
7. He's got to go back to where the checks were printed. (p. 476)
8. He's running out of checks. (p. 478)
9. Hanratty: We're going to let him get away. Marsh: No Carl, you let him get away. (p. 478)
10. Where was it printed?

##### **II . Fill in the blanks below with the underlined words or phrases in Part I .**

1. If you wonder where someone got their information about something you can say \_\_\_\_\_?

2. When guests are leaving your house after a party you say \_\_\_\_\_.
3. A hand-held, battery operated radio transmitter is called a \_\_\_\_\_.
4. Another way to say "He's wearing a red shirt" is "He's \_\_\_\_\_ a red shirt \_\_\_\_\_."
5. Another way to say "he must" or "he has to" is "\_\_\_\_\_."
6. If your supply of something is getting low, you are \_\_\_\_\_ that thing.
7. A term meaning escape is \_\_\_\_\_.
8. Another way to say "Just outside of the building entrance" is \_\_\_\_\_.

### III . Comprehension Questions

1. How did Frank know that Brenda had told the police about their plan to meet at the airport?
2. How do you think Frank felt when he realized that Brenda had ratted on him? ("To rat on someone" is to give away information about someone, usually when they've done something wrong.)
3. Why does Carl think that Frank can easily get a passport?
4. Why does FBI Agent #2 say "I should have been a pilot?"
5. How does Frank trick Carl?
6. How did Frank get the driver to dress up in a pilot's uniform? (= How did he convince the driver to do dress up in a pilot's uniform?)
7. How do you think Carl felt when the driver in the pilot's uniform showed him the sign with "Hanratty" written on it?
8. Look at page 480-482. Why does Carl begin to suspect that Frank is in France?

### IV . Make sentences or questions using the following phrases. They can be about you or about the movie, but they should be original.

1. \_\_\_\_\_ doesn't work (= \_\_\_\_\_ isn't functioning properly) EX: My tape recorder doesn't work.
2. How do (you) know ... How did (they) know... How does (he) know... (Write a question and answer it.)  
EX: Question: How did the teacher know you were going to be late today?  
Answer: Because I e-mailed her last night to tell her.
3. Thank you very much for... (use a noun or a verb ending in -ing.)  
EX: Thank you very much for your help. / Thank you very much for helping me.

4. to run out of something

EX: We ran out of milk so we had to go to the grocery store.

5. he's (she's) got \_\_\_\_\_ on (he has got = he has) In the past tense: He had \_\_\_\_\_ on.

EX: The robber had a mask on so I couldn't see his face.

6. I (OR: You/He/ We etc.) should have...

EX: I should have started on my project sooner. Now I'm pressed for time.

## Chapter 4: I Want It to Be Over Parts One to Five (pp. 324-485)

### I . Actions

**A) Read the commands below and ask your partner to act them out. Cover Section B when you do this exercise, and your partner will cover Section A.**

Sniffle. (p. 420: Carl, while talking to Frank)

Pretend to take change out of your pocket. (p. 414)

Clear your throat. (p. 420: Carl, while talking to Frank)

Shake your head. (page 426: Carl talking to his co-workers while he eats Chinese take-out)

Whisper something. (p. 438: Brenda and Frank speaking in his room in her house)

Pretend to tear a label off of a bottle. (p. 426)

Sigh. (p. 420: Frank, while talking to Carl)

Applaud. (p. 458)

Pretend to lift a sign up. (p. 472)

Straighten up. (p. 476)

Lean against your desk. (p. 478)

Pretend to hang up a phone receiver. (p. 426)

**B) Read the commands below and ask your partner to act them out. Cover Section A when you do this exercise, and your partner will cover Section B.**

Pretend to grab something. (p. 434)

Clasp your hands in prayer. (p. 376)

Pretend to chew something. (p. 394)

Pretend to turn a doorknob. (p. 448)

Nod your head. (p. 328)

Pretend you are saying grace. (p. 374)  
Gasp. (p. 438: Brenda when she sees Frank's suitcase full of money)  
Pretend to sob. (p. 448)  
Pretend to lift a telephone receiver. (p. 458)  
Tap your pen or pencil on your desk. (p. 478)  
Pretend to smell something. (p. 482)  
Pretend to shake hands with someone. (p. 428)

II . After you and your partner have finished Exercise I, take turns reading and acting out the commands in Sections A and B, and ask your partner to say the English for what you are doing. Cover your partner's section when you do this.

III . If you have extra time, act out the actions in Chapter 4 Part One (pp. 324-366) Exercise VII above and ask your partner to say what you are doing.

### Chapter 5: Trust Me On This (pp. 490-571)

I . Useful Phrases 1: Definitions of the underlined words below can be found in the left column of the pages listed. Read the definitions carefully and learn the underlined words.

1. You're under arrest. (p. 492)
2. There're two dozen police officers outside. (p. 492)
3. I'm going to look out the front door. (p. 494)
4. Did you pay some hotel desk clerk to make that call for you? (p. 500)
5. You rob their banks, you steal their money, you live in their country. (p. 502)
6. I told you, there was no other way for it to end. (p. 502)
7. Do you swear on your daughter? (p. 504)
8. Frank Abagnale Jr. surrendered of his own accord. (surrender) (p. 508)
9. Hanratty unbuckles his seat belt. (p. 512)
10. He fell down some steps at Grand Central Station trying to catch a train. (p. 512)
11. Let's go to the bathroom. (p. 516)
12. flashback (p. 516)
13. All of you need to be in your seats, your seat belts fastened. (p. 518) (fasten)
14. Remain seated everyone, please. (p. 520)

**II . Application of Useful Phrases 1: Fill in the blanks with the appropriate word or phrase from Exercise I above. Choose from the underlined words.**

1. A word meaning “steal” is \_\_\_\_\_.
2. \_\_\_\_\_ means “stay.”
3. A phrase meaning “This was only way things could have turned out” is \_\_\_\_\_.
4. In a novel or film, a \_\_\_\_\_ is when a scene returns to events in the past.
5. A \_\_\_\_\_ is twelve of something.
6. When you say firmly that a fact is true, you \_\_\_\_\_ to that fact.
7. When a policeman takes a suspect into custody, they say, “\_\_\_\_\_” to the suspect.
8. The opposite of “My seatbelt is \_\_\_\_\_” is “My seat belt is unbuckled.”
9. If someone does something without being forced to do it, you say he did it \_\_\_\_\_.
10. The door at the main entrance of a house is called the \_\_\_\_\_.
11. Another word for restroom is \_\_\_\_\_.
12. To give yourself up to the police is to \_\_\_\_\_.

**III . Comprehension Questions I**

***Pages 490-510***

1. What was Frank doing when Carl found him in France?
2. How did Carl convince Frank to put on handcuffs?
3. Why did Frank say “That was really good, Carl?”
4. How did Frank’s attitude change when he was arrested by the French police?

***Pages 512-532***

5. How did Frank escape from the airplane?
6. After seeing his half-sister, why do you think Frank asked Carl to hurry up and take him away?

***Pages 534-558***

7. Carl visited Frank in jail. What did he bring for Frank?
8. What was Frank’s job at the prison?
9. Into whose custody was Frank put after he left prison?
10. What lie did Carl tell Frank about his (Carl’s) family?



## IV . Comprehension Questions 2

### *Pages 490-510*

1. What was Frank doing when Carl found him in France?
2. How did Frank react when he saw Carl in France?
3. How did Carl convince Frank to put on the handcuffs?
4. Frank said "That was really good, Carl." Why did he say that?
5. How did Frank's attitude change when he was arrested by the French police?

### *Pages 512-532*

6. Why do you think Frank ran away from Carl when they arrived in New York?
7. How did Frank escape from the airplane?
8. After seeing his half-sister, why do you think Frank asked Carl to hurry up and take him away?

V . a) Read pages 490 to 508 in pairs. Take turns being Frank and Carl.

b) Next, read the conversation between pages 498 and 506 to your partner and have your partner repeat each line.

c) Now dictate the conversation between pages 502 and 504 to your partner and have your partner write those lines on another sheet of paper.

## VI . Useful Phrases 2

1. Paula's house is decorated with lights. (p. 522)
2. It's definitely a teller. (p. 538)
3. They get used over and over again, so they always get worn out. (p. 540)
4. I've already got a job here. I deliver the mail. (p. 542)
5. Yeah, put him on. (p. 552)
6. I had to convince my bosses and the Attorney General you wouldn't run. (p. 556)
7. How did you cheat on the bar exam in Louisiana? (p. 566)

VII . Application of Useful Phrases 2: Fill in the blanks with the appropriate word or phrase from Exercise VI above. Choose from the underlined words.

1. If your shoes have holes in the bottom and the heels are falling off you say that the shoes are \_\_\_\_\_.
2. If you persuade someone to do something, you \_\_\_\_\_ them to do it.
3. If you are talking to someone on the phone (for example, your mother) and you

want that person to let you talk to someone else who is nearby (for example, your brother) you say \_\_\_\_\_.

4. If you are absolutely sure that it will rain tomorrow you could say, "It's \_\_\_\_\_ going to rain tomorrow."
5. When you \_\_\_\_\_ something like a message or a package or letter, you take it to a particular person or address.
6. A phrase meaning "repeatedly" is \_\_\_\_\_.
7. To break the rules during a test in order to get a higher score is to \_\_\_\_\_.
8. To put lights and ornaments on a tree or lights is to \_\_\_\_\_ the tree.

### **VIII . Comprehension Questions 3**

#### ***Pages 532-534***

1. When the judge sentenced Frank to twelve years in prison, what did he recommend?
2. Carl visited Frank in jail. What did he bring for Frank?

#### ***Pages 542-544***

4. What was Frank's job at the prison?
5. Into whose custody was Frank put after he left prison?

#### ***Pages 554-5458***

6. Why do you think Frank decided to impersonate a pilot again over the weekend?
7. What lie did Carl tell Frank about his (Carl's) family?
8. Carl said he lied about his family because sometimes it's easier to live the lie. Why do you think he said that to Frank?

### **IX . If you have extra time in class do either or both of the following activities with your partner.**

- A. Read lines from the text to your partner and ask your partner to repeat them. Then ask your partner who said those lines to whom, and in what situation.
- B. Choose a conversation that you would like to practice. Ask your partner to read the conversation to you line by line, and repeat it as your partner reads.

## Comprehensive Review: Keywords

The information below is taken from the following website:

<http://www.imdb.com>

### I . Plot Summary

*An FBI agent tracks down and catches a young con artist who successfully impersonated an airline pilot, doctor, assistant attorney general and history professor, cashing more than \$2.5 million in fraudulent checks in 26 countries.*

### II . Keywords

These are some of the keywords listed on the Internet Movie Data Base site for the movie *Catch Me If You Can*. With your partner, choose words from the list and explain what they have to do with the movie.

EX: 1960's: This movie took place in the 1960's.

#### Plot Keywords for *Catch Me If You Can* (2002)

candy striper	based on a true story
FBI	fraud
fugitive	impostor
1960's	check fraud
divorce	doctor
lawyer	pilot
prostitution	stewardess
substitute teacher	airport
animated credits	arrest
bank fraud	bar
check bouncing	Christmas
cockpit	handcuffs
courtroom	emergency room
engagement party	FBI agent
forgery	high school

hospital	loan officer
Lutheran	name change
party	prayer
prison	laundromat
vomit scene	chase
con man	attorney
braces	Chinese food
Christmas Eve	engagement
judge	necklace
suitcase	

## References for *Catch Me If You Can*

Casanave, C.P. (1995). Copyright law and video in the classroom. In Casanave, C.P. and J. D. Simons (Eds.), *Pedagogical perspectives on using films in foreign Language classes*. In Keio University SFC Monograph #4, 78-90. Fujisawa, Japan: Keio University SFC.

DHC Corporation (2003). *Catch Me If You Can*. Tokyo, Japan: DHC Corporation.

Helgesen, M. (1993). Dismantling the Wall of Silence, in Wadden (Ed).

Krashen, S. and T. Terrell (1983). *The Natural Approach*. London: Prentice Hall.

Miyake, C. (1999). Movies in English-Language Teaching: Building an English Language Course around a Feature-Length Film Part One. In Seian Zokei Daigaku Kenkyu Kiyo (The Bulletin of Seian University of Art and Design) Vol. 6, 43-55. Otsu, Japan: Seian University of Art and Design.

Miyake, C. (2010). "Building an EFL Course around a Feature-Length Film: Exercises to Accompany *Back to the Future* and Its Screenplay" in Seian Zokei Daigaku Kiyo Dai Ichi Go (Journal of Seian University of Art and Design) No. 1, 43-69. Otsu, Japan: Seian University of Art and Design.

Miyake, C. (2012). Video-Based Language Learning: A Communicative Activity for Teaching Target Vocabulary from a Film. In Seian Zokei Daigaku Kiyo Dai San Go (Journal of Seian University of Art and Design) No. 3, 77-94. Otsu, Japan: Seian University of Art and Design.

Miyake, C. (2013). Video-Based Language Learning II : Communicative Activities to Accompany the Oxford Video Adaptations of Nick Park's Wallace and Gromit Films. In Seian Zokei Daigaku Kiyo Dai Yon Go (Journal of Seian University of Art and Design) No. 4, 102-120. Otsu, Japan: Seian University of Art and Design.

Miyake, C. (2014). Video-Based Language Learning III : Communicative Review Activities to Accompany the Oxford Video Adaptations of Nick Park's Wallace and Gromit Films. In Seian Zokei Daigaku Kiyo Dai Go Go (Journal of Seian University of Art and Design) No. 5, 83-106. Otsu, Japan: Seian University of Art and Design.

Miyake, C. (2015). "Building an EFL Course around a Feature-Length Film: Exercises to Accompany *Die Hard* and Its Screenplay" in Seian Zokei Daigaku Kiyo Dai Roku Go (Journal of Seian University of Art and Design) No. 6, 47-77. Otsu, Japan: Seian University of Art and Design.

Miyake, C. (2016). "Building an EFL Course around a Feature-Length Film: Exercises to Accompany *Cinderella Man* and Its Screenplay" in Seian Zokei Daigaku Kiyo Dai Nana Go (Journal of Seian

- University of Art and Design) No. 7, 3-36. Otsu, Japan: Seian University of Art and Design.
- Miyake, C. (2017). "Building an EFL Course around a Feature-Length Film: Exercises to Accompany *Erin Brockovich* and Its Screenplay" in *Seian Zokei Daigaku Kiyo Dai Hachi Go* (Journal of Seian University of Art and Design) No. 8, 93-128. Otsu, Japan: Seian University of Art and Design.
- Nunan, D. (1989). *Designing Tasks for the Communicative Classroom*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Sherman, J. (2003). *Using Authentic Video in the Language Classroom*. New York: Cambridge University Press
- Swan, M. (1980). *Practical English Usage*. Oxford: Oxford University Press.
- Tomlinson, B. (1998). *Materials Development in Language Teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Wadden, P. (Ed.), (1993). *A Handbook for Teaching English at Japanese Colleges and Universities*. Oxford: Oxford University Press.

言葉と手仕事 —— 「俳句×美術」 展覧会報告 ——

Words and Handwork — “HAIKU × ART” exhibition report —

田辺 由子

Yoshiko TANABE



# 言葉と手仕事 —— 「俳句×美術」 展覧会報告 ——

Words and Handwork — “HAIKU × ART” exhibition report —

田辺 由子  
Yoshiko TANABE

准教授 (空間デザイン領域：テキスタイルアート)

The art exhibition on the subject of Haiku was held in October 2017 in Iga city, Mie prefecture known as the birthplace of Basho Matsuo (1644-94) . One month later when the autumn deepened, the same exhibition was also held in Inagawa-cho, Sasayama city, Hyogo prefecture again.

An old traditional house as the venue, the participating artists took individual approaches to 'Haiku'. I regarded this opportunity as a kind of 'Ku-kai' (Haiku meeting) and explored some experimental approaches. The outcomes offered me some new artistic discoveries including awareness of the relationship between 'words and handworks' and the effect created through the relationship of improvisational visual manipulation and the artists.

## 1. 俳句なるもの、俳句の情景

俳句は五・七・五の十七音の定型詩であり、季語を含むことが前提である。自然の情景や季節の風物を短いセンテンスで切り取る、ミニマルな表現と独自の季節感に日本の文化の特色が現れる。

連歌を基とし庶民の交流の場で共同制作されていたものが、江戸時代、松尾芭蕉によって思想性を帯びようになり、今の俳句の形にいたる。同じ定型詩である短歌は作者の感情表現を伴うが、俳句においては感情表現を嫌う。季語とともに事物を提示することで他者に想像を委ねる、ある意味、潔く粋な表現方法であるが、鑑賞者側にも知識や感性が求められる。

窮屈なくらいに制約を受けるなかで、季語をはじめとするキーワードによって解釈を限定し、個性とっていいのかわからないほどの表現の妙とともに、現れては記憶にとどめられ忘れられを繰り返す無数の言葉の東が俳句である。

## 2. 俳句と美術の取り合わせ

俳句を主題にした美術展が、2017年10月、芭蕉の生誕地である三重県伊賀市で開催された。[図1] ひと月後には秋深まるなか、兵庫県篠山市、猪名川町でも開催され、以上の3会場に美術家と俳人複数に参加した。

自身は10年前から断続的に句会に参加しており、その意味で俳人である美術家なの





図1 俳句×美術/伊賀上野展フライヤー デザイン：山口良臣

かもしれない。趣味のレベルで俳句をしているといえるのだが、そもそも職業としての俳人というものは存在しない。もちろん俳句そのものを研究している著名な俳人はいるが、俳人であることと職業とは別次元であり、どこまでいっても俳句は趣味の領域のものという印象を受ける。

趣味の領域であるがゆえに裾野が広いが、それは言葉という素材の敷居の低さもあるのだろう。美術のように細分化された素材を扱う領域においては、まず、表現の土台である技術の専門家でなければ成立しない。

質量を伴わない言葉の軽やかな交流の世界と常に素材と向き合い個の力で現実に対処する世界、そのような肌色の違う俳句と美術の展覧会というものは、俳句における「取り合わせ」という概念に通じるものがある。「取り合わせ」とは、用いた季語とは全く関連性を持たない異質なものをあえて一つの句に組み合わせることで、俳句にありがちな予定調和から脱する意味合いがあるが、美術もまた予定調和を嫌うものである。

俳句と美術はどちらも人による表現であり、自然の情景を切り取る写生の手法は日本画などに代表される美術作品の常套手段である。言葉と視覚的な素材という違いはあるものの、組み立てたストーリーを何ものかに見立てて表現することも共通する側面だ。予定調和を嫌い異質なものを組み合わせる取り合わせの概念は、例えばコラージュの手法など美術作品にも見受けられる。

しかし、双方を深く知れば知るほど、似て非なるものなのだと思えてくる。俳句は他者による解釈を求め、むしろそれを優先する。美術の場合、作者の意図が全てである。俳句においては作者名を伏せて鑑賞する場合があるが、美術においては通常ありえない状況といえる。自己表現という言葉の重みに対抗するかのようになり、軽やかな俳句の世界は自己と他者、作者と鑑賞者の境界さえも曖昧な流動的な場を作り出すことができる。

### 3. 句会というシステム

俳句と句会は切り離せない。俳句は句会という交流の場で披露され解釈される。句会は物理的な空間を共にするケースもあれば、今ではインターネット空間で行われるネット句会なるものもあるが、まずは一般的な句会の説明が必要だろう。

句会を主催する俳人と参加者で多い時は数十人、小規模であれば4、5人程度集まって座卓を囲み、短冊に自作の俳句を2、3句ほど無記名で書く。集めた短冊の順番を入れ替え、それらの俳句を書き写してリストを作り、回しながら気に入った俳句を2、3点選ぶ。投句した数だけ選句するのがルールである。全員が選句した後、集計してポイントの高い句から読み上げられ、選句した参加者は自由に句を解釈しコメントする。主催者は必ず全ての句にコメントする。それらがひととおり終わった後に作者が名乗りを上げる。それらの行為を繰り返すが、誰にも選句されなかった句は作者も明かされずに終わることになる。

句会のユニークなところは匿名で鑑賞されることであり、句会的主催者もまた参加者と同様に投句する。結果的に選句されない場合もあり、ある意味平等なシステムといえる。

句会には用意して来た句を出す場合と即興的にその場で作る場合がある。ある特定の場所を吟行した後に句会を行ったり、使用する単語をそのつど与えながら即興的な俳句を作ることもある。即興的な作句の場合、その場の雰囲気や句会に集うメンバーから影響をうけることが大きい。

今回の展覧会においては、この機会を一種の句会にとらえ、そこに集まる人達や場そのものから受ける力に素直に従うことで、新しい体験を得られるのではないかと考えた。

### 4. 美術家たちによる俳句の空間

美術家が俳句と関わるなかで主体的に造形作品に取り組むとどうなるのか。今回参加した作家のなかで句会に参加したことがある者は約半数であり、残りは俳句そのものに興味はあっても、自ら句会に参加するほどではない立ち位置にいる。俳人である作家はもとより、俳句を作る立場にない作家が俳句なるものをどのように咀嚼し展開

するかにも興味があった。

表現としては、自然の情景を切り取ったような造形とその奥にある心象風景といったところが見え隠れした。今の日本人が俳句をとらえると大方このような世界観となるのだろう。これは十分に美しいもので、造形作家としての力量を感じさせた。

制作スタイルを貫くなかで、俳句との関わりを印象づけた作品もあった。インタラクティブな手法を用いた作家は、過去の俳句に書かれたものや状況を音や震動で覚醒させた。本に印刷された言葉を切り取りシステムティックに作句した作家もいた。

長らく俳句と関わりを持つ作家の作品には、俳句の形式そのものを造形で表現した造形俳句と言っているようなもの、既存の俳句を造形的に解釈し展開したもの、創作した即興俳句をその場で視覚的魅力をもって提示したものなど、より深く俳句なるものと造形要素が関わっているような印象があった。

両者にほぼ共通していえることは、展示場所である武家屋敷や古民家、町家という特殊な空間の影響を受けていたことだ。吟行のように同じ空間で時を過ごす中で生まれるもの、それがあからこそ一つの空間としてまとまりある展示となっていた。10名もの作家が参加しながら全体空間においてはほろびや違和感を感じさせなかったのは、キュレーター不在の展覧会としては奇跡に近い。

## 5. 手仕事の言葉

作品構想段階において、自身にとっては身近な視覚的な作業である手仕事と、それとは距離があるかのように見える俳句の手法、素材としての言葉そのものの扱いとの関係に注目してみた。

手仕事において使用する単語をピックアップしてみると、染織用語として使われる動詞が、例えば「言葉を紡ぐ」「言葉を綴る」など、日常的に使われていることに気づく。元来は手仕事の方が先にあり、形のないところから形にする糸を紡ぐ行為が、「言葉を紡ぐ」に繋がり、多種の糸を用いて少しずつ綴れ織りしながら一枚の美しい布を作る行為が、丁寧に「言葉を綴る」ことに繋がっている。さらに、英単語の text も textile と似ているが、もともとはラテン語の織物から来ている言葉であり、歴史的には織物技術の方が文字の発明よりも古い。

美術家の仕事は、単に造形的に魅力的なものを作るだけでなく、自らの言葉をいかに造形で表現するかであり、いつもその距離感に苦心するものだ。自らの言葉と手仕事が連動するのが理想だが、古の人々はその間に断絶を感じることはなかったのかもしれない。それほど手と頭が遊離することなく同時に動いていたのであろう。

## 6. 風ふくむ時の隙間に言葉紡ぐ

今回の作品「風ふくむ時の隙間に言葉紡ぐ」は、自作の俳句と空間におけるインス

タレーションによって成立している。手仕事のように堅実にシステム化された方法で俳句を作ること、俳句のような即興的な軽やかさで手仕事することで、言葉と手仕事の関係に注目し、転換することを意図している。

俳句は上の句と中の句は共通、下の句が異なる60句用意した。下の句は半分の30句は主語を「言葉」にして、残り30句は「糸」として動詞のみを変化させた。糸を主語にした句のみを順番に読んでいくと糸作りから機織りまでの工程となっている。句の前半にある「風ふくむ時の隙間」のフレーズは、半年前に発表した作品（図2）のタイトルをそのまま流用した。このフレーズは季語を含まずどのようにも解釈できるニュートラルなものであるが、隙間風の行き渡る古民家にふさわしい。これら60句を機械的に並べたものを100部印刷し、机に重ね置いて来場者が持ち帰られるようにした。印刷された俳句の模様のようにも見える文字列の微かな差異、その中に今の気持ちにじっくりくる言葉があるかもしれない。



図2 「風ふくむ時の隙間」2017年制作

風ふくむ時の隙間に言葉紡ぐ  
風ふくむ時の隙間に言葉績もる  
風ふくむ時の隙間に言葉引く  
風ふくむ時の隙間に言葉縛る  
風ふくむ時の隙間に言葉練る  
風ふくむ時の隙間に言葉染みる  
風ふくむ時の隙間に言葉流す  
風ふくむ時の隙間に言葉絞る  
風ふくむ時の隙間に言葉伸ばす  
風ふくむ時の隙間に言葉繰る  
風ふくむ時の隙間に言葉乱す  
風ふくむ時の隙間に言葉絡む  
風ふくむ時の隙間に言葉解す  
風ふくむ時の隙間に言葉出す  
風ふくむ時の隙間に言葉組む  
風ふくむ時の隙間に言葉通す  
風ふくむ時の隙間に言葉結ぶ  
風ふくむ時の隙間に言葉緩む  
風ふくむ時の隙間に言葉締める  
風ふくむ時の隙間に言葉張る  
風ふくむ時の隙間に言葉飛ぶ  
風ふくむ時の隙間に言葉交わす  
風ふくむ時の隙間に言葉揺れる  
風ふくむ時の隙間に言葉止める  
風ふくむ時の隙間に言葉探す  
風ふくむ時の隙間に言葉繋ぐ  
風ふくむ時の隙間に言葉切る  
風ふくむ時の隙間に言葉放つ  
風ふくむ時の隙間に言葉残す  
風ふくむ時の隙間に言葉綴る

風ふくむ時の隙間に糸紡ぐ  
風ふくむ時の隙間に糸績もる  
風ふくむ時の隙間に糸を引く  
風ふくむ時の隙間に糸縛る  
風ふくむ時の隙間に糸を練る  
風ふくむ時の隙間に糸染める  
風ふくむ時の隙間に糸流す  
風ふくむ時の隙間に糸絞る  
風ふくむ時の隙間に糸伸ばす  
風ふくむ時の隙間に糸を繰る  
風ふくむ時の隙間に糸乱す  
風ふくむ時の隙間に糸絡む  
風ふくむ時の隙間に糸解す  
風ふくむ時の隙間に糸を出す  
風ふくむ時の隙間に糸を組む  
風ふくむ時の隙間に糸通す  
風ふくむ時の隙間に糸結ぶ  
風ふくむ時の隙間に糸緩む  
風ふくむ時の隙間に糸締める  
風ふくむ時の隙間に糸を張る  
風ふくむ時の隙間に糸飛ばす  
風ふくむ時の隙間に糸交わす  
風ふくむ時の隙間に糸揺れる  
風ふくむ時の隙間に糸止める  
風ふくむ時の隙間に糸探す  
風ふくむ時の隙間に糸繋ぐ  
風ふくむ時の隙間に糸を切る  
風ふくむ時の隙間に糸放つ  
風ふくむ時の隙間に糸残す  
風ふくむ時の隙間に糸綴る

インスタレーションは即興俳句のように、場の状況に合わせて展示していった。素材となる生糸を用いたふわふわした毛玉状のものに、季節をイメージする植物のような形体の紙縫いを絡ませた。伊賀上野展では展示場所となった武家屋敷の一室の土壁を中心に、ちょっとした隙間や出っ張りにも設置した。ピン打ち、テープなどの展示補助ができない限られた環境の中、人の行き来や隙間風の中、落下した作品もあったが、それもまた自然の成り行きの中で受けとめられる範囲のものであった。

1ヶ月空けて開催された篠山、猪名川展では、会場となった古民家（静思館）の土壁に生糸の作品が付きにくいことがわかり、特定の場所を使用することを諦め、会場全体の中で展示可能な場所を搬入時に見つけながら展示することにした。

一度展示を共にした作家同士の中で、自然とその場でコラボレーションも生まれ、また、自作が会場全体に広がることになり、伊賀上野展よりさらに言葉の軽やかさに近づけた気がした。

自身はこの展覧会を一種の句会と捉えることにしていた。その結果、場においての即興的な視覚の操作による影響は、参加作家との関係性から新たに生まれたものであった。美術家としてのこだわりを極力捨て、その場その場の判断で動き詰める部分もよしとした。

自作がどのように受けとめられたかを句会における選句とコメントと見立て、会期後、参加作家に向けて各自の撮影写真中にある自作の写真の提供を依頼した。自ら撮影した記録写真はここにはなく、すべてが他者の目による解釈である。

〔図3-1～図3-10、図4-1～図4-10〕

## 展覧会データ

俳句×美術／伊賀上野

会期：2017年10月19日（木）～29日（日）

場所：入交家住宅（伊賀市上野相生町）

主催：（公財）伊賀市文化都市協会

後援：伊賀市、伊賀市教育委員会、名張市教育委員会

俳句×美術 in 篠山2017 猪名川 satellite

会期：2017年11月19日（日）～26日（日）

場所：鳳凰会館（篠山市河原町）静思館（川辺郡猪名川町上野字町）

主催：俳句×美術 in 篠山2017実行委員会

後援：篠山市、猪名川町、猪名川町教育委員会

協力：猪名川町文化協会

活用支援事業 公的支援：ひょうごのふるさと芸術文化活動推進事業

〔ふるさと芸術文化発信サポート事業〕

参加作家：小倉喜郎、田中広幸、長野久人、林 伸光、三嶽伊紗、米田由美、  
わにぶちみき

田辺由子、山下裕美子、山口良臣（入交家住宅、静思館のみ展示）

岡田武（鳳凰会館のみ展示）



図3-1 入交家 田中広幸撮影 俳句の印刷物



図3-2 入交家 田中広幸撮影 筒屋全景



図3-3 入交家 山口良臣撮影 筒屋壁面



図3-4 入交家 山口良臣撮影 筒屋から縁側



図3-5 入交家 田中広幸撮影  
筒屋仏壇スペース



図3-6 入交家 田中広幸撮影  
右：田中広幸作品



図3-7 入交家 山口良臣撮影 筒屋壁面



図3-8 入交家 山下裕美子撮影 筒屋からの庭



図3-9 入交家 田中広幸撮影 筒屋縁側廊下



図3-10 入交家 田中広幸撮影 廊下



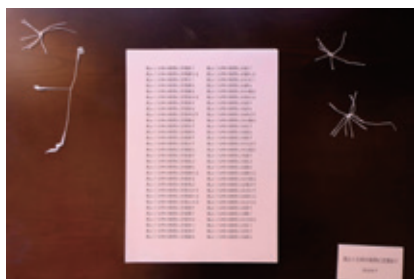


図4-1 静思館 林伸光撮影 俳句の印刷物



図4-2 静思館 林伸光撮影 座敷全景



図4-3 静思館 田中広幸撮影  
中央：山下裕美子作品



図4-4 静思館 林伸光撮影  
障子の破れ目に展示



図4-5 静思館 田中広幸撮影  
下：田中広幸作品



図4-6 静思館 林伸光撮影 土壁に展示

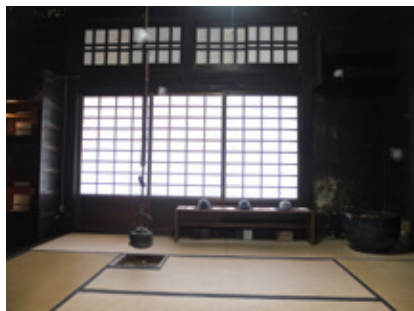


図4-7 静思館 山口良臣撮影  
下：山口良臣作品



図4-8 静思館 田中広幸撮影  
山下裕美子作品の中に展示



図4-9 静思館 林伸光撮影  
中央、下：山下裕美子作品

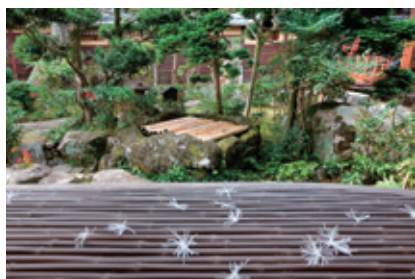


図4-10 静思館 林伸光撮影 縁台に展示



個展「鉄のシリーズⅥ 儚き移ろい」の開催報告

Report on Toru Kanazawa's "Series of Iron Ⅵ : Transient Shift"

金澤 徹

Toru KANAZAWA



# 個展「鉄のシリーズⅥ 儂き移ろい」の開催報告

Report on Toru Kanazawa's "Series of Iron VI: Transient Shift"

金澤 徹

Toru KANAZAWA

教授 (メディアデザイン領域 : 写真)

This paper discusses a solo exhibition of photography entitled "Series of Iron VI : Transient Shift" by Toru Kanazawa at Gallery Main, in Kyoto, from March 14 to March 26, 2017. The author describes the exhibition and offers his thoughts about the art of landscape photography.

## 1. はじめに

2017年3月14日から26日まで、個展「鉄のシリーズⅥ 儂き移ろい」を Gallery Main (京都市) にて開催した。本展は1989年から個展やグループ展で発表してきた17点と未発表作品21点で構成した。

## 2. 鉄のシリーズで続けていること

今展示案内には次の文章を記した。

『「鉄のシリーズ」として1989年に作品を発表し、これまで同シリーズで撮影を続けている。当初は風景の中に鉄の構築物などを含むことと、自分自身の錆びた鉄に関わる原風景を感じながらの撮影だった。しかし、撮影を続けるに従い、私たちが何かを作りだして壊す (或いは壊れる)、そして束の間には何かがある状態で保留されて見えることがあり、スピード感のある Scrap & Build の繰り返される今の世の中を過ごす中、例えば、建築物のような鉄を含んだ構築物を通して、風景が変わっていくさまを記録しているのだと考えるようになった。つまり一連の風景の撮影をすることによって、このような時や場所があつたということも記録しているのだと思っている。そのような思いを持ちながらも、日常的に出会う変化だけでは無く、2001年9月11日にニューヨークで起こったこと、自然災害では2011年3月11日に日本の東北で起こったことや昨年の熊本地震などを目の当たりにして、改めて無常であることを突きつけられている。』

以下、前述文章の英語訳は展覧会時には提示していなかったが、本紀要に併せて掲載する。(Below is the translation from the Japanese statement.)

I first exhibited my "Series of Iron" photographs in 1989. I have continued the

project since then. Initially, the photographs simply included iron structures in the landscape or they were evocative of the feelings about rusted iron I felt within myself. However, in the course of pursuing the series, I've come to see that I'm recording the way landscape changes in a world where we create things and destroy them, or they are destroyed, even though there is a period of things appearing to be static amid rapid, repeated cycles of scrap and build—stasis perhaps represented by a building with iron at its core. In other words, I believe that by continuing to shoot a series of landscapes, I make records of moments and places that have existed; that is my underlying view. Yet, although I record small, day-to-day changes, events like those of September 11, 2001 in New York and natural disasters such as the earthquake and tsunami that hit Japan's Tohoku region on March 11, 2011, the recent Kumamoto earthquake, and others, force us to remember that ultimately all is transient. (*Translated from Japanese by Colin Talcroft*)

### 3. 今展示の構成

今展示は以下38点で構成した。

- 2003年、撮影と同時期に開催した University of Rio Grande (オハイオ州) での個展  
案内状と風景の作品
- 1. 《ニュージャージー州ニューポートフェリー乗り場》2003年9月  
(イメージサイズ456mm×456mm 裁ち落とし、アーカイバル処理をしたゼラチンシルバープリント、黒色木製額装、プリント2017年)
- 1988年から日常や旅行などで出会ってきた風景の写真作品18点
- \*《撮影場所》撮影年月、プリント年
- 2. 《和歌山県(現・新宮市)志古付近》1988年2月、1994年
- 3. 《奈良県吉野郡十津川村》1988年2月、1994年
- 4. 《京都府相楽郡笠置町》1989年7月、1994年
- 5. 《アメリカ、ニューメキシコ州マドリッド》1988年10月、1994年
- 6. 《アメリカ、アリゾナ州 州内ハイウェイ64号沿線》1991年10月、1994年
- 7. 《アメリカ、ニューメキシコ州マドリッド》1989年10月、1994年
- 8. 《ドイツ、ベルリン ポツダムプラッツ》1998年9月、2000年
- 9. 《鳥取県八東町》1999年8月、2000年
- 10. 《イギリス、シュロップシャー州アイアンブリッジ-1》2000年9月、2002年
- 11. 《イギリス、シュロップシャー州アイアンブリッジ-2》2000年9月、2002年
- 12. 《新潟県長岡市》2002年5月、2002年

13. 《カンボジア、プノンペン トゥール スレン》2002年1月、2002年
14. 《アメリカ、ウエストヴァージニア州 レイキン》2003年8月、2003年
15. 《滋賀県大津市》2002年5月、2002年
16. 《滋賀県高島市新旭》2005年5月、2017年
17. 《宮城県亘理町》2012年5月、2017年
18. 《岩手県宮古市》2014年5月、2017年
19. 《滋賀県大津市》2013年10月、2017年

(2～19: 全て大全紙の印画紙を使用、アーカイバル処理をしたゼラチンシルバークラウドプリントをブックマットして610mm×762mmのアルミ額装)

- 米国ニュージャージー州で2001年8月27日に、フェリー乗り場から（後にアパートメントとして完成する）ビルの建築現場を前景に入れて、ハドソン川を挟んだニューヨーク WTC エリアを配した作品

20. 《ニュージャージー州ジャージーシティよりマンハッタンを望む》2001年8月

- 同じ場所から2016年に撮影した作品

21. 《ニュージャージー州ジャージーシティよりマンハッタンを望む-1》2016年8月  
(20・21: イメージサイズ1,000mm×1,000mm 裁ち落とし、アーカイバル処理をしたゼラチンシルバークラウドプリント、黒色木製額装、プリント2017年)

- 同じ場所から2003年から2016年まで毎年撮影した作品以下14点

22. 《ニュージャージー州ジャージーシティよりマンハッタンを望む》2003年9月
23. 《ニュージャージー州ジャージーシティよりマンハッタンを望む》2004年9月
24. 《ニュージャージー州ジャージーシティよりマンハッタンを望む》2005年9月
25. 《ニュージャージー州ジャージーシティよりマンハッタンを望む》2006年9月
26. 《ニュージャージー州ジャージーシティよりマンハッタンを望む》2007年9月
27. 《ニュージャージー州ジャージーシティよりマンハッタンを望む》2008年9月
28. 《ニュージャージー州ジャージーシティよりマンハッタンを望む》2009年8月
29. 《ニュージャージー州ジャージーシティよりマンハッタンを望む》2010年8月
30. 《ニュージャージー州ジャージーシティよりマンハッタンを望む》2011年8月
31. 《ニュージャージー州ジャージーシティよりマンハッタンを望む》2012年8月
32. 《ニュージャージー州ジャージーシティよりマンハッタンを望む》2013年8月
33. 《ニュージャージー州ジャージーシティよりマンハッタンを望む》2014年8月
34. 《ニュージャージー州ジャージーシティよりマンハッタンを望む》2015年8月
35. 《ニュージャージー州ジャージーシティよりマンハッタンを望む-2》2016年8月  
(22～35: 全てイメージサイズ456mm×456mm 裁ち落とし、アーカイバル処理をしたゼラチンシルバークラウドプリント、黒色木製額装、プリント2017年)



- 2003年・2006年・2008年のほぼ同じ場所から撮影をした9月11日近くの夜景3点
36. 《ニュージャージー州ジャージーシティよりマンハッタンを望む》2003年9月11日
  37. 《ニュージャージー州ジャージーシティよりマンハッタンを望む》2006年9月11日
  38. 《ニュージャージー州ジャージーシティよりマンハッタンを望む》2008年9月8日  
(36～38：全てイメージサイズ456mm×456mm 裁ち落とし、アーカイバル処理をしたゼラチンシルバープリント、黒色木製額装、プリント2017年)

以上。

今展示にあたって、展覧会コーディネーターとして玉置慎輔氏、展示案内／会場サインデザインは塩谷啓悟氏の協力を得た。

#### 4. おわりに

成安造形大学紀要第6号では「第9回から第15回京都写真展参加報告」の文末に以下のように記した。「これらのイメージは撮影時期・場所は違っているが、人と土地との関わりを考える作品だと考えている。そして、イメージ群は、それぞれの地で持つ時間の流れの中で変化する状況や、未来へ受け継ぐべきもの、また、現時点でそれらの場所が持つ課題を読み取るきっかけとなると考える。つまり、撮影したイメージはすぐさま過去のものになっていく。しかし、その過去や、それ以前、そして、これからを注目して観察することによって、忘れられていく変化に対して注目するための導火線の役割をしていく。」このようなことを考え続けてこのシリーズも撮影してきていることと、今回展示した定点での観察ではコントロールされているようで、コントロールがない風景に対して、私たちがどれだけ関心を持って、抗うことができないことが多い。私たちはそれを受け入れながら暮らしており、何気なく変化を感じずに見ている風景も、スピード感はそれぞれの場所で違っているが、決して不変ではないということが記録をすることによって改めて思い知らされる。





7 ~ 12 (右から)



2 ~ 6 (右から)



19 ~ 23 (右から)



13 ~ 18 (右から)



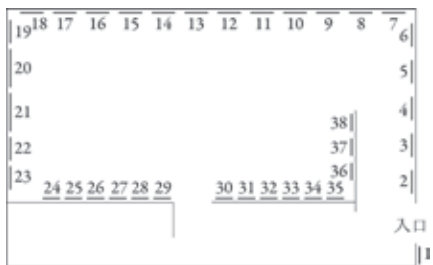
30 ~ 35 (右から)



24 ~ 29 (右から)



36 ~ 38 (右から)



会場俯瞰図



2001年 (20)



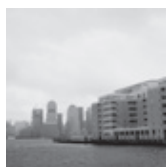
2016年 -1 (21)



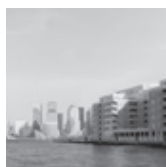
2003年 (1)



2003年 (22)



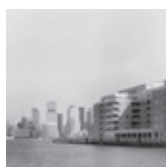
2004年 (23)



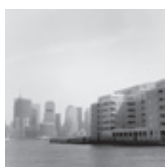
2005年 (24)



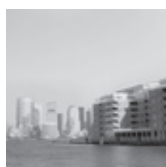
2006年 (25)



2007年 (26)



2008年 (27)



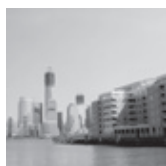
2009年 (28)



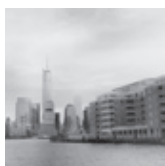
2010年 (29)



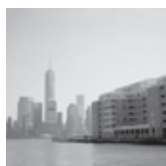
2011年 (30)



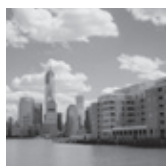
2012年 (31)



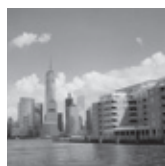
2013年 (32)



2014年 (33)



2015年 (34)



2016年 -2 (35)

2003年 (1) = 《ニュージャージー州ニューポートフェリー乗り場》  
20 ~ 35 = 《ニュージャージー州ジャージーシティよりマンハッタンを望む》



「マンセル・カラーシステム・プロジェクト」と  
「PhotoMusic 実験室」の取り組みの記録

A Report on “Munsell Color System Project” and  
“Laboratory of PhotoMusic”

谷本 研

Ken TANIMOTO



# 「マンセル・カラーシステム・プロジェクト」と

## 「PhotoMusic 実験室」の取り組みの記録

A Report on “Munsell Color System Project” and “Laboratory of PhotoMusic”

谷本 研  
Ken TANIMOTO

助教（共通教育センター：美術・デザイン・漫画）

I carried out the “Munsell Color System Project” and “Laboratory of Photo Music” as the Section 4 of 2017 Seian Arts Attention Vol. 10 “Megure! (Go around) Tsunagare! (Be connected) Color and Shape. Wai-wai Our Modernism”. In these projects, I analyzed the color of modern art works in the collection of the Museum of Modern Art Shiga and some landscape pictures of Shiga. I also conducted experiments to convert those works to music. This is a report on those endeavors.

### 1. 企画の概要

2017年10月21日～11月26日、本学において、「2017 秋の芸術月間 セイアンアーツアテンション VOL.10めぐれ！つながれ！色とかたち。ワイワイわれらのモダニズム」展が開催された。これは、滋賀県立近代美術館のリニューアルオープンにむけての長期休館にともなう県内移動展示事業の一環である。休館中、公開ができなくなる収蔵作品の多くは、他の美術館に貸し出されるなどするが、現代美術（モダンアート）部門の作品の一部を成安造形大学で展示するというのが企画の大枠である。

本展は5つのセクションに分けて構成され、セクション1「色彩の饗宴」、セクション2「黒の世界」、セクション3「素材と場所」において、それぞれテーマに沿ったモダンアート作品の実物が展示された。そして、セクション4「地域とモダニズム」とセクション5「ワイワイわれらの美術館」を、本学の馬場晋作氏を中心にした「地域とモダニズム・プロジェクトチーム」（馬場晋作氏、渋谷亮氏、高橋耕平氏、谷本研）が担当するかたちとなった。

なお、セクション4の展示空間はさらに2つに分けられ、半分を馬場氏が担当し（《移動と収集－M・デュシャン「トランクの中の箱」より》）、もう半分を谷本が担当した。ここでは、谷本が担当した《マンセル・カラーシステム・プロジェクト》<sup>〔註1〕</sup>と《PhotoMusic 実験室》<sup>〔註2〕</sup>についての取り組みを記録する。

### 2. 参加の経緯

同年4月頃、展覧会全体の企画チームの一員だった馬場氏から、その下部組織となるプロジェクトチームへの誘いを受けた。その段階では、まだ展覧会自体の具体的な



テーマが決まっていなかったが、収蔵作品に対するアプローチの一案として、色彩解析のアイデアを起案した。個人的には、昨年参加した「あいちトリエンナーレ2016」におけるコラムプロジェクト「アーティストの虹 ― 色景」<sup>〔註3〕</sup>に続く展開としてのプランであった。

その後、本学教職員と滋賀県立近代美術館学芸員による展覧会企画チームの検討会議の中で、企画全体を括るコンセプトとして「色とかたち」が浮上した。図らずも、全体テーマとも合致するプランとなった。

### 3. プロジェクトの内容

谷本は色彩をテーマに2種類のプロジェクトをおこなった。次にそれぞれの詳細を記す。

#### 3.1.1 マンセル・カラーシステム・プロジェクト

今回の展覧会に出品された収蔵作品を中心に、それらの画像を「Feelimage Analyzer」<sup>〔註4〕</sup>というソフトウェアで解析し、マンセル色立体<sup>〔註5〕</sup>に変換した。また比較対象として、同じく滋賀県立近代美術館の収蔵品である日本美術作品や、同館のサポーターをはじめ複数の方から提供された滋賀の風景写真を含め、合計約100枚の画像を解析した。



図1 《マンセル・カラーシステム・プロジェクト》  
展示全景（撮影：筆者）



図2 解説冊子（撮影：奥村元洋）

セクション4の会場では、それらの解析結果をA5サイズのカード状にしたものを壁一面に展示した。また、壁の中央に大きなモニターを取り付け、各画像の色立体が回転する映像をループ上映した。

なお、「Feelimage Analyzer」の操作画面上では色立体としての表示が可能であるが、動画ファイルとしての出力（書き出し）はできないため、それぞれの色立体を2度ずつ回転させた180枚のスクリーンショットを繋ぎ合わせることで360度の回転映像を

作成した。

さらに、セクション1「色彩の饗宴」の展示スペースであるギャラリーアートサイトでは、本学の真下武久氏の協力のもと、実際の作品にタブレット端末をかざすことで色立体が現れるデジタル解説冊子も設置し、テーマとしてセクション間を横断するような装置としても展開した。

### 3.1.2 マンセル色立体による各画像の考察

解析される画像内のピクセルは、色相・明度・彩度という色の三属性〔註6〕によって、それぞれ円周・高さ・半径の座標に準えた円筒状のモデルの中で色の分布として視覚化される。これにより、作品や写真が本来持っているモチーフや被写体としての意味、価値、作者の意図などは剥ぎ取られ、全て並列のデジタルデータとして扱われることになる。こうして各画像は相対化され、色彩という断面が露呈する。それはまるで光がプリズムを通して映し出す虹のように、作品や写真から立ち上がるもうひとつの“かたち”である。

分かりやすい例では、白黒を基調とした作品が円筒のほぼ中央の一本の筋として現れたり、日本美術作品の多くが、いわゆるモダンアートにカテゴライズされる作品群に比べて彩度の低い色彩として円筒の中心軸に近い分布として現れたりすることになる。また、虹色を特徴とする鬚嘔あひおうの作品が色立体上に円環状の形を浮かび上がらせたり、滋賀県立近代美術館のサポーターの方から寄せられた藤棚の風景写真が、紫から黄緑への補色のラインとなって現れるようすなども興味深い。

表1 黒を基調とした作品の色の分布の例  
(明度・彩度図)

※ マンセル色立体は円筒状のモデルであるが、この図は色相を圧縮することで平面座標にしている

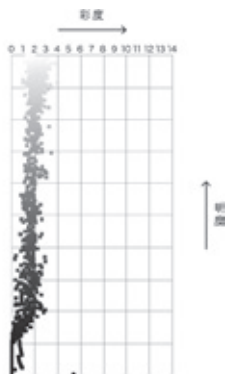


図3 アンリ・マチス《バーシバエーミノスの歌  
(クレタ島の人々)》(1944)  
リノカット・紙／32.7cm × 25.1cm /  
滋賀県立近代美術館 所蔵

表2 日本美術作品の色の分布の例  
(明度・彩度図)

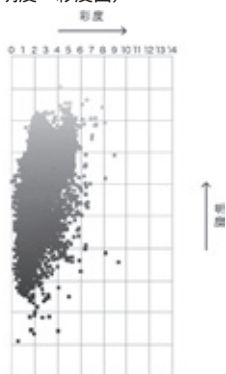


図4 山元春挙《しぐれ来る瀕峡》(1931)  
絹本着色 額装1幅 / 185cm × 100cm /  
滋賀県立近代美術館 所蔵

表3 モダンアート作品の色の分布の例  
(明度・彩度図)

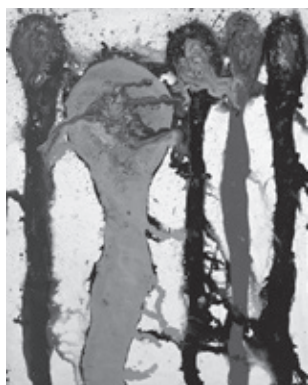
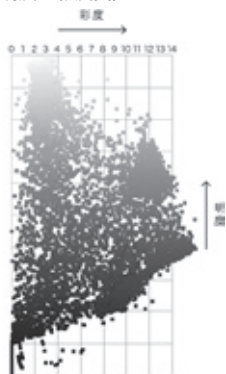


図5 元永定正《作品》(1961)  
油彩・画布 / 162.5cm × 130cm /  
滋賀県立近代美術館 所蔵

表4 円環状の形が浮かび上がった例  
(色相・彩度図)

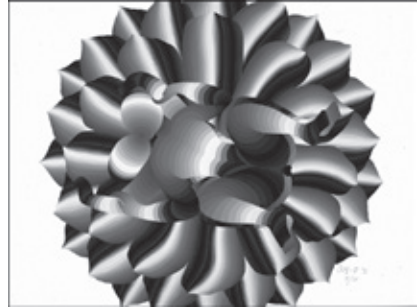
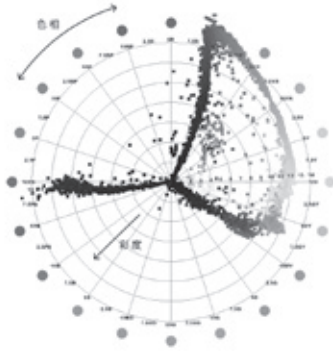


図6 巖嘔《レインボー・ナイト2》(1971)  
シルクスクリーン・紙 / 54.7cm ×  
73.4cm / 滋賀県立近代美術館 所蔵

表5 紫から緑の補色のラインが現れた例  
(色相・彩度図)

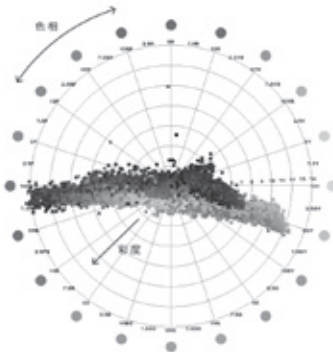
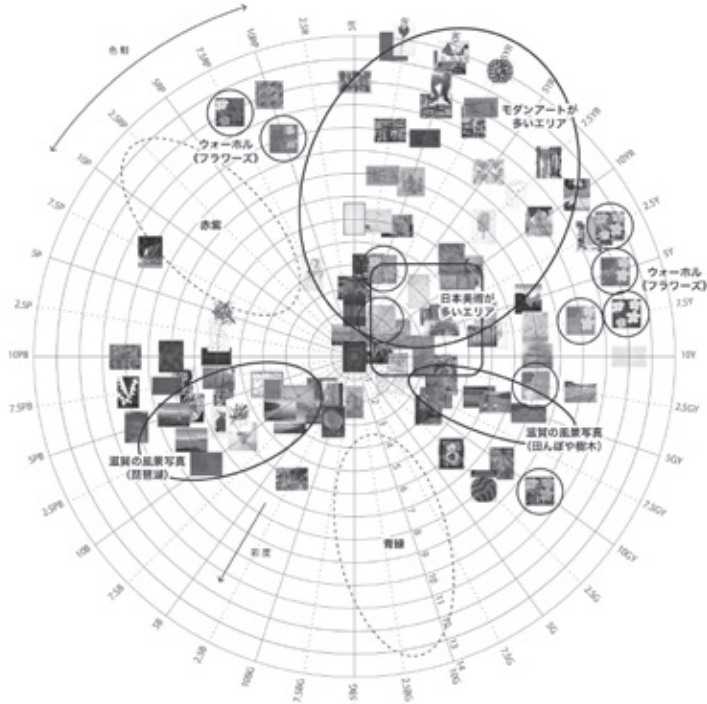


図7 草津市三大神社の藤棚の風景写真  
(撮影：青木 司)

### 3.1.3 色相・彩度図におけるカラーマップ

さらにこのプロジェクトでは、個別の画像の解析だけではなく、各画像から特徴的と思われる色を代表色としてピックアップし、そのマンセル値〔註7〕に基づいて色相・彩度図上へのマッピングもおこなった。なお、ひとつの画像内にも特徴的な色が複数存在し、どれを代表色として選ぶかは解析者である谷本の裁量も反映される。例えば、背景の大部分が白地の作品の場合、アプリケーションによる自動的な解析ではその色が上位の色としてあがってしまうが、“地”よりも“図”を認識しようとする人間の心理を考慮し、意図的に“図”から代表色をひろうなどの操作をおこなった。とはいえ、できるだけ客観的な結果を導き出すために、各画像内で頻出度の高い色を選ぶようにしたことにより、このカラーマップからある程度の解釈が許されると考える。おおまかには、次のような傾向を読み取ることができるだろう。

表6 代表色によるカラーマップ（色相・彩度図）



(1) 今回集まった滋賀の風景写真は枚数が限られているが、黄緑 (5GY) の方向へ放射状に伸びる一群と、青紫寄りの青 (10B) に伸びる一群に大別される。当然ながら自然の景観の多くが、水田や樹木の緑系と、琵琶湖や空の青系で占められることが分かる。

(2) 今回解析したモダンアート作品の大半は、風景の色相とは対象的に、赤 (R) から黄 (Y) にかけての分布が目立つ。

(3) 日本美術作品はモダンアート作品に比べて全体的に彩度が低く、中心近くに集中していることが分かる。

(4) シリーズ作品であるアンディ・ウォーホルの《フラワーズ》(1970) の分布が特徴的である。まるで、あらかじめこのカラーマップを俯瞰して色を選んだかのように、他の作品とほとんど重ならない位置を補間するように散らばっている。

(5) 青緑 (BG) や赤紫 (RP) 方向への分布が極端に少ないことが分かる。今回の解析の対象は収蔵作品の一部に過ぎず、この結果には本展の構成にあわせた作品のセレクトが影響している可能性もある。しかし今後、美術館の収集事業において、もしも色彩の視点でバランスを考えるようなことがあれば、ひとつの指標にできるかもしれない。



図8 《PhotoMusic 実験室》展示全景（撮影：奥村元洋）

### 3.2.1 PhotoMusic 実験室

「PhotoMusic」とは、画像から楽譜を生成することで、音楽として自動演奏するとともに、スライドショーを作成することができるアプリケーションである。[註8]《マンセル・カラーシステム・プロジェクト》と同様に、本展の出品作品や滋賀の風景写真を「PhotoMusic」で音楽に変換し、別個の大モニターで上映した。

なお、作品を音楽に変換するという行為が二次創作にあたる可能性があることから、モダンアートの対象としては、アンリ・マチス（1869—1954）やワシリー・カンディンスキー（1866—1944）など、没後50年以上の作家の作品に限定した。

### 3.2.2 色彩と音楽

絵画や色彩と音楽を関連づけるという発想はかつてから存在した。例えば、他ならぬカンディンスキーは、シェーンベルクやワーグナーの音楽に感銘を受けることで、作曲するように絵を描く方法を編み出し、やがて抽象絵画の先駆者と呼ばれるようになった。またカンディンスキーとの交流も深いパウル・クレー（1879—1940）は、画家になる前にプロのヴァイオリニストだったこともあり、音楽の美しさを絵画で表現しようと試みた。他方、音楽家の立場からは、モデスト・ムソルグスキー（1839—1881）が、実際にみた10枚の絵の印象をもとに組曲『展覧会の絵』（1874）を作曲したことがよく知られている。

対して、《PhotoMusic 実験室》でおこなおうとしたことは、かつて芸術家たちがおこなった“表現”とは異なる。《マンセル・カラーシステム・プロジェクト》において画像を色立体に変換したのと同じように、デジタル技術によって、絵画や写真を音楽という異なるメディアに置き換えることで、どのような見え方（聴こえ方）がするか、

文字通りの“実験”であった。ちなみに、色立体を提唱したアルバート・H・マンセル（1858—1918）自身も、その発想の根底には、色を音符のように表記し、色彩の調和を和音に準えるアイデアがあった。

### 3.2.3 PhotoMusic で生の楽器を鳴らす実験

技術面に関していえば、現時点の最新バージョンである「PhotoMusic 2.0」は、アプリケーションに搭載されたサンプリング音源を鳴らすことで音楽を生成するが、初期のバージョンではMIDI（＝電子楽器を接続するための共通規格）による外部出力も想定されていた。そこで今回、開発者の協力のもと、現行バージョンのプログラムを書き換え、本企画のため特別にMIDI出力が可能なパッケージを作成してもらうことになった。そして、生の楽器を演奏させるという試みもおこなった。

そこで使用したのがパイプオルガンである。本学にほど近い湖西の工房において、アンティーク家具などを組み合わせて手作りされたもので、電気で送風することで実際にパイプから音を鳴らし、MIDIによる自動演奏も可能な仕組みになっている。このオルガンと「PhotoMusic」を繋ぐことで、作品や風景写真などの画像から、デジタルではない生の音を鳴らすことができるのではないかというアイデアである。

ただし、「PhotoMusic」でパイプオルガンを鳴らすためには技術上複数のハードルがあった。そのため、展覧会開催前から幾度もオルガン工房に通って事前実験をおこなった。具体的には、「PhotoMusic」では、赤・オレンジ・黄・緑・青・紫・グレー



図9 オルガン工房における事前実験（撮影：筆者）

の7色に応じた音色に加え、ベースとパーカッションを合わせて9つのチャンネルを有するが、このパイプオルガンが扱えるのは1チャンネルだけである。そのため、実験の初期段階においては、画像内の特定の色に対してしか音を鳴らすことができず、偏った色相で構成された画像の場合、全く無音になってしまうなどの現象が起こった。そういった問題が分かるたびにアプリケーションの開発者である南方郁夫氏に報告し、プログラムの書き換えやデバッグをお願いするということを繰り返した。

また、自動演奏の正式な公開を展覧会最終日に設定することにより、会期中も実験を継続した。11月17日には、開発チームである南方郁夫、三木 学両氏を会場に招き、システムの最終調整もおこなった。



図10 開発者を招いた最終調整（撮影：筆者）

こうして、最終日の11月26日を迎えた。会場では、コンピューターとパイプオルガン、大モニターを繋いで特別なセッティングをした。そして、学生や一般の方、学芸員、プロジェクトチームメンバーなど十数名が居合わせるなか、「PhotoMusic」で画像を読み取っていくようすをリアルタイムにモニターで表示しながらパイプオルガンの自動演奏をおこなった。



図11 展覧会最終日のパイプオルガン自動演奏  
（撮影：穴風光恵）



図12 PhotoMusic の操作画面  
※ カンディンスキー 《小さな世界 I》  
（1922 / リトグラフ・紙 /  
35.3cm × 27.7cm /  
滋賀県立近代美術館 所蔵）  
から楽譜を生成した様子



なお、最終的に演奏に選んだのは、連作であるマチス《シャルル・ドルレアン詩集》(1950)、カンディンスキー《小さな世界》(1922)に加え、速水御舟《洛北修学院村》(1918)などの日本美術作品群、さらに滋賀の風景写真であった。「PhotoMusic」におけるパラメーターの設定によって音の鳴り方は様々に変化するが、画像から奏でられる意外なメロディに耳を傾けることで、それぞれの作品の異なる断面を覗き見る感覚を共有した。

### 3.2.4 パイプオルガンの意味性

パイプオルガンという存在からは教会が連想され、かつての伝統的・物語的な芸術から宗教色を排除しようとするモダニズムの考え方とは異質に感じられるかもしれない。しかし、このオルガンは古い家具や電子部品を組み合わせたブリコラージュ(=寄せ集めて自分で作ること)でできており、あえて表現すれば、過去の様式を記号として扱うポスト・モダン(=禁欲的な近代主義に対する反動から生まれた思想)的であるともいえる。どう捉えた場合でも、モダニズムといテーマを際立たせる存在になるのではないかと考えた。また、デジタルデータからアナログの音を生み出すという行為により、モダニズムに立脚しながらも次へ展開するべき私たちの方向性を見据えたいという思いがあった。

## 4. さいごに

2006年、本学情報メディアセンターの業務として着手したカラーマネジメント研究を端端に、その後、内外で色彩にまつわる企画を展開したことは成安造形大学紀要第8号に寄稿したとおりである。ここで再び学内において発表できたことを喜ばしく思う。

とりわけ色彩はとても普遍的で、ジャンルを超えて誰もが関わり、考えることができる主題の一つであるといえる。今回の展覧会には、これからの美術館や大学のあり方、またそれぞれと地域との関係性を考える契機という意味合いも含まれていたが、その中で色彩というテーマが多様なものを繋ぐ力を持ち得たことを実感している。様々な次元で細分化や専門化が進む世の中において、学際的な視野に立って、今後も色彩というテーマを捉えていきたい。

[註1] 《マンセル・カラーシステム・プロジェクト》

制作協力：三木 学、真下武久、馬場晋作、五十嵐亮介、成安造形大学 情報メディアセンター

画像提供：青木 司、穴風光恵、上坂雅彦、寺沢菜早

2] 《PhotoMusic 実験室》

制作協力：南方郁夫、三木 学、馬場晋作、五十嵐亮介、エフベック・オルガン工房、成安造形大学 情報メディアセンター

画像提供：青木 司、穴風光恵、上坂雅彦、寺沢菜早

3] あいちトリエンナーレ2016 コラムプロジェクト「アーティストの虹 ― 色景」

「あいちトリエンナーレ2016」(2016年8月11日～10月23日)のコンセプトを補間するための小企画のひとつとして、出品作家が選んだ色からカラーチャートを作成するというプロジェクト。色のもともなった写真やその解析画像、作家がつけた色名などをしおり状のカードとして編集した。同カードは展示するとともに鑑賞者が持ち帰ることもできるようにした。(ディレクション：三木 学/監修：港 千尋/デザイン：谷本 研)

4] Feelimage Analyzer

「Feelimage Analyzer」はピバコンピュータ株式会社の登録商標である。「Feelimage Analyzer」の色名解析技術は、大阪府立大学の馬野元秀研究室の協力を得て開発した独自技術である。「Feelimage Analyzer」の色立体解析技術は、多摩美術大学の港千尋研究室の協力を得て開発した独自技術である。「Feelimage」テクノロジーは、特許出願中である。「Feelimage」テクノロジーを実現する各プログラムの著作権は、ピバコンピュータ株式会社に帰属する。

5] マンセル色立体

マンセル色立体(マンセル・カラー・システム、マンセル表色系とも)とは、色を色相・明度・彩度の三属性を用いて体系的に分類、表記する方法である。この表色系を提唱したアルバート・H・マンセル(1858―1918)は、アメリカの画家で美術教師でもあった。それまで色の名前というのは曖昧で誤解を招きやすいことから、合理的に表現したいと考えた

マンセルは、1898年に研究を開始し、1905年に著書『色彩の表記(A Color Notation)』として発表した。その時期が、いわゆるモダンアートの黎明期に重なるのは単なる偶然ではないはずである。伝統にあらがって新しい方法を模索する姿勢は、まさにモダニズム的ということがができる。

6] 色の三属性

【色相】円周にあたる色相は、赤(R)、黄赤(YR)、黄(Y)、黄緑(GY)、緑(G)、青緑(BG)、青(B)、青紫(PB)、紫(P)、赤紫(RP)の合計10色相に分類される。さらに各色相の中心を5として10分割するため、本来は合計100色相ということになる。ただし、今回の分析ではその10を4分割にしているため、RやYRなどの前に2.5、5、7.5、10といった数値が付く。よって、ここで分類されるのは合計40色相である。

【明度】高さにあたる明度は、最も暗い反射率0%を底面、最も明るい反射率100%を上面として10分割される。中心軸は無彩色であり、白、段階的な灰色、黒が位置する。そして、一定以上の色味を帯びると、中心から円周に近づくことになり、有彩色になる。なお、無彩色の場合は、明度数値の前に「N(Neutral)」をつけて表記することになる。

【彩度】半径にあたる彩度は、中心軸から放射状に離れるほど鮮やかになり、0～14程度の目盛りで表される。ただし、必ずしも14が最高値ということではない。最高彩度は色相によって異なり、それぞれの明度も同じではない。また、顔料などの発達により、物体色においても彩度が14以上の色が存在する。そして、デジタルカラーの登場により、さらに高彩度の色が生み出され、今後も拡張していく余地を残しているといえる。

7] マンセル値

マンセル値は以下のように表記される。

表7 マンセル値の表記方法

例1: 2.5GY7/10 例2: N9.0 例3: N1.0  
色相 明度 彩度 (白) (黒)

8] PhotoMusic

「PhotoMusic」はクラウド・テン(株)と(株)ビジョナリストの登録商標である。プロデューサー：南方郁夫/クリエイ

タイプ・ディレクター：三木 学／音楽  
ディレクター：DOZAN11／システム開  
発：Cloud10／インターフェースデザイ  
ン：木村利行／ロゴデザイン：谷本 研  
／スーパーバイザー：港 千尋／協力：  
トランス・センサー・ラボラトリー／  
制作著作：Cloud10、Visionarist

< PhotoMusic の音楽生成のしくみ >

PhotoMusic において、楽譜と音楽はお  
おまかに次のようなしくみで生成される。

- 1) 長方形としての画像データを2 or 4  
オクターブ・4小節相当のモザイクに  
分ける。画像の上下がオクターブ  
(音階)、左右が小節(時間)に対応  
している。
- 2) モザイクから赤・橙・黄・緑・青・

紫・灰の7色に分解し、各色に楽器  
(音色、音源)を当てはめる。

- 3) モザイクの1列の最明度のマスから主  
旋律を生成する。
- 4) 15種類のビートモードの中から1種類  
を選択後、画像の明るさに応じて  
激しさが変化する。 など

#### その他の参考文献

港千尋、三木学・編著『フランスの色景 写  
真と色彩を巡る旅』青幻舎、2014年

アルバート・H・マンセル・著『色彩の表  
記』日高杏子訳、みずぎ書房、2009年

映像作品「水流Ⅷ」の制作報告

The Making of the video, “The Stream Ⅷ ”

櫻井 宏哉

Hiroya SAKURAI



# 映像作品「水流Ⅷ」の制作報告

The Making of the video, "The Stream Ⅷ"

櫻井 宏哉  
Hiroya SAKURAI

教授 (メディアデザイン領域 : 映像)

In the man-made waterways of rice paddies, the water in nature must follow artificial rules. In that way, nature is made abstract, giving rise to a new form of beauty distinct from the natural state. The theme of this work is the liveliness of the water as it follows the man-made course.

This work is a ballet using the sound and the movement of the algae and water. With the waterway as the theater, I filmed the choreography of the algae that flows in the water.

In this episode Ⅷ of the series, "The Stream," I focus on the origin of the stream in the waterway at the rice field. The stream is produced by a man-made pump, which draws underground water to the surface and carries it to the rice field. The water in the rice field then drains through a huge drainage pump station that feeds into a large river.

When editing the recording, I retained only the frequency that sounds like a person's voice. The resulting sound that the audience can hear is like a chorus.

## 1. 「水流Ⅷ」について

水田という人工の中で水という自然が人工の規則に従う。そこでは自然が抽象化され、自然のままとは異なる美しさが現れる。この作品は水の躍動を伝える藻の動きと音響によるバレエである。水路を劇場として、水流により振り付けられた藻の動きを撮影している。テーマは水田という人工に沿う水の躍動感である。

今回、私は水田の水流を生み出す原因に注目した。水流は人間の作ったポンプによって生み出される。ポンプは地下から水をくみ上げ、水田に送る。水田を通過した水は巨大な排水機場によって大河に排出される。サウンドトラックはすべて水田で録音された音響である。録音された音は編集の時、人の声に近い周波数だけ残して使用されている。その結果、コーラスのように聴こえる。[図1]

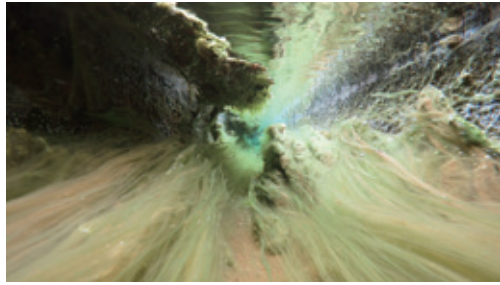


図1 「水流Ⅳ」素材：映像 再生時間：6分52秒 制作年：2017年  
所蔵：櫻井宏哉蔵（撮影：櫻井 宏哉）

## 2. 撮影

### 2.1 撮影場所と期間

今回は撮影の場所は大きく分けて2つある。

#### ・宇治市巨椋池（おぐらいけ）干拓田

宇治市巨椋池（おぐらいけ）干拓田の灌漑用水路を撮影している。

撮影にあたり水路を管理している巨椋池土地改良区に届出をおこなった。期間は6月7日から9月13日である。

今回は撮影場所は昨年までの2箇所から、5箇所に増やした。いずれも地下水を水源とする用水路である。地下水は河川の水と比較して透明度が高い。この作品では奥行きを伴う構図によりテーマ表現を行っており、透明度の高さは重要である。

#### ・巨椋池排水機場

正式名は近畿農政局・巨椋池排水機場。住所は京都府京都市伏見区向島下五反田である。

巨椋池排水機場管理協議会の許諾を得て、2017年5月23日と7月18日に場内を撮影。

今回、私は水田の水流を生み出す原因に注目した。水流は人間の作ったポンプによって生み出される。ポンプは地下から水をくみ上げ、水田に送る。水田を通過した水は巨大な排水機場によって大河に排出される。以下、巨椋池排水機場について巨椋池農地防災事業所のウェブサイトより引用した内容を記す。

「巨椋池地区は、京都府南部山城盆地の一級河川淀川（宇治川）の左岸に位置し、京都市、宇治市及び久世郡久御山町の2市1町にまたがる、農地面積1,310haの地域です。ここの基幹的な排水施設である巨椋池排水機場は、巨椋池大規模開墾計画に基づ

いて国営及び京都府営事業により昭和7年度から9年度にかけて築造され、同時期から造成された排水路などと一体的に排水管理が行なわれ、地域の農業排水や洪水の被害防止に重要な役割を果たしてきました。しかし、巨椋池排水機場の構造に経年変化等による脆弱な部分があることに加えて、流域内の継続的な都市開発等による流出形態の変化によって、地区低平部の農地や施設の湛水が増加していることから、同排水機場の全面的な改修を行ない、併せて、関連事業による 地区内排水路の改修を行なうことにより、施設の機能回復と災害の未然防止を図り、農業生産の維持及び農業経営の安定に加えて国土の保全に資するものです。」巨椋池農地防災事業所のウェブサイトより。[図2] [図3] [図4] [図5]



図2 撮影場所：宇治市巨椋池干拓田と撮影装置  
(撮影：櫻井 宏哉)



図3 撮影場所：巨椋池排水機場  
(撮影：櫻井 宏哉)



図4 撮影場所：巨椋池排水機場  
(撮影：櫻井 宏哉)



図5 撮影場所：巨椋池排水機場の内部  
(撮影：櫻井 宏哉)



## 2.2 撮影機材

ビデオカメラ：GoPro HERO4 Black/CHDHX-401-JP 1台

録画データ：Quicktime 3840×2160pix 29.97p、

Sony FDR-AX100 1台

録画データ：MPEG4 3840×2160pix 29.97p

接写レンズ：INON 水中ワイドクローズアップレンズ UCL-G165 SD 1台

スライダー：リーベック LIBEC ALLEX ALX S8 1台

ドリー：Lebec DL-2 1台

マイク：水中マイク（ハイドロフォン）Aquarian Audio Products 社 H2a-XLR

Hydrophone 1台

IC レコーダー：ZOOM H4n リニア PCM レコーダー 1台

スライダーは写真のような水路を跨ぎ、固定できるように2本の横木に取り付けた。横木には4つのアジャスターを取り付け、水平を保つための調整を可能にしている。またスライダーの方向は下向きに設置した。これは水中にカメラを配置するため、通常とは逆にカメラを取り付けるためである。

## 2.3 撮影内容

カメラは水路の幅中央、高さも水深のほぼ中央に配置され、水が流れてくる方向にレンズを向けて撮影されている。また撮影にはスライダーを使用した。スライダーとは、カメラを載せた台がレールを移動するという装置。スライダーに取り付けられたカメラは水が流れてくる方向に前進または後退し撮影する。同様に水流と垂直方向にレンズを向け、水路の壁面上の藻を移動撮影した。この撮影は接写レンズを装着したGoPro HERO4 Blackを用いた。[図6] [図7]



図6 移動撮影装置はスライダーと木材の支持体、水平に設営するためのアジャスターと水準器で構成（撮影：櫻井 宏哉）



図7 移動撮影装置と水中のカメラ（撮影：櫻井 宏哉）

### 2.3.1 4K 撮影の導入

次項、編集の項で述べる演出効果のため編集4K 撮影可能な GoPro HERO4 Black を使用している。

### 2.3.2 移動撮影

巨椋池排水機場での撮影での移動撮影は以下のようにおこなった。

ドリーを用いた撮影をおこなう。場内の通路にドリーに据えたカメラを直進させ撮影した。この際、2台のカメラで同時撮影をおこなった。Sony FDR-AX100の上にミニボール雲台をセットし GoPro HERO4 を乗せた。

GoPro HERO4 のレンズは35mm レンズ換算で焦点距離は17.2mm。FDR-AX100は35mm レンズ換算で焦点距離 29mm。通路の正面に2台のカメラのレンズを向け撮影。次いで2回目に側面にカメラのレンズを向け撮影した。編集時に2つのカメラの映像を比較し、場内の側面方向の映像は機器の細部を捉えた FDR-AX100 を使用し、正面方向の映像は場内の全体を捉えた GoPro HERO4 を使用した。

水田の水路での撮影での移動撮影は以下のようにおこなった。

コンクリート製水路の内側に藻が糸を束ねたように密生している。またその範囲も数十メートルの長さの水路に沿って繁茂している。水路の中央にカメラを配置、水流の正面から撮影した。水の透明度によるが手前数センチから10メートル前後が構図に納まる。今回、移動撮影の装置としてスライダーを用い、水が流れてくる方向に前進または後退し撮影する。今回もこの収録した移動撮影素材のいくつかを編集時に拡大、または縮小することによる映像表現を試みた。

### 2.3.3 Log 撮影

Log 撮影とは画面の白飛び、黒つぶれのない幅広いダイナミックレンジを可能にする撮影時の記録方法である。

GoPro HERO4 Black には Log 撮影記録を可能にするカラー設定「フラット」を選択して撮影した。

### 2.3.4 録音

Aquarian Audio Products 社の水中マイク（ハイドロフォン）H2a-XLR Hydrophone を使用した。今回も映像との同時録音はほとんどおこなっていない。前回、水口のパイプ内にマイクを入れることによって生じる音を収録した。貝殻を耳にあてると聴こえてくるような、持続音である。これはパイプの外の音響が、パイプの共鳴しやすい周波数が強調されて特定の高さの音が持続するように聴こえる。

今回は水口を用いず、ガラス製のコップや瓶を撮影現場に配置した。これにより複数の水田の環境音による共鳴音を採取した。この収録された音を編集時にオーディオ

エフェクトのイコライザーに通し、さらに限定された周波数、音質に加工した。音質はできるだけ人の声に近づけ、音楽的な印象を強調した。[図8]



図8 水中用マイク、ICレコーダー、瓶  
(撮影：櫻井 宏哉)

### 3. 編集

編集アプリケーションは Adobe Premiere CC を使用した。

#### 3.1 4K 撮影素材とトリミング

従来の HD 撮影素材のサイズは横1920×縦1080pix。4K 撮影素材のサイズは 3840×2160pix のサイズ。4K で撮影した大きなサイズの素材をそれより小さい HD サイズの編集プロジェクトに読み込み編集した。したがって HD サイズの画面には大きなサイズの素材は全体が表示されず部分だけ表示される。写真表現でトリミングという用語に相当することが可能となる。具体的には全面積の1/4が表示される。編集時にその1/4のサイズを用いることもあれば、縮小し全体を表示することもできる。またその縮小の過程をズームアウト的に表現したり、パンやティルトといった移動表現ができる。この演出を行うため4K 撮影可能な GoPro HERO4 Black を使用。

[図9] [図10]

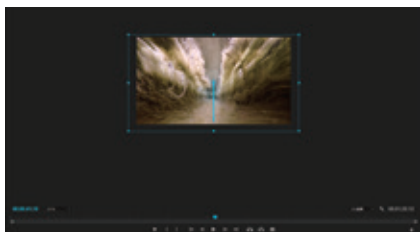


図9 4K サイズの擬似カメラワーク 1  
(撮影：櫻井 宏哉)

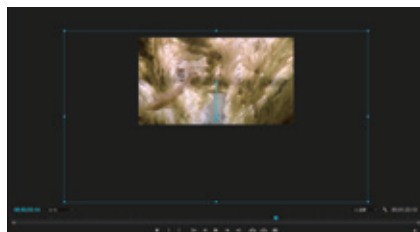


図10 4K サイズの擬似カメラワーク 2  
(撮影：櫻井 宏哉)

## 3.2 Log 撮影素材とカラーグレーディング

### ・ホワイトバランスの設定

水流シリーズでは、色彩の調整は毎回、Premiere で色相の調整フィルターでおこなってきた。主にホワイトバランスの補正や輝度、コントラストの微調整であった。今回本格的に Log 撮影をおこなった理由は、GoPro HERO4のホワイトバランスは手動で色温度を設定できないため、時々大きくホワイトバランスが合わない時があった。したがって編集時にホワイトバランスを調整を可能にする機能が必要だったことが挙げられる。

GoPro HERO4のホワイトバランスの設定を「Native」に設定。Native オプションでは、撮影後の編集段階でよりホワイトバランス調整が可能になる。

### ・色彩の選択

その他、藻のもともとの固有色として黄色が強く、作品の全体のトーンを緑にしたい場合、色合わせが困難だった。カラーグレーディングによって黄色を抑えられることもある。

### ・白飛びの防止と中間明度・色相の豊かな描写

撮影の多くは6月と7月の晴天でおこなっている。藻が白い場合、白飛びを抑えられる。また従来おおざっぱなグラデーションでしか描写できなかった中間明度の諧調と色相の豊かな描写できる。[図11]

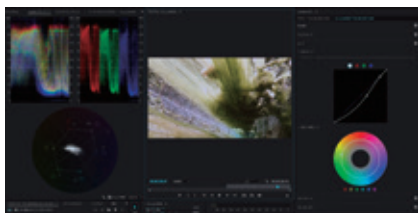


図11 カラーグレーディング  
(撮影：櫻井 宏哉)

## 3.3 音響の演出

今回も同時録音の音響を Adobe Premiere CC のイコライザーで周波数の強調、省略をおこなった。前回と異なるのは収録場所が異なる音響を編集ソフト上で重ね周波数の異なる音響の重なりで音色を変化させたことである。

## 3.4 シークエンスの構成

6分52秒のうちタイトルやエンドクレジットを除く作品の再生時間は6分52秒 (412)

である。この全体を6つのシークエンス（章）で構成する。

以下はその詳細である。時間表記について秒以下の単位フレームは四捨五入で秒換算。

タイトル : 12秒

第1章 水流を生み出す施設と水路 : 71秒

1) 1節 巨椋池排水機場 : 41秒 [図12]

2) 2節 水田の水路 : 30秒 [図13]



図12 シークエンスの構成 水流を生み出す施設と水路：巨椋池排水機場（撮影：櫻井 宏哉）



図13 シークエンスの構成 水流を生み出す施設と水路：水田の水路（撮影：櫻井 宏哉）

第2章 安定・調和 : 34秒

1) 1節 藻の造形物 : 11秒 [図14]

2) 2節 藻のトンネル : 23秒 [図15]



図14 シークエンスの構成 安定・調和：藻の造形物（撮影：櫻井 宏哉）



図15 シークエンスの構成 安定・調和：藻のトンネル（撮影：櫻井 宏哉）

- 第3章 変動・分離 : 82秒
- 1) 1節 藻のトンネル : 22秒 [図16]
  - 2) 2節 藻の分離 : 60秒 [図17]

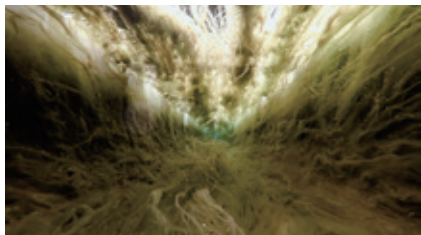


図16 シークエンスの構成 変動・分離：藻のトンネル（撮影：櫻井 宏哉）

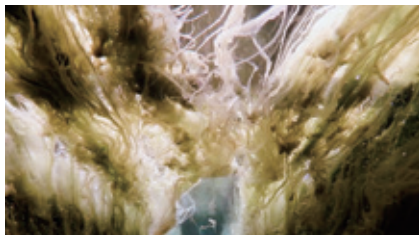


図17 シークエンスの構成 変動・分離：藻の分離（撮影：櫻井 宏哉）

- 第4章 安定・調和 : 63秒
- 1) 1節 白色の藻1 : 29秒 [図18]
  - 2) 2節 白色の藻2 : 20秒 [図19]
  - 3) 2節 緑の藻 : 14秒 [図20]

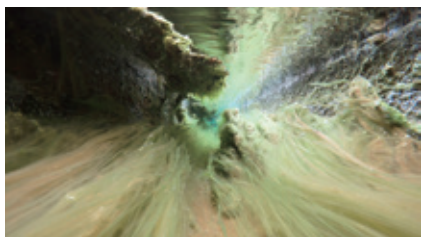


図18 シークエンスの構成 安定・調和：白色の藻1（撮影：櫻井 宏哉）

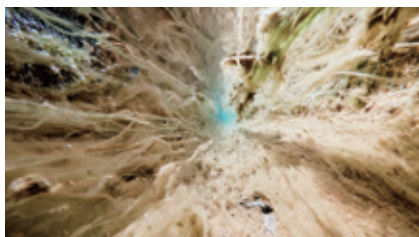


図19 シークエンスの構成 安定・調和：白色の藻2（撮影：櫻井 宏哉）



図20 シークエンスの構成 安定・調和：緑色の藻（撮影：櫻井 宏哉）

- 第5章 変動・分離 : 39秒
- 1) 1節 分離の過程 : 13秒 [図21]
- 2) 2節 土の粒子の流れ : 26秒 [図22]



図21 シークエンスの構成 変動・分離：分離の過程（撮影：櫻井 宏哉）



図22 シークエンスの構成 変動・分離：土の粒子の流れ（撮影：櫻井 宏哉）

- 第6章 変動・浄化 : 74秒
- 1) 1節 気泡を伴った水流 : 49秒 [図23]
- 2) 2節 気泡の渦巻 : 25秒 [図24]



図23 シークエンスの構成 変動・浄化：気泡を伴った水流（撮影：櫻井 宏哉）

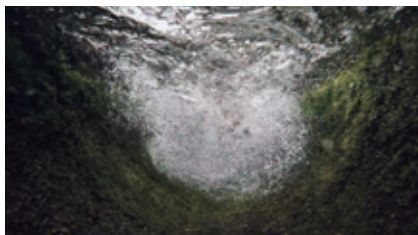


図24 シークエンスの構成 変動・浄化：気泡の渦巻（撮影：櫻井 宏哉）

エンドクレジット : 37秒

#### 4. 作品発表

「水流Ⅷ」（The Stream Ⅷ）は以下の映画祭で発表される。

映画祭名：第71回カンヌ国際映画祭、ショートフィルム・コーナー部門  
 会 期：2018年5月14日-19日  
 開 催 地：カンヌ、フランス

カリキュラムとマネジメント：  
危機の時代のカリキュラムを考える

Curriculum and Management：  
Considering the Curriculum in the Age of Crisis

渋谷 亮

Ryo SHIBUYA





# カリキュラムとマネジメント： 危機の時代のカリキュラムを考える

Curriculum and Management : Considering the Curriculum in the Age of Crisis

渋谷 亮  
Ryo SHIBUYA

講師（共通教育センター・地域実践領域：教育哲学・教育思想史）

Among the recent trends of discussions about curriculum, the rise of the status of management is noteworthy. Historically, however, curriculum and management have been closely linked. In this paper we will first examine some of the terminology used in the new government curriculum guideline. Next, a historical overview of the curriculum research will be conducted in order to follow the changes of logics in the discussions about curriculum and management. Finally, by examining the way of management in the new spirit of capitalism, we will reconsider the current situation surrounding curriculum.

## 1. 危機の時代のカリキュラム

2017年3月に新しい学習指導要領が公示された。これまでになかった前文が加えられ、本文では既存の内容がより詳細に規定されるとともに、新規の項目が大幅に付加された。総則に限れば、その分量は倍近くになっている。それは、この30年ほど進められてきた教育改革の一つの到達点のようにも見える。

80年代以降の日本の教育行政は、政治主導の教育改革のもと、学校と社会の関係の再構築を目指し、学力観の転換を推し進めてきた。とりわけ2000年前後から矢継ぎ早に教育政策を打ちだし、学校による自己評価の実施と公表の義務化、教員免許更新制の導入などによって、学校教育の社会に対する責任を明確化するとともに、「生きる力の育成」を掲げ、教育目標の重視、言語活動の充実などを試みてきた。新学習指導要領はそうした歩みを踏まえ、新しい教育課程のあり方を示すものとなっている。

実際、新学習指導要領の前文は、「社会に開かれた教育課程」という理念を高らかにうたい、学校教育が社会のためにあること、それゆえ学校と社会が連携して教育に取り組むことを強調している。また学習指導要領の全体を通じて「資質・能力」という言葉が繰り返され、学校教育の役割が単なる知識の教授ではなく、実際的かつ総合的な資質・能力の育成であることが主張されている<sup>[註1]</sup>。それは確かに、新たな社会に対応する学校教育の方向性の一つなのかもしれない。

とはいえ、そこで示されている要請は極めて多岐にわたり、それだけではなく、相互に相反している。例えば個人と社会、柔軟性と計画性、画一性と多様性といった

諸々の対立が調停されないまま、その解決が学校や教師に委ねられている。すなわち各々で、多様化する個人の要求と社会の必要を調整し、状況に合わせた柔軟性と厳密な計画性を両立させ、学習指導要領や教育委員会が示す画一的な基準に従いながらも、独自の創意工夫を行わなければならない。それは、学校や教師にとって過大な要請ではないだろうか。

こうした事態は、この数十年のあいだ日本を含む先進諸国で進行した社会基盤の再編成による、なかば必然的な帰結のようにも思われる。ジークムント・バウマンやジョック・ヤングらが論じているように、1970年代に労働と家族を中心とした統合的な社会という理念が破たんし、政策の軸が新自由主義的な路線へと転換されていった。それとともに労働力の流動化、格差の拡大、不断の移動、ライフスタイルの多様化、文化融合の常態化など、流動性とカオスを基盤に社会は再編成されていく。バウマンはそこに個人のアイデンティティが液状化する「リキッド・モダニティ」を見だし、ヤングは包摂と排除を繰り返すことで収益を引きだす「過剰包摂社会」の到来を見ている〔註2〕。

それは、資本の運動が生み出す根源的な不確実性に根差し、諸々の葛藤と対立の恒常化を基本とする後期近代の社会だといえるだろう。1990年代には、イギリスをはじめとした先進諸国において「第三の道」と称される社会参加型の福祉政策が試みられ、包摂と排除のサイクルはますます加速していった。人々はいまや、流動性とカオスに飲み込まれ、不安に苛まれながら競争へと関与し、絶えず自己を評価し改善することを迫られている。

日本では1980年代に中曽根政権下で新自由主義への舵きりが試みられ、とりわけ1991年にバブル経済が崩壊して以降、その転換は本格化する。終身雇用、年功序列、家族給といった日本型雇用は変更を余儀なくされ、1995年に日経連が公表した「新時代の『日本の経営』」によって、非正規労働の拡大の指針が示された。また極端な少子高齢化、未婚率の上昇、格差の拡大などとともに、一億総中流という暮らしの戦後体制を支えてきた社会基盤は一挙に不安定化する。こうした状況のなかで、教育においても新自由主義的かつ新保守主義的な政策が推し進められていった。学校選択制の部分的導入、全国学力テストの開始、学校評価の厳密化などによって学校間の競争が促進され、能力主義と情報公開を軸とする教育体制が整えられていく〔註3〕。

さらに各学校には、学校運営と教育方法の不断の改善が要請され、カリキュラムが両者をつなぐ要として強調されていった。そこでは目標管理ともいべき仕方で統制が行われるようになっていく。すなわち、教育基本法や学習指導要領において種々の目標が定められ、その達成のためにより具体的な目標が各学校で掲げられ、それが評価や管理の基準となる。実際、新学習指導要領をはじめとして、教職課程のカリキュラム改革などにおいても、「アカウントビリティ」や「質保証」の名のもとで教育目標はより重要な位置づけを与えられつつある。こうして目標—計画—実施—評価という形式の厳格化とカリキュラムを中心としたマネジメントの徹底が図られようとして

いるのだ。

一方で個別性、柔軟性、多様性が強調されながらも、他方で無数の目標のもとで計画性や画一性が要請される。これらすべてはあたかも、カオスと流動性の迫りだしという時代の危機に対処するための必然であるかのように進行している。とはいえそれは、回し車の内を訳もわからず走り続けるハムスターを大量生産するだけに終わるということもあるのではないだろうか。自己目的化したように見える不断の改革の連鎖は、すでに閾値を超えつつあるようにも思われる。

ここで私たちに可能なアプローチの一つはおそらく、近年の教育政策を、危機の時代における一種の症状として理解し、それとうまくつきあう道を模索することである。そのためにはまず、症状を形成する事象の連鎖と配置を理解しなければならない。その際、カリキュラムをめぐる制度と技法の歴史を、社会基盤の変遷の内で思想的に検討することは無意味なことではない。これによって隠れた対立や葛藤を新たに見いだし、必然のように見える現在を偶然の連なりへと解放できるからである。それは、ミッシェル・フーコーが「私たち自身についての歴史的存在論」と呼んだ企てのように、現在とは別の仕方でも考え行為する道筋を開き、対抗的なものの位相を見定める試みとなるだろう〔註4〕。本論考は、その下準備として、研究の大まかな見取り図を描くことを目指す。

さしあたりここでは、カリキュラムとマネジメントの関係に焦点を合わせたいと考えている。実際、カリキュラムとマネジメントは、歴史的に不即不離の関係にある。マネジメント技法は20世紀初頭以来、資本主義的な生産管理の中心を担うとともに、学校教育の運営や管理にも大きな影響を及ぼしてきた。さらに近年のカリキュラムをめぐる動向において顕著なのは、マネジメントの地位の上昇である。こうした事態を、マネジメント技法の変容との関連で考察する必要があるだろう。以下ではまず、新学習指導要領のキー・タームの検討を通して、カリキュラムとマネジメントの現在を確認する。さらにカリキュラム研究の歴史的な概観によって、カリキュラムとマネジメントの関係の変化を見る。最後に資本主義の新たな精神におけるマネジメント技法を検討することで、現状を理解するための図式を示したい。

## 2. 資質・能力とカリキュラム・マネジメント

新学習指導要領は、「主体的・対話的で深い学びの実現」を掲げ、そのために多様な新機軸を導入している。とりわけ「資質・能力」と「カリキュラム・マネジメント」は、カリキュラム編成の要として位置づけられており、新学習指導要領の精神を体現するものといえるだろう。そこで強調されているのは、社会的に有用な能力を育成するという課題の重要性と、そうした課題への組織的な対応の必要性である。とはいえ、この二つの言葉は、曖昧な点を含んでいる。以下では、これら二つの言葉の検討を通して、カリキュラムとマネジメントの現在を確認していく。

## 2.1 資質・能力と新自由主義的な主体

奈須正裕によれば新学習指導要領の特徴の一つは、その作成過程において、教科別の部会に先立って「教育課程特別企画部会」を設置し、ほぼ10か月の間、基本理念の明確化に費やした点にある。そこでは、現代社会における学校教育の役割が見直されるとともに、「育成すべき資質・能力」の検討がなされたという<sup>[註5]</sup>。とはいえ注意すべきは、「資質・能力」という言葉が頻繁に使われはじめたのは、それほど昔ではないということである。この言葉はおそらく、70年代に「教員の資質能力」というかたちで頻出するようになる。さらに90年代後半から学校が育成すべきものとしての「資質や能力」という言い方が中教審の答申や学習指導要領に登場し、新学習指導要領では「資質・能力」がキー・タームの一つとなる。それは、単なる知識や技術とは異なって、態度や人間性を包括し、状況に応じて有効な活動を行う力を意味しているといえる。

新学習指導要領が強調していることの一つは、学校が、知識や技術の習得の場から資質・能力の育成の場に転換しなければならない、ということである。それは、この30年ほどの教育政策における学力観の転換を背景としている。教育の自由化を模索した臨時教育審議会は、「個性重視の原則」を打ちだし、変化する社会に応じた学力の捉え直しを提言した。1989年公示の学習指導要領では、関心・意欲・態度の評価が重視されるとともに、「新学力観」というスローガンが提示される。

さらに1996年の中教審答申は、これからの時代に必要な「資質や能力」として「生きる力」という理念を掲げた。そこでは、主体的な判断および問題解決のための資質や能力、協調性や思いやりなどの豊かな人間性、そして健康や体力が「生きる力」だとされ、知徳体のバランスが強調された。また2006年の教育基本法は教育目標を細かく区分し、様々な態度を養うことを要請している。こうして学力を、知識や技術というより、「総合的な人間力」という観点から把握し、多様な資質や能力をリスト化するという方向性が明確化されていった。

2007年の学校教育法の改正では、学力の三要素が、①基礎的な知識・技能、②これを活用する思考力・判断力・表現力等、③主体的に学習に取り組む態度として整理される。また翌年公示の学習指導要領では、「言語活動の充実」が謳われ、言語を用いた多様な表現活動が、思考力・判断力・表現力の育成手段として位置づけられている。知識・技術の習得よりも、その活用が焦点化され、コミュニケーションや協同性・協働性が重視されるようになったといえるだろう。新学習指導要領は、こうした方向性を踏襲している。教育課程企画特別部会の『論点整理』やその後の中教審答申などでは、まず「何ができるようになるか」という資質・能力の観点から、学習内容や学習方法を組織する必要性が指摘され、そのうえで資質・能力の三つの柱がまとめられている<sup>[註6]</sup>。こうしていまや学校教育に対して、実際的で広範な能力の育成が強調されるようになったのである。

このような展開において目指されているのは、《変化する不確定な状況に対して多

様な能力を通じて能動的に働きかける主体》である、とあってよい。それは、指示された通りに知識や技術を用いる従順な主体と対比される。むしろ、カオスと流動性の内で自己をコントロールする自律的な主体である。実際、資質・能力をめぐる議論では、「メタ認知」という言い方で、状況や自己を観察し判断する審級が想定されている。こうした主体は、自己責任のもとで自らを統治する新自由主義的な主体として捉えることができる。しばしば指摘されるように新自由主義は、個々人を直接的に統制するのではなく、競争の現実空間を整備し、個々人を競争へと関与させ、自己管理を促すことで統制する。そこでは主体は、能力の集合としての人的資本という観点から把握され、自らの能力を育成し発揮する義務と責任を負う。これによって新自由主義は、画一的な管理ではなく、多様性と変化を組み込んだ管理を実現するのである。

それゆえ、学校を資質・能力の育成の場に転換する試みは、学校を新自由主義的な体制の主要な装置として再配備するものだと見える。とはいえ、学校教育において、実際的で広範な資質・能力の育成はどこまで可能なのだろうか。おそらくその試みは、いくつかの困難に直面せざるをえない。第一に、流動性を基盤とした社会において何が必要とされるかは不確定であるがゆえに、育成すべき資質・能力を一般的にしか定義できないということである。それゆえ結局のところ、多様な資質能力を無際限にリスト化せざるをえなくなる。このことは、教育への過度な期待とその範囲の拡大を生じさせるだろう。第二に、学校教育はそもそも系統化された知識や技術の習得の場として制度化されたということである。したがって資質や能力の育成を試みるのであれば、学校制度をいかに変更すべきかが問われなければならない。

最後に、新自由主義的な体制のもとでは、《自律的な主体》が強固な前提とされ、資質や能力を伸ばすことのみが強調されるということだ。とはいえ「できる」ということはしばしば、とりわけある種の哲学的系譜において、受動性や無能力を内在するものとして捉えられてきた〔註7〕。こうした観点からすれば重要なのは、受動性や無能力の位相を見定め、それといかに向き合うかを考えることである。それは自律的な主体とは異なる主体の構想を要請するだろう。このような視座を欠くとき、資質・能力の育成は、自らの内の不能性を否認する防衛機制に墮するのではないだろうか。

おそらく実際的かつ広範な資質・能力の育成は、学校教育にとってそもそも達成困難な課題である。しかし、これに対してマネジメントの論理が、あたかも中心的な解決策であるかのように提示されるのだ。次にこの点に関して見ていこう。

## 2.2 カリキュラム・マネジメントとPDCAサイクル

すでに学校評価などにおいて、効率性を高めるマネジメントの重要性はたびたび強調されてきた。新学習指導要領では、「カリキュラム・マネジメント」という言葉が用いられ、カリキュラムをマネジメント的な観点から捉えることが要請されている。新学習指導要領によれば、カリキュラム・マネジメントとは、児童生徒、学校、地域の実態を把握し、教育目標の実現のために教科横断的な視点で教育課程の評価や改善

を行い、組織的かつ計画的に教育の質の向上を図ることである。すなわちカリキュラムは、多様な諸要素を組織的かつ計画的に調整するマネジメントの問題として理解する必要があるというのだ。

『論点整理』ではカリキュラム・マネジメントは、三つの側面から捉えられている。第一に、教科横断的視点から教育内容を組織すること、第二にPDCAサイクルを確立すること、第三に、外部資源も含めて多様な資源を活用することである。ここではPDCAサイクルが、マネジメント技法の要として位置づけられている。新学習指導要領にはPDCAサイクルという言葉こそ見られないものの、それはすでに大学を含む学校教育運営の中心となっている。とはいえ、PDCAサイクルが資質・能力の育成にどこまで有効かは必ずしも自明ではない。むしろそれは、競争を導入しつつ、学校を管理する手法として用いられているように見える。ここでは、PDCAサイクルの確立や教育への導入の経緯を確認し、それが何を可能にしているのかを考察してみたい。

経営学者の由井浩によれば、PDCAサイクルの端緒は、第二次世界大戦後におけるアメリカの品質管理の手法の導入にある。とりわけエドワーズ・デミングが1950年から行った一連の講義の影響が指摘されることが多い。デミングはそこで、ウォルター・シューハートによる大利用生産の管理図に基づきながら、品質管理の方法を提示した。これをもとに日本の品質管理指導者たちが、1950年代から1960年代にかけて、全社的・計画的な品質管理の方法としてPDCAのサイクルを考案していったのだという。したがってPDCAサイクルは、日本の高度経済成長期を支えた方法だといえよう〔註8〕。

ところがその後、PDCAサイクルは、行政における評価の手法として転用されていく。まず1990年代後半の行政改革において、行政政策評価の手段として用いることが提案される。さらに2000年代には、文部科学省主導のもとで大学評価や学校評価に導入されていった〔註9〕。こうした経緯において、PDCAサイクルの教育への適用可能性や現代社会における有効性は、さほど問われなかったようである。しかしPDCAサイクルがもともと高度経済成長期を支えた、大量生産体制の品質管理の手法であったことを考えるならば、それらの問いかけなしで済ますことはできないはずである。教育学者の古川雄嗣はこの点を踏まえて、PDCAサイクルの問題を三つの類型からまとめている〔註10〕。

第一に、それが品質管理の手法であるがゆえに、「人間の教育」にはそぐわないということである。教育は教師と生徒の相互関係をとめない、計画からのズレがつねに生じうる。またそうしたズレ自体が教育の豊かな側面となることもある。さらにPDCAサイクルは、規格外れの製品の手直しや廃棄を前提とする。しかしこうした観点をどこまで教育に適用ができるかは問われなければならない。

第二に、そもそもPDCAサイクルは計画や実施のプロセス改善のために考案されたということだ。それゆえ評価の手法としてPDCAサイクルを用いることは、厳密

にえばその誤用である。またPDCAサイクルに影響を与えたデミングは80年代に、達成目標や数値目標などをなくすべきとして、目標を柔軟に改訂する「Plan-Do-Study-Act」のサイクルを提案しているという。古川はそれを、評価の手法としてのPDCAサイクルとは真逆なもののみなし、目標と実績の差異の排除を目指すのではなく、そうした差異を「積極的に生かす」試みとして把握している。

第三にPDCAサイクルにおいて、しばしば目標がトップダウンの仕方と与えられることである。そこでは、PDCAサイクルの妥当性はおろか、目標の妥当性すら問われず、計画と実行の改善のみが求められることになる。こうした状況は、教育行政と教育現場、そして管理職と教師の溝を生むことにもつながるだろう。

これらの観点はいずれも考慮すべきものである。とはいえPDCAサイクルは、学校や教師を管理する新自由主義的な技法としては、有効に機能しているのではないだろうか。ここで重要なのは、それが評価の画一的な基準であるというより、むしろ評価の基準を運用する際の形式だということである。各学校や教師は、PDCAサイクルにそって目標を定め、評価基準を作り、自己評価を行いながら、改善を図らなければならない。すなわちPDCAサイクルは、評価の基準ではなくその運用方法を画一化する。これによって評価のあり方自体が可視化され、そこに競争のための空間が整えられていく。こうして直接的な介入なしに、競争原理を通じた統制が可能となる。その意味でPDCAサイクルは、学校や教師を競争関係へ巻き込み、自己統治を促す新自由主義的な管理技法なのだといえよう。

これまで私たちは、新学習指導要領のキー・タームを検討することで、資質・能力の育成という課題とマネジメントの位置づけの上昇を見てきた。近年の教育政策において顕著なのは、一方で学校教育を、能力の集合としての新自由主義的な主体の育成の場に転換するとともに、他方でマネジメントの重要性を強調し、PDCAサイクルのもとで学校や教師を競争に巻き込んでいくという戦略である。ここで問題にしたいのは、こうしたカリキュラムをめぐる現在が、かつての状況に対していかなる変化を含んでいるのかである。そもそもカリキュラム研究は、その端緒からマネジメント技法と結びつき、カリキュラムは目標—計画—評価という形式の内で捉えられてきた。以下ではカリキュラム研究の歴史的概観を通して、カリキュラムとマネジメントの変化を跡づけていきたい。

### 3. カリキュラムの科学化とマネジメント：カリキュラム学小史

よく知られるように批判教育学の論者マイケル・アップルは、『学校幻想とカリキュラム』において、カリキュラムが決して中立的ではなく、経済的・政治的なイデオロギーと密接に結びついていることを明らかにした。アップルによればカリキュラムは、重要な知識とそうでない知識を区分けし、正常な行動と異常な行動に境界を設けることで、支配的階級のイデオロギーの正当化に貢献する。さらに彼は、明示的な



教育内容や教育計画だけでなく、「隠れたカリキュラム」が、身体性の水準で子どもたちの慣習を規定することを強調する。

例えば幼稚園において子どもたちは暗黙の裡に、遊びと勉強の区別を学習し、規則に従って集団的に活動することを覚える。勉強の時間には、教師の言葉はお願いではなく、無条件に従う必要のある命令や指示となり、集団活動では、自己主張は禁止されるべきものとなる。こうして子どもたちは、労働者として必要な「従順・熱中・適応・忍耐」といった性向を身体化していくのだという〔註11〕。その意味でカリキュラムとは、経験の組織化を通して個々人の身体的慣習や行動規範に働きかけるイデオロギー装置の一つなのだと見える。

アップルはこうした観点から、アメリカにおけるカリキュラムの科学化が、労働者を統制する技法の発展と関連していることを指摘している。実際、よく知られるようにフランクリン・ボビット、デイヴィッド・スネッデン、W. W. チャーターズといった初期のカリキュラム研究者たちは、産業界の試みを転用しながら、カリキュラムの形式化と科学化を成し遂げていった〔註12〕。佐藤学が指摘しているように、目標—達成—評価といったカリキュラムの形式は、決して自明のものではない〔註13〕。それは、資本主義的生産様式とマネジメント技法の発展とともに、20世紀の初頭に洗練されていったものである。以下ではその展開を概観する。

レイモンド・キャラハンによれば、19世紀末から20世紀初頭にかけて、アメリカでは学校教育の効率化を目指す機運が高まっていった。その背景として挙げられるのは、第一に、発展する産業界が、効率や節約といったビジネス的価値観を強調し、学校教育にも影響を与えはじめたことである。第二に、移民が増加するなかで、教育費の削減が死活問題となっていた。その結果、教育にビジネス用語が導入され、学校教育の効率化が図られていく。とりわけ1910年代には、マネジメントの創始者とされるフレデリック・テイラーの影響下で、学校教育の管理と効率化が教育の科学として確立されるのである〔註14〕。

まずはテイラーについて見ていこう。彼は「科学的管理法」によって行為の合理化を試み、労働プロセスを管理する方法を提供した〔註15〕。それは、18世紀以来様々な領域で発展してきた「規律訓練のテクノロジー」（フーコー）の一つとして把握できる。すなわち、雑多な行為を個々の動作へと細分化し、これを再度組み合わせることで、身体の効能を最大限に引きだす技法である。「科学的管理法」ではまず、労働を構成する行為の複雑な連鎖が分析され、体系的で効率的な行動の様式が提示された。そのうえで各々の労働に必要な標準時間が、ストップウォッチを用いて測定される。

キャラハンによれば、「労働者は、〈何がなされるべきであるかのみならず、どのようになされるべきか、それをするために許される正確な時間まで〉を詳細に記述した命令カードを受け取った」〔註16〕。さらにテイラーは、標準時間を基準として個々人の成果にみあったボーナスを与えることを推奨し、労働者たちを配置し管理する職長の重要性を強調している。こうして彼は、測定と標準化を中心として、労働プロセス

の効率的な管理を実現しようとしたのである。

テイラーの方法を1910年代から1920年代にかけて学校教育に導入することで成功を納めた一人がフランクリン・ボビットである。佐藤によれば、ボビットの議論において、教育プロセスは工場における生産工程とのアナロジーで捉えられている。教師は「作業員」、子どもは「原料」、教育長は「経営者」として表現され、「〈原料〉(子ども)から〈製品〉(教育結果)に至る過程をいかに合理化し、効率化するかが、教育エンジニアとしての教師の中心問題とされている」〔註17〕。こうした観点からボビットは、施設の効率的な使用や浪費の排除を図るとともに、教育の成果を測定する基準を明確化しようとした。そこにおいてテストは、子どもの能力だけでなく、教育の有効性を客観的に示すものとして重要な位置づけを与えられていった〔註18〕。ここに、テイラー主義の転用による教育の標準化の試みを見ることができただろう。

さらにボビットは、古典学科からなる伝統的なカリキュラムを批判し、その再編成を主張していく。そのために彼は、生産目標にならって「教育目標」という概念を導入し、その決定をカリキュラム編成の要として位置づけていった。そこで重要なのは、生産的な大人を基準とし、社会生活にそった実用的で具体的な目標を設定することである。エリオット・アイズナーによれば、ボビットは「教養のあるよく訓練された大人たち」を調査し、これによって言語や健康などの重要な活動領域を規定したうえで、種々の目標を決定していった。例えば、「共同体の生活に適切かつ効率的に参加するために必要なすべての方法で言葉を用いる能力」など。1924年の『カリキュラム作成法』では、これらの目標の数は160にものぼったという〔註19〕。

ボビットのこうした議論は、ラルフ・タイラーやベンジャミン・ブルームによって体系化されていった。タイラーは1930年代から1940年代にかけて、教育目標を明確化し、それをもとに教育経験を組織し評価を行うことを、カリキュラムの基本原則として定式化した。そこにおいて、客観的に評価可能な行動として教育目標を示す「行動目標」の考え方が提唱される。さらにブルームはタイラーの議論を踏まえ、教育目標の分類学を展開し、到達度の段階的な評価という考え方を導入する。こうして目標と評価からなる教育システムを構築し、このシステムを査定しながら改善するという体制が考案されていったのである。

確かにタイラーやブルームのカリキュラム論は、一面では工学的で官僚主義的である。とはいえ尾崎博美が指摘しているように、例えばそこでは、興味や関心、態度といった情意的特性を評価することの重要性や評価の手法の工夫などが強調されている。それは、カリキュラムの管理運営に人間的な諸要素や人間関係の問題を導入する契機になったといえよう〔註20〕。興味深いことにマネジメント論もまた、単に労働プロセスの効率化を試みるのではなく、組織の人間関係へと着目していく。

1930年代以降、エルトン・メイヨーによる名高いホーソン実験などを契機として、インフォーマルな人間関係や動機づけこそが生産性の向上に影響を及ぼすと考えられていった。とりわけメイヨーやアブラハム・マズローらの「人間関係論」は、労働外

でのレクリエーション、目標の共有や意識づけ、人間的な管理者、透明で公正な評価など、こうした諸要素をマネジメントの要として位置づけていく。角野信夫は、それをマネジメントにおける「人間の組織」への接近として評価している〔註21〕。しかしこうした接近は、テイラー主義を根本的に転換するものではない。むしろテイラー主義を基盤とし、それをより有効に機能させる緩衝材の役割を果たしたといえるだろう。

一方に、行為を細分化し、効率性を軸に再構成するテイラー主義が、他方に、人間関係や組織に着目する人間関係論があり、それらは相補的なものとしてマネジメントの論理を構成してきた。同様にカリキュラム論においても、ボビットやタイラーの工学主義的な発想が基礎を形成しながらも、絶えざる批判によってその緩和が図られてきたのである。とはいえ、こうした相補的なマネジメントの論理は、70年代以降、根本的な変容を迫られていったように思われる。以下では、リュック・ボルタンスキーとエヴ・シャペロの『資本主義の新たな精神』（特に第1部）、およびデヴィッド・グレーバーの『官僚制のユートピア』を参照し、新たなマネジメントのあり方を見ていこう。

#### 4. カリキュラムと資本主義の新たな精神

ボルタンスキーとシャペロは大作『資本主義の新たな精神』において、資本主義を正当化し、それへのコミットメントを促す道徳的な信念の総体を「資本主義の精神」として把握し、マネジメント文献を丹念に検討することで、資本主義の三つの精神を区別している。資本主義の黎明期を支えたのが、資本主義の第一の精神である。そこでは、冒険的な企業家や産業の騎士が中心となる。彼らは地域の共同体から自らを切り離し、儉約の精神や合理性といった経済的性向を、親族や家産などの家政的性向と結びつけることで、家父長的な同族経営を築きあげていった〔註22〕。

これに対して資本主義の第二の精神は、1930年代から1960年代にかけて最も顕著となる。それは、「中央主権的で官僚制的な大規模化によって取りつかれていた巨大産業企業」の時代であり、企業家よりも組織が重視され、マネジメントの議論が発展した。そこでの中心的な形象は、労働を合理的かつ効率的に管理する「取締役」である。しかし資本主義の第二の精神は、単なる合理主義や効率主義にとどまらない。むしろ硬直した官僚制を批判し、官僚制の内できに柔軟性を確保するかを問題とする。乗り越えられるべきは、年功序列やえこひいきがまかり通る家政的な世界であった。そのために目標の共有や公正な評価が導入され、人間関係の正常化が図られるのである〔註23〕。

官僚制から根本的に距離を取るのが、資本主義の第三の精神である。ボルタンスキーらによれば、それは1970年代前後から発展し、1990年前後に主導的な位置を占める。この時期のマネジメント文献において、とりわけ攻撃の対象となるのは、ヒエラルキーであり、硬直性であり、管理だという。代わりに形式的平等、柔軟性、自律性

などが称賛される。かつての「管理職層」に対して、新たに中心的な役割を担うのが「マネージャー」である。マネージャーは、独創的な専門家たちを結びつけ、その対立や葛藤を調整しながら、彼らの性能を最大限に引きだしていく。そのためにはマネージャーは、直観的な芸術家のようにでなければならないとされる。ボルタンスキーらいわく、「マネージャーは事実、創造的な直観対計算的、経営管理的な冷徹な計算という対立によって管理職層と区別される」〔註24〕。

資本主義の第三の精神において、組織はしばしばプロジェクトのための一時的なチームの形態を取り、信頼や協同・協働が重視される。各人は自らの責任で自発的にプロジェクトに関与することが求められる。そこでは計画通りにのみ進めることは柔軟性の欠如であり、定められた基準による評価は不可能である。その都度の状況に柔軟に対応し、自己評価による自己管理が必要とされる。自発性、協同・協働、柔軟性、自己評価など、資本主義の第三の精神を特徴づけるこうした契機の内には、ボルタンスキーらはネットワークという主題を見いだしている。

ネットワークが繰り広げる世界こそ、資本主義の第三の精神の基盤となる。ネットワークは、閉じた共同体や上下関係を軸とするヒエラルキーと対比される。ボルタンスキーらよれば、「ネットワーク世界での今後の社会生活は出会いと、一時的ではあるが再活性化しうるコネクションの増殖からなる。結合は多様な集団と、時には非常に大きな社会的、職業的、地理的、文化的距離で行われる」〔註25〕。すなわちネットワークは、カテゴリーを横断し、異質な諸要素を結びつけ、絶えず自らを組み替えることで、拡張性を担保するのである。資本主義の第三の精神とは、ネットワークを前提として、そこから収益を引きだす精神なのだといえよう。

ボルタンスキーらは、資本主義の新たな精神を、不安定な雇用のもとで格差を創出する資本主義の再編成と結びつけている。1970年代以降に加速するグローバル化のなかで、大規模な官僚制的機構が機能不全に陥り、規制緩和を軸とした新自由主義の体制が整えられていった。こうしたなかで芸術家的な精神が重視され、ネットワークに基づいた組織化が称揚されていったのである。近年のカリキュラムをめぐる議論もまた、一面ではこのような変化のもとで把握できる。例えば教師たちは、自発的にカリキュラムを担い、創造性を発揮し、協同・協働すべきだとされる。またカリキュラム・マネジメントにおいても、PDCA サイクルとともに、教科を横断することが強調され、多様な要素を結びつけてネットワーク的に組織することが重要とされている。教師たちは管理的に振る舞うより、直観的で芸術的なマネージャーとして振る舞わなければならないのである〔註26〕。

前節で見たように20世紀初頭のカリキュラム論は、テイラー主義を参照し、目的と評価の体系からなるカリキュラムの形式を作りあげた。21世紀のカリキュラム論は、資本主義の新たな精神のもと、官僚的な体制を超えて、自発性、創造性、協同性・協働性や横断性をその機軸として導入していったように見える。とはいえ、官僚主義は完全に過去のものになったわけではない。必要な手続きは実際のところ、ますます

煩雑化しているのではないだろうか。目標と評価の体系は、目標の際限のない細分化と絶えざる自己評価へと書き替えられ、創造性や協同性・協働性をうたう無数の計画書や書類が積みあげられていく。そこに見いだされるのはおそらく、新たな官僚制である。私たちは芸術的なものと官僚的なものという対極的な精神が共存する世界を生きているように思われる。この共存こそが、説明されなければならない。

こうした観点から検討したいのが、デヴィッド・グレーバーの議論である。グレーバーは、『官僚制のユートピア』において、新自由主義的な規制緩和の論理を、官僚制の強化という観点から論じ、1970年代以降にむしろ官僚制が全面化したとみなしている。グレーバーによれば、1970年頃から官僚的効率性と市場的合理性の境界が曖昧化し、監視と評価といった官僚制的な手続きが、市場における自由や競争を維持し保証するものとして用いられていく。「官僚の仕事の多くは、つまるところ物事を評価することである。彼らは、たえまなく、評価し、監査し、測定し、様々のプラン、提案、申請書、活動方針の相対的メリットや昇進の候補者を比較考量する。市場改革によってこの傾向はただ強化されるだけである」〔註27〕。

ここで示されているのは、横断的なネットワーク世界が、監視と評価からなる官僚制の論理によって統制されている状況である。グレーバーはこれを、「詩的テクノロジー」から「官僚制的テクノロジー」への移行として把握している。前者は、実現不可能な放縱な空想が主導し、官僚制的手段はそのために動員される。これに対して官僚制的テクノロジーは、空想を限定し、手続き的合理性に従属させる。こうした観点から彼は、ヴィジョンやイノベーションといった言葉を用いるマネジメントの論理が実のところ、官僚的な手段として機能し、自由や創造性の限定と調整をもたらすことを指摘している。

この点がより明快になるのは、グレーバーが著作の終盤で展開するゲームとプレイの区別においてである。グレーバーによれば、ゲームは規則（ルール）に支配された行為である。これに対してプレイは、規則なしの即興でありうる。むしろプレイだからといって、何でもありというわけではない。むしろそれは、規則を生成する創造性の形式である〔註28〕。こうした議論は、おそらく彼が意図している以上に、ゲームとプレイの相補性を示している。ゲームとプレイは決して相反するものではなく、諸技法によって関係づけられており、官僚制的テクノロジーもまた、ゲームとプレイを関係づける形式の一つだといえよう。すなわち全面化された官僚制的テクノロジーは、一定の調整のうえでプレイを扇動し、これをゲームの増大のために動員する。いわば、プレイの空間を分散させ拡張しながら、これを評価と監視のシステムによって限定するのだ。そこではプレイは、度を越したルールの破壊をもたらさないように調整されるとともに、完了したプレイが即座にゲームへと変換され、ゲームの拡大がもたらされる。

このようなプレイとゲームの関係こそが、私たちの現在を特徴づけており、芸術家と官僚の共存を可能にするのではないだろうか。資本主義の第二の精神におけるマネ

ジメントの論理が、官僚主義を基盤としながら、これを人間関係の強調によって緩和するのだとすれば、新たなマネジメントの論理は、ネットワーク世界を基盤に、これを監視と評価のシステムによって注意深く統御する。これによってプレイを煽りながら、実のところ世界をゲームの集積に変換していくのである。私たちはこれまで、カリキュラムをめぐる状況を、マネジメントとの関係において理解しようとしてきた。ネットワーク世界を基盤とした官僚制的テクノロジーの全面化は、現在のカリキュラムをめぐる状況を枠づける図式の一つだと考えることができる。冒頭で見たように新学習指導要領が柔軟性と計画性、画一性と多様性といった諸対立を孕んでいることも、PDCA サイクルが特別な位置づけを与えられようとしていることも、官僚制テクノロジーの拡大の帰結だといえる。むろんこうした図式は、より詳細な歴史的検証によって跡づける必要がある。しかしその作業は別の機会に譲り、最後に、いかに現在とは別の仕方と考えることができるかを検討してみよう。

そのために目を向けたいのが純粋なプレイである。グレーバーは先の個所で、いかなる種類の規則にも侵食されない「プレイの絶対的な純粋形態」について言及していた〔註29〕。それは、プレイとゲームの相補的な関係の外に位置し、カオスの内から新たな規則を作りだす恐るべき創造性によって実現される。むろんこうした純粋なプレイは、一種の虚構である。興味深いことにここでグレーバーはプレイを、法を超えて法を設立する「超越的主権」と結びつけている。そのうえで彼は、純粋なプレイへの恐怖——あるいは畏怖——こそが、官僚制的テクノロジーを活性化してきたと示唆する。すなわち、官僚制的テクノロジーは純粋なプレイという虚構を極限的外部として措定することで、自らを拡大してきたのではないかと。

この仮説の可否をここで検討することできない。とはいえ純粋なプレイを、恐るべき創造性としてではなく、むしろ自己にのみ関係づけられる一種の自己享楽の形式として、換言すれば無力な一人遊びとして想像することもできるのではないだろうか。実際、主権や王権が無為や無能と結びついていることは、しばしば指摘されてきた。そうであるならば、純粋なプレイの内に原初的な不能性を見だし、恐怖や畏怖を解除することで、そこに自らを結びつけることができるはずである〔註30〕。それは例えば、資本主義の第三の精神のただなかで監視と評価のシステムを宙づりにすることであったり、創造性や協同性・協働性への強迫から自らを解放することであったりするかもしれない。そこではおそらく、規則を内在したような行為が、主権の発意としてではなく、むしろ主権とは無関係に遂行される。それは、哲学者ジョルジョ・アガンベンがある箇所述べていたように、「私たちはそのようにおこなう」としかいえず、正当化や計画化がもはや不可能な、そうした行為である〔註31〕。「私たちはそのようにおこなう」、こうした形式のもとで教育とカリキュラムを再考すること、それは決して不可能でも無意味でもないように思われる。

- [註1] 新学習指導要領に関しては基本的には、文部科学省『中学校学習指導要領』2017 ([http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1384661\\_5.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1384661_5.pdf). 2017年12月10日閲覧) を参照した。また文部科学省による各種公開資料 (cf. [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1383986.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm)) や教育課程企画特別会『論点整理』2015 ([http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1361110.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1361110.pdf). 2017年12月10日閲覧) も参照している。
- 2] ジークムント・バウマン『リキッド・モダニティ—液状化する社会』森田典正訳、大月書店、2001。およびジョック・ヤング『後期近代の眩暈—排除から過剰包摂へ』木下ちがや訳、青土社、2008。を参照。
- 3] 教育における新自由主義的な政策については、佐貫浩『危機のなかの教育—新自由主義をこえる』新日本出版社、2012。また藤田英典『教育政策の責任と課題—アカウントビリティとネオリベリズムの影響を中心に』『学校のポリティクス 岩波講座教育 変革への展望6』岩波書店、2016、p. 13-64。などを参照。
- 4] 例えばミッシェル・フーコー『啓蒙とは何か』石田英敬訳『フーコーコレクション6』筑摩書房、2006、p. 362-395。特に p. 385-394。を参照。
- 5] 奈須正裕『資質・能力と学びのメカニズム』東洋館出版社、2017、p. 27-29。を参照。
- 6] 中教審答申では、資質・能力の三つの柱が、①「何を理解しているか、何ができるか」(知識・技能)、②「理解していること・できることをどう使うか」(思考力・表現力・判断力等)、③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」(学びに向かう力、人間性等)として示されている。また資質・能力に関する議論の経緯については、同上、p. 23-43。を参照。
- 7] 例えばジョルジョ・アガンベンは、アリストテレスやマルティン・ハイデガー、ジル・ドゥルーズらの議論を参照しながら、あらゆる能力の根底に、可能性の内
- に留まりつづける純粋な潜在力(「非の潜在力」)を見いだしている。
- 8] 由井浩「PDCA サイクル: 真意不在の波及と誤用: 大学評価とも関わって」『龍谷大学経営学論集』vol. 52, no. 2, p. 37-54 (2012)。特に p. 37-40。を参照。
- 9] 由井の前掲論文とともに、古川雄嗣「大学改革」におけるPDCAサイクルの批判的考察(1) 導入過程の整理・検討」『北海道教育大学紀要. 教育科学編』vol. 67, no. 2, p. 1-13 (2017)。も参照。
- 10] 以下の三つの類型に関しては、古川雄嗣「PDCA サイクルは「合理的」であるか」藤本由夕衣・古川雄嗣・渡邊浩一編『反「大学改革」論—若手からの問題提起』ナカニシヤ出版、2017、p. 3-22。特に p. 6-18。を参照。あわせて古川雄嗣「大学改革」におけるPDCAサイクルの批判的考察(2・続) 三つの批判類型とその本質」『北海道教育大学紀要. 教育科学編』vol. 68, no. 1, p. 41-51 (2017)。も参照した。
- 11] マイケル・W・アップル『学校幻想とカリキュラム』門倉正美・宮崎充保・植村高久訳、日本エディタースクール出版部、1986、p. 96-109。を参照
- 12] 同上、p. 117-154。を参照。
- 13] 佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996、p. 24-25。を参照。
- 14] レイモンド・E・キャラハン『教育と能率の崇拜』中谷彪・中谷愛訳、教育開発研究所、1996、p. 11-91。を参照。
- 15] マネジメントの歴史に関しては、角野信夫『マネジメントの歴史』文眞堂、2011。またスチュアート・クレイナー『マネジメントの世紀 1901~2000』嶋口充輝・黒岩健一郎・岸本義之訳、東洋経済新報社、2000。などを参照。
- 16] キャラハン。前掲書、p. 48。
- 17] 佐藤学『米国内カリキュラム改造史研究—単元学習の創造』東京大学出版会、1990、p. 79。また佐藤『教育方法学』p. 20-22。も参照。
- 18] 中谷彪「アメリカ教育行政学研究序説(第IX報): 「科学的管理法」とJ.F. ボビットの教育行政学」『大阪教育大学紀要. IV 教育科学』vol. 34, no. 1, p. 15-35 (1985)。を参照。
- 19] Eisner, Elliot. W. “Franklin Bobbitt and

- the "Science" of Curriculum Making," *The School Review*. vol. 75, no. 1, p. 29-47 (1967). 特に p. 33-34 を参照。
- 20] 尾崎博美「教育目的論における「教育目標」概念の分析—「教育目標」-「教育目的」の関係性の再検討を通して」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』vol. 58, no. 1, p. 13-32 (2009). 特に p. 20-25 を参照。
- 21] 角野 前掲書. p. 131-163.
- 22] リュック・ボルタンスキー, エヴ・シャペロ『資本主義の新たな精神』三浦直希・海老塚明・川野英二・白鳥義彦・須田文明・立見淳哉訳, ナカニシヤ出版, 2013, p. 48-49. を参照。
- 23] 同上, p. 49-53. および p. 102-112. を参照。そこで彼らは、分権化、能力主義、目標による管理などを、資本主義の第二の精神において官僚制の緩和のために導入されたものとして把握している。
- 24] 同上. p. 125.
- 25] 同上. p. 161.
- 26] 例えば田村学編の『カリキュラム・マネジメント入門』では、カリキュラム・マネジメントを、体験と言語、単元、教科、暮らし、人などをつなぐ営みとして把握している(田村学編『カリキュラム・マネジメント入門』東洋館出版社, 2017.)。また佐藤学は、目標-達成-評価を軸とした「階段型カリキュラムの単元」に対して、「主題-探求-表現」を単位とする「登山型カリキュラムの単元」をこれからの時代に必要単元様式だとし、そこで発揮される教師の創造性を強調している(佐藤学「カリキュラムをデザインする」秋田喜代美・佐藤学編『新しい時代の教職入門 改訂版』有斐閣アルマ, 2015, p. 71-83.)。また近年、教育よりも学習が重視され、教師にはしばしばファシリテーター的な役割が求められる(例えば、ガート・ビースタ『よい教育とはなにか—倫理・政治・民主主義』藤井啓之・玉置博章訳, 白澤社発行・現代書館発売, 2016, p. 29-34. を参照)。
- 27] デヴィッド・グレーバー『官僚制のユートピア—テクノロジー、構造的愚かさ、リベラリズムの鉄則』酒井隆史訳, 以文社, 2017, p. 56-57.
- 28] 同上. p. 270-277. を参照。
- 29] 同上. p. 274.
- 30] 詳細に展開することはできないが、ここではジョルジョ・アガンベンの議論を参照している。アガンベンは、ミッシェル・フーコーの統治性の系譜学の試みを踏まえ、運営や経営としての「オイコノミア」がキリスト教神学のなかでいかに論じられてきたかを辿る試みを展開した。そこで彼は、いくぶん意表を突くかたちで、天使論と官僚制の結びつきに触れている(グレーバーもこの結びつきに言及している)。キリスト教神学において天使はしばしば、ヒエラルキー的な秩序のもとで運営を行う神の代務者と考えられてきたという。アガンベンはそうした天使のあり方を、官僚制の原型として把握しながら、それを、世界を創造する原理としての神と世界の統治の実践の分裂、すなわち主権と統治の分裂という文脈の内に位置づけている(ジョルジョ・アガンベ『王国と栄光—オイコノミアと統治の神学的系譜学のために』高桑和巳訳, 青土社, 2010, p. 274-316.)。官僚制を、主権と統治との関係で理解するアガンベンの試みは、グレーバーの議論に系譜学的な論拠を提供するものとして読むことができる。おそらく官僚制的テクノロジーとマネジメントの歴史と、主権との関係において統治性の系譜学として辿る必要があるだろう。
- 31] ジョルジョ・アガンベ『身体の使用—脱構成的可能態の理論のために』植村忠雄訳, みすず書房, 2016, p.402-409. を参照。





造形大生が「仕掛け」で揺さぶる まちの可能性

The Possibilities of a Town with the “Shikakeological” Approach  
by Art University Students

由井 真波

Manami YOSHII

加藤 賢治

Kenji KATOH



# 造形大生が「仕掛け」で揺さぶる まちの可能性

The Possibilities of a Town with the “Shikakeological” Approach by Art University Students

由井 真波

Manami YOSHII

加藤 賢治

Kenji KATOH

総合領域 客員教授（研究・活動分野：コミュニティデザイン、  
動機デザイン、ランドスケープデザイン）

芸術学部准教授 地域連携推進センター担当・附属近江学研  
所研究員（研究・活動分野：宗教民俗学、地域文化）

How might university art students who have expressed a lack of interest in history approach the project of regional vitalization in Kusatsu City using historical resources in a way that makes the most of the students' abilities? In this paper we will describe the process by which we answered this question.

地域のまちづくりの取り組みに対し、造形大生はどのようなアプローチで役割を發揮できるのか。本稿は、草津市における歴史資源を軸とした地域活性化事業に、「歴史に興味がない」と話す学生たちが、「仕掛け」の観点から、自らをワクワクさせる提案をおこなうまでの試みの報告および論考である。

## 1. プロジェクトの概要（はじめに）

平成27年（2015）、草津未来研究所（草津市総合政策部）では、草津市が包括協定を締結している市内外の4大学とともに、大学の持つ知的財産や人材、学生の力といった資源をまちづくりのなかに取り入れる、大学を活かしたまちづくりが推進されており、協定校である成安造形大学も積極的にその活動に参画することとなった。

成安造形大学では、「芸術による社会への貢献」を教育理念としており、地域の課題をものづくりの力をもとに、地域とともに協働して、解決に向かう取り組み（プロジェクト）を続けている。今回のプロジェクトは、成安造形大学のコミュニティデザイン分野を専門とする教員と地域連携推進センターの職員、および附属近江学研究所の研究員が協力し、草津市が持つ歴史豊かな旧街道というポテンシャルをもとに、そこに暮らす人々と、ここにやって来た人々がともに、草津ならではのまちの魅力に気付き、ともに活かせるような、楽しい機会づくり・仕組みづくりの可能性を探ることを目的とした。

具体的には、コミュニティデザイン担当教員と5名程の学生が、歴史街道軸を中心としたまちづくりを実践している場所（枚方市）と、草津の街道軸をフィールド調査し、現地での気付きをもとに、街道マップやサイン計画、グッズ制作、アートイベントの開催、ストリートアートなど、クリエイターの卵である造形大生らしい視点から草

津のまちに適した「仕掛け」のアイデアを提案した。

2章以降は、このプロジェクトを主導した成安造形大学総合領域客員教授でコミュニティデザイン担当教員である由井真波による、活動ならびに成果報告を含む論考である。

加藤賢治

## ■プロジェクトの活動概要

- ・事業名称：「草津市内における歴史街道軸をもとにした地域活性化事業」
- ・提案名称：「草津 街道まるごと、たのシカケ！」
- ・参加学生：3領域4コース、5名（うち仕掛け提案作成は3名）<sup>【註1】</sup>
- ・進め方：現地（枚方、草津）のまち歩き（フィールドワーク）2回を含む、全6回の連続ワークショップ

## ■プロジェクトの実施スケジュール

- ・ガイダンス 2015年11月30日(月)
- ・第1回ワークショップ 2015年12月9日(水)  
進め方確認、草津市紹介、各地の事例紹介、「仕掛け」紹介と意見交換
- ・第2回ワークショップ（フィールドワーク） 2015年12月13日(日)  
「枚方宿くらわんか五六市」まち歩き実施、枚方市にて
- ・第3回ワークショップ 2015年12月16日(水)  
枚方宿まち歩きのまとめ
- ・第4回ワークショップ（フィールドワーク） 2015年12月20日(月)  
「草津宿」まち歩き実施、草津市にて
- ・第5回ワークショップ 2015年1月17日(土)  
草津宿まち歩きのまとめ、仕掛け提案に向けたラフ案作成
- ・第6回ワークショップ 2015年2月6日(金)  
仕掛け提案、振り返り

## 2. プロジェクトの背景

### 2.1 草津を「日々感じて」いる人々

草津市は人口縮小時代において今なお人口増加の続く自治体である。（平成22～27年の5年間の人口増加率4.9%）。東洋経済新報社の「住みよさランキング2015」において総合評価は近畿で3年連続1位（全国14位）、利便度は全国4位と高評価である。京都・大阪への交通の利便性、大型商業施設の集積、立命館大学と学生たちの存在、医療関連

施設の充実などから、平成25年度に市が実施した市民意識調査からは「総合的に住みやすいまちである」に肯定的な回答（「そう思う」「ややそう思う」）が72%と高かった。「草津市の都市イメージ」に係る設問において「発展する便利で都会的なまち」が21.6%ともっとも高い割合である一方で、「特にイメージするものはない」が19.1%と2番目に高い。

「便利なまち・草津」は（実は）歴史資源が集積したまちでもある。琵琶湖の水運に恵まれ、京の都と関東・越前・信州を繋ぐ陸路の要衝であり、江戸時代には東海道・中山道が合流する宿場町として発展、明治時代には草津駅（現JR草津駅）が開業、宿場町との間に商店街〔写真1〕が形成され、人口や商業機能の集積が進んだ。江戸のおもかげ残る旧街道沿いは、パイプメント整備、本陣〔写真2〕の維持保存および交流施設としての公開をはじめ、景観形成ガイドラインの実施による歴史的まちなみ景観の維持と再生、街道交流館〔写真3〕における展示・企画、草津宿場まつりの開催、無電柱化事業の検討など、歴史的な文化と景観を次代へ受け継ぐ取り組みが積極的に展開されている。

しかしながらこれらの資源を市民が「自分たちのもの」と捉え活用しているかと言えば「まだまだ」というべき状況が先述の意識調査から伺える（都市イメージにおいて「街道文化の歴史豊かな宿場のまち」と答えたのは17.4%）。

なお、先述の「住みよさランキング」は「大型小売店店舗面積」などに代表される各種統計調査をもとにした（数値）指標による評価であり、生活者の声（どう感じたか、どう捉えたか）を集めたものではない。これとは異なる指標として「生活者が〈五感〉で感じ取り〈経験〉したまちの姿」を新たなまちの評価基準としたレポートが2015年9月にHOME'S総研より発表され、注目されている。〔註2〕



写真1 商店街



写真2 草津宿の本陣



写真3 草津宿街道交流館  
〔註3〕

## 2.2 歴史資源を活用し〈膨らませる〉のは誰か

歴史資源において「保存か活用か」といったトレードオフ的なせめぎ合いは、過去さまざまになされてきた。これに対し、二者択一ではなく「保存も活用も」といった取り組み、さらには「活用による保存」であるべきとの意識が浸透してきている。「リノベーション」の言葉の指し示す世界観が〈魅力的な〉イメージを伴って一般化

しつつある現在、その「活用」の可能性は日々拡がっている。活用なき「保存のための保存」は、持続的であるとはいえない。

「活用」、すなわち「自分ごととしてコミットする」とはどういうことか。住民や生活者、通勤・通学で訪れる人々、地元で商売をする人々、交流圏にある人々、これら草津のまちと大小の接点がありつつも草津の歴史資源に対し特段のイメージを持つに至らない（したがって行動を起こす原因と成しえていない）人々を「活用予備群」と想定してみよう。例えば歴史的建造物の中に入り設備とともに（ハード）利用するのがもっとも直接的な活用であるとすれば、その歴史的ストーリー（ソフト）を自らの商売の付加価値を高めるものとして活かす、自分の住んでいるまちを他地域に住む人に自慢できるものとして語る、などが間接的な活用といえる。

この、直接的から間接的に至る活用の幅を、いかに広く、厚く、豊かにしていくかが、結果として歴史資源を持続的に「守る」ことに繋がる。「価値」を感じる人々と、その方法がそれぞれの理由で多種多様に展開されている環境や仕組みが用意されていることが「住みやすく」「愛着を持って」「歴史の魅力のあるまち」の実現のために肝要である【註4】。

## 2.3 リアルな「活用予備群」＝成安造形大生

本プロジェクトは草津市の社会実験推進事業であり、本学地域連携推進センターがハブとなり希望学生を募り、授業外の取り組みとしてスタートした。3領域4コースから5名が集まった（デザインプロデュース1名、日本画1名、現代アート1名、写真2名）。本学には住環境デザインコースがあるが、彼女たちはその学生ではない。つまり、建築やランドスケープに係る専門性を持たず、これらをプランニングする際のフィールドワークの経験がなく、その調査分析手法を知らない。「歴史が好きか」とのアンケートに「興味がない」と答え、「まち歩き」については「好き」と答えている。うち2名はプロジェクト参加前には、「歴史おもんない」、「歴史的なことは固すぎて頭使うし疲れると思っていた」としている。【図6参照】

二十歳前後の学生の一つの素直な姿といえる。この姿は、大学があるから（草津を



写真4、5 本学の学生たちがそのままのセンサーを活かしてまち歩きをおこなった。

選んだわけではなく)来てみたら草津だった、という他大学(立命館大学)の学生たちや、京都・大阪への通勤に便利だからと移住してきたものの食事は京都で、日用品は郊外のショッピングセンターで済ます、草津のいわゆる「新住民」たちに通じるものがある。彼らは草津に一定数存在する、前述の、歴史資源のリアルな「活用予備群」である。

エントリーした学生たちには、したがって事前情報をあまり入れず、彼女たちの「センサー」の反応に従い素直に〈感じ取って〉もらえる状態で、草津のまちに出会えるようプロジェクトをデザインした。

### 3. アプローチ：人を動かす「仕掛け」を仕掛ける

ここで一つのアイデアを試みる。建築・ランドスケープの専門性を持たず、歴史に興味があるわけではなく、しかし好奇心と造形センスを持つ「成安造形大生」たち。彼女たちの素直なセンサーを尊重しつつ、他者の(活用予備群たちの)センサーを揺さぶる「仕掛け」を草津のまちなかに挿入することはできないか。

「仕掛け学」<sup>【註5】</sup>を提唱する松村真宏氏(大阪大学)は、「仕掛け」とは、「人の行動を変えさせるきっかけになる」ものであり、「必ずしも大掛かりな装置や技術が必要でなく、コストもあまりかからない、つまり、子どもからお年寄りまであらゆる人が仕掛け人になることも、その対象となることも可能」としている。

この「仕掛け」のアイデアを発想することを目標として、草津宿と、それに先駆け枚方宿のまち歩きを実施した。

## 4. センサーの針を観察する…〈私〉は「ワクワク」するか

### 4.1 枚方宿で自らのセンサーの針の振れを体感

月に一度の手づくり市の開催日、京阪枚方市駅から枚方公園駅までの区間約1.5kmにわたって旧街道沿いに200～250軒のショップが軒を連ねる「枚方宿くらわんか五六市」<sup>【註6】</sup>のまち歩きをおこなった。参加の学生たちのセンサーの針がいかに振れるか、素直な状態に自らを置き、自分で自分を〈観察〉するようミッションを設定し、「ワクワクするかどうか(ジャンルを問わず)」と「歴史を感じるかどうか」の、2種のセンサーの振れを意識して、市で賑わう枚方のまちを〈観察〉してもらった。

これは、「自分」が(および自分が代表できるところのある一群の人々が)何に反応するかを参加学生たちに存分に〈実感〉してもらうことを目的としており、後の草津でのまち歩きでのセンサーの振れとの「比較対象(ベンチマーク)」とすることがねらいである。また、草津のまちへの「仕掛け」を考える際の基礎体験(=素材とする体験)とするものであり、写真に収め、分類をおこなってもらった。



参考資料 5 枚方まち歩き(参加学生によるレポート ①“ワクワク”探し)



図1 枚方で感じた「ワクワク」とさせられた行動、そのトリガーを写真に収め分析、分類(一部抜粋)

参考資料 5 枚方まち歩き(参加学生によるレポート ②“歴史”探し)



図2 枚方で見つけた「歴史」とそれに気付かせたトリガーを写真に収め分析、分類(一部抜粋)

## 4.2 「ワクワク」とは「トリガー」とは

「ワクワク」とは、「そっちへ行きたくなった（行った）」「見たくなった（見た）」「食べたくなった（食べた）」「買いたくなった（買った）」「知りたくなった（聞いてみた、読んでみた）」「話したくなった（話した）」など、なんらかの〈行動〉を〈思わず〉起こしたくなった（起こさせられた）状態とここでは定義した。この状態を、学生自身が自らの感情のアップダウンを観察すること、および現場にいる人々の行動や表情を観察することから発見し、同時にその「原因・きっかけ」を現場から探し出し、写真に収め、分類してもらった。〔図1〕

「原因・きっかけ」は、「仕掛学」で言うところの「トリガー（引き金）」である。「（しくみ、サービスなど）ソフト」「ツール」「景観」のうちのいずれであるかの分析と分類も同時におこなってもらった。人々の行動を変える原因となっているものは何か、まちの中で見つけ出す、いわば「眼力」を養ってもらい、後の草津での仕掛けの発想へと繋げた。

## 4.3 草津宿でセンサーを揺らすものは見つかるか

翌週、草津宿のまち歩きを実施した。枚方同様、学生には自らのセンサーに従って素直に行動し、「ワクワク」と「歴史」の2点をそのトリガーとともに観察し、写真に収めてもらった（図3、4、5の左に添付）。枚方と異なるのは「芽を探す」とした点である。現時点では見つかりづらくとも、他者に気付いてもらいたいと思える魅力、歴史を、それぞれ「ワクワクの芽」「歴史を活かす芽」とした。このフィールドワークを経て、他者がこれらの芽に気づき、行動を〈思わず〉変化させてしまう「仕掛け」を考え、ラフ案として持ち寄るという課題を課した。

## 5. 「草津 街道まるごと、たのシカケ！」 17案

撮影してきた写真をもとに、枚方、草津のまち歩きの経験で参加メンバーがそれぞれに何を感じたか、意見交換をおこなった。互いの発見から相互に気づきを得、持ち寄ったラフ案をさらにワークショップで発展させ合い、3名で計17の「仕掛け」アイデアを案としてまとめた。

17案の仕掛けは、それが誘発する行動に基づき5種に分類した（項目設定および分類は参加学生による）。

「草津 街道まるごと、たのシカケ！」17案

A：めぐる シカケ

- ①「なう な 街道案内 シカケ」
- ②「気付けばそこは宿場町な シカケ」
- ③「水を追跡！自然と歴史を学ぶ シカケ」

B：まなぶ シカケ

- ①「4コママンガで学ぶ シカケ」
- ②「こども“くさつはかせ”シカケ」
- ③「言葉をキャッチ 歴史をサーチな シカケ」

C：あそぶ シカケ

- ①「町をのぞく シカケ」
- ②「壁画パズルでGET!な シカケ」〔図5参照〕
- ③「草津宿ひみつ探検 シカケ」
- ④「生き生き街道 見て！来て！シカケ」〔図4参照〕

D：つくる シカケ

- ①「近江八景 de スタンプラリー～草津宿編～ シカケ」
- ②「草津の魅力、絵本で発見！シカケ」
- ③「浮世絵 町づくり シカケ」

E：コミュニケーションする シカケ

- ①「地元と歴史 探してつなぐ掲示板 シカケ」
- ②「宿場町へタイムスリップな シカケ」
- ③「毎週変身 いきいき商店街 シカケ」
- ④「アオバナ大作戦 シカケ」〔図3参照〕



写真6、7 互いの気づきで刺激し合いアイデアが発展。左は枚方のまとめ、右はシカケ提案。

## 6. 五感で(センシング)された まちの「魅力(プラス)」と「課題(マイナス)」

参加学生には事前情報を入れずにこのプロジェクトを開始した。つまり、「草津の歴史は貴重なものやから残さなあかんよね、どうしたら残ると思う？」という問いではなく、「草津のまち、ほんとのところ、どう思う？」という問いである。スタート前は「歴史おもんない」と答えていた彼女たちに、「残さない、という手もあるよ？」

とのオープンなスタンスで構えた。同様に、まちのコミュニティに係る課題（駅前・商店街・歴史ゾーンの分断、「新住民」とまちとの距離感など）も「入れない」状態でスタート。これら2点を「解決しなければならない課題」としてインプットすることなくスタートしたのである。

結果として、彼女たちは、歴史の魅力と同様に、これらのまちの課題や潜在的なポテンシャルを感じ取っていた。〈素〉の状態からのまち歩きの中で、自らの五感で〈センシング〉し、「ワクワク」するもの、または「おいしい!」「のびしろ」としてさまざまな事象を子細に感知し分けていたのである〔註7〕。そしてアイデアづくりのワークショップの際には、冒頭の問いに対し「歴史を活かすことでまちの課題を解決し、より魅力的にできる」と〈自然に〉合意され、仕掛けを考える上でのテーマとして〈自発的に〉取り込まれていった。課題を解決したい（＝「こうすればもっと良くなるのに!」）との思いが、創作の動機として内在化されていたのである。

以下はまち歩きを通して〈センシング〉された主な魅力と課題である。（「」内は参加学生のコメントから）

## 6.1 センシングされた主な「魅力(プラス)」(一部抜粋)

- ・ 歴史悪くないかも … 「知らないことを知るのはおもしろい」「資料館の立体映像おもしろい」
- ・ 江戸と平成の「間」の歴史がおもしろい… 「側道のまちなみがあるのがおもしろい」「カメラをかまえたくなった」「レトロな昭和のまちなみがおもしろい」「新しすぎない町なみがとても好き」
- ・ こんな過ごし方できるんだ… 「浮世絵スタンプやってみたらおもしろい」「寄席やってるんだ」「入ってみたらいい喫茶店だった」

## 6.2 センシングされた主な「課題(マイナス)」(一部抜粋)

- ・ 活気がない… 「枚方では街の人たちが自分たちで楽しんでいて、その活気がある人をまきこんでいたけど、草津ではあまり感じなかった」「『古き良き』と『廃れている』はやっぱり違って、街道は『古き良き』だけけど商店街は『廃れている』と感じる」「お店が開いてない」
- ・ 生活感を感じない… 「歴史ゾーンのカラーアスファルト舗装は生活感を感じず違和感がある」「無理矢理残す(テーマパーク化)はあんまり楽しくない」
- ・ 連続性がない、予感できない … 「高架を境にまちがつながっていない、行きづらい」「ニワタス〔註8〕からは歴史的な魅力が先にあることが想像つかない」
- ・ 歴史資源に関わっている人が少なそう … 「商店街の人が歴史資源に関わっているように見えない」「無理して、やりたくないのに …、というようなことがないように街全体が楽しんでいけるといい」

- ・歴史以外の魅力を活かせていない…「アオバナ [註9] や浮世絵など活かせてない」
- ・コミットしづらい…「本陣入りづらい」「この機会でなければ入ってなかった」「喫茶店入りづらかった」

## 7. 仕掛けによる人とまちへの働きかけ

### 7.1 まちの課題に対し、遊び心「仕掛け」で揺さぶりをかける

参加学生たちはまち歩きの中で建築やランドスケープなどのハード整備による「サイン」（歴史的なものなんだな、というサイン）は感じ取っているものの、それをそのまま「魅力」と受け取ったわけではなかった。「生活感がなく違和感を感じる」と功罪両面を感じ取っていた。「人がリアルに関わっている厚みや〈現役感〉を感じない」という課題を（歴史的の魅力以上に）感じ取っていた。あるいは駅前ゾーンと商店街ゾーン、高架下を経て歴史景観ゾーンと、それぞれのまちの分断を違和感として感じ取っており、「歴史ゾーンだけ浮いてる」と手厳しい。[図21のマップ参照（本稿末尾）]

これら学生たちの自らの気づきをもとに、課題を解消する仕掛けが考案されていった。主な着眼点3点を以下に紹介する。

#### ■着眼点①：地元の商業者、生活者のコミットを引き出す仕掛け

商店街の人たちの家業にプラスとなるかたちであり、かつ、特に歴史好きではない「活用予備群」たる生活者や来訪者を巻きこむかたちで、それぞれのコミットを引き出す仕掛けを4案考案している。

一つを例に取る。E④ [図3] の「アオバナ大作戦 シカケ」では、「草津市民 自宅『種』を植える → 特定の日に持ってくる!! 楽しむ!!」とあり、暮らす人が「お客さま的に参加」するのではなく、自らもアオバナを育て出展者となるという、「行動を起こす側になること」によって、より深いコミットを誘発する仕掛けとなっている。商業者は店先をこの活動に提供し、受け入れることで、普段の「客」と「商店主」とは異なる関係性が生まれる構造となっている。両者が働きかけ合いながら、アオバナ（の鉢植え）という「生きた歴史資源」をトリガーとし、ともにまちにコミットする仕掛けとなっている。

#### ■着眼点②：「江戸と平成の間」に目を向け、歴史資源を今に繋げる仕掛け

彼女たちが「歴史わるくないかも」としているのは、街道と宿場町に代表される江戸期（およびそれ以前）に限定されるものではない。江戸期を背景としつつも、近代から昭和に魅力を感じており、これに注目し再評価を促す仕掛けを提案している（B③、

シカケ提案

E: コミュニケートする シカケ

④「アオバナ大作戦 シカケ」

▼意見交換から

- ・アオバナの活用あまり知られていないからこまかく活用できそう商品化たたくんできそう
- ・アオバナプラントー賞地元の人でも参加してもらいありそう
- ・「ハコニワ的にアレンジ」1軒1軒見るのが楽しくなりそう！花好き以外にも！
- ・いろいろなアオバナがあると視覚的にもいいし、育てる人も見る人も楽しめるのがいい！

25

図3 E④「アオバナ大作戦 シカケ」

シカケ提案

C: あそぶシカケ

④「生き生き街道 見て！来て！シカケ」

▼意見交換から

- ・いろいろな看板を見るだけでも楽しい人を引きつける役割 good!
- ・「歴史」にまでないかない「ちよつと前」の人の営みに目を見ることが出来る！
- ・「人の手作業」の感じられる看板などで観光地だけでない魅力に気づかせるシカケ
- ↑外から来た人に「観光だけじゃない」
- ・「街道」
- ↑まちだよ、ただ通過するだけでない「まち」であり、歴史とつづいてるよ、と気付かせる
- ・「街」を楽しむのいい歴史じゃなく、その「手前の街を楽しむ」ことで、もりありそう

18

図4 C④「生き生き街道 見て！来て！シカケ」

C④ [図4)。彼女たちにとってすでに昭和が江戸期同様に「異文化としてチャージング」との理由があろう。加えて、近代から昭和の、「今に続く」人々の営みのリアリティや多様性が、江戸期の歴史資源と、今の人々の感性を連続的に繋ぐものであると捉えていることが伺える。まちに自然な活気をもたらすものであると高く評価し、彼女たち流の解決案に資しているのである。

■着眼点③：まちの分断を繋ぐ仕掛け

実際のまち歩きにより感じ取ったまちの構造の分断に対し、これらの連続性を取り戻そうとの意図の仕掛けを6案（A①②、B③、D①②、E①）提案している。駅前・商店街ゾーンと歴史景観ゾーンを景観上大きく分断している高架下については、ここを「面白く」乗り越え、先へと誘う仕掛けを2案提案している（B①、C② [図5]）。



図5 C②「壁面パズルでGET!!なシカケ」

これらの案は、提案した学生たちそれぞれの流儀で、「声高に歴史と言わず歴史を守る仕掛け」となっている [註10]。

## 7.2 センサーを活かし、主観的、主体的にまちと関わる

このプロジェクトの経験を通し、終了後、提案に至った3名全員が「草津のことが好きになった」「歴史悪くないかも」「自分がこういうことが好きなんだなーと気づけた」「草津探検はわくわくでした」と答えている〔図6〕。これまで学生たちが注目したことのない歴史資源に触れ、ポテンシャルに気付いた点は大きい。が、もうひとつ重要な要素がある。それは、「草津のまちで自分のセンサーをフル活用して、人々のセンサーを揺らす『仕掛け』を考えてください」というミッションそのものが、最大の「仕掛け」として作用したことである。

「自分のコミットによってモノゴトが変わるかもしれない」との状況にあることは、人をおおいにワクワクさせる。今回は「プロジェクト」として参加学生たちにこの状況が現れたが、このことは、日常の草津のまちなかにおいて同様の状況を、いかに多様な人々に対して用意できているかの重要性にあらためて気付かせてくれる。

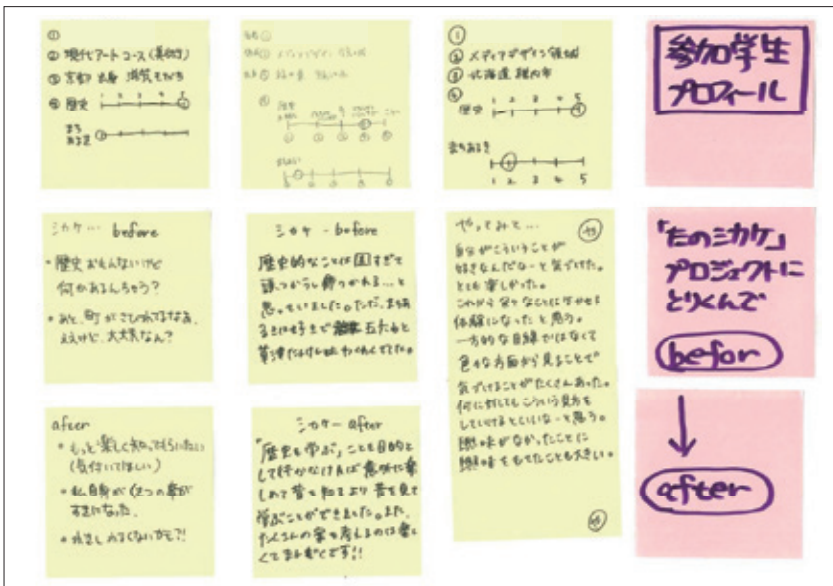


図6 参加学生のコメント

図中の手描きのグラフ（横棒に5つの目盛り）は「歴史」「まちあそび」に対し「1. 大好き～3. 普通～5. 興味なし」の5段階評価



## 8. まとめ

### 8.1 仕掛けが開く、まちに主体的にコミットする可能性

「歴史おもんない」からスタートした今回の取り組み。関心の少なかった「活用予備群 (=成安造形大生)」が、「仕掛けづくり」を通してそのセンサーを揺らす(原因 (=トリガー))に着目し、積極的にまちの有り様にコミットするまでのプロセスをたどってきた。

建築・ランドスケープ・歴史資源という意味において「非専門」のメンバーが、いかにまちに対して主体的に興味を持ち、まちにとって有意な提案をおこなうかとの試みであり、〈実感〉の伴わない「あるべき論」で終わらせない試みでもあった。人それぞれに異なる多彩なセンサーが備わっていること、自分のセンサーを尊重すると同時に他者のセンサーに気付き<sup>〔註11〕</sup>、まちは日々多くの人々から〈センシング〉されているという意識を持つに至ったこと、また、コミットするもしないもそれぞれに〈理由〉があるとの気付きに至ったことが、「仕掛けづくり」というまなざしがもたらした大きな成果であろう。

造形大生であれば、仕掛けの本体であるところのツールなどを具体的に発想しやすく、スケッチなどで「見える化」もできる。地域のまちづくりなどの取り組みの現場において、造形大生が役割を發揮するにあたり、仕掛けづくりは、親和性が高く、有効な手法であるとの手応えを感じた。

同時に、そういった強みを持ち合わせていなくとも、例えば地域に暮らす多様な人々にとっても、「センシングから仕掛けづくりへ」の一連のプロセスは、自分ごととしてのコミットと発想を促すきっかけとして作用し、まちの課題とその解決方法を共創する際に有効な方法であろう。

### 8.2 メタ的ふりかえり…コミュニティデザインの現場から

「自分がどのように感じたか(またはそれにより行動させられたか)」を起点とし、発想へのきっかけとして「仕掛けの視点」を養うことを経て提案づくりへと至る今回のプロセスは、多くの「非専門」の人々にとって有効であると先に述べた。というのも、多様な人々が集う中小のコミュニティデザインの現場をフィールドとする著者は、参加者一人ひとりに「主体的に」「自ら感じたことを」発言し、関与してもらうことは容易ではないと日々実感しているからだ。そこに「専門家」が同席すると「身構え」「空気を読んで」しまう。あるいは「そのときはそう思って」しまう。例えば彼ら専門家たちが「歴史資源は大切であり貴重で残すべき」とすると「そうだ」と思い「そうだ」と発言してしまう。嘘はないが(動機付けの一つではあるが)、日頃の行動(=歴史資源を自らの生活サイクルの中にさまざまに取り込み継続的に活用するか)と合致するかというこ

そうはいかない。

一方、自らの「ワクワク」を基準とすると、これに専門・非専門の別はなく、それぞれの立場、価値観からの「評価」が等しい重みを持つこととなる。住んでいる人には住んでいる人として、関心がない人には関心がない人としての、それぞれの(理由)が立ち現れてくる〔註12〕。多様に異なる感性を持つ人々が、それぞれに「自分のまま」で——〈にわか仕立ての専門家〉になることなく、あるいは〈予定調和〉に迎合することなく—— まちにコミットできるのである。そしてこの経路にアプローチするのが「仕掛け」である。

最後に、今回のフィールドワークで用いた「ワクワク」の基準を記す。

由井真波

「ワクワク」を探そう！

●なぜワクワクしたのだろうか？なぜ「行動」を起こさせられたのだろうか？  
→「ワクワク(※1)」させた、「行動(※2)」を起こさせた、〈原因・きっかけ(※3)〉の写真を写そう！

※1 ①「自分」がこんなにワクワクしたのはなぜ？自分自身のセンサーをフル回転して、自分の感情をモニタリングしよう！

②「他者」があんなに盛り上がっているのはなぜ？それはだれ？オトナ？コドモ？ジモトの人？来訪者？他者の行動から、それを起こさせている「原因・きっかけ」をみつけよう！

※2 「そっちへ行きたくなった(行った)」「見たくなかった(見た)」「食べたくなかった(食べた)」「買いたくなかった(買った)」「知りたくなかった(聞いてみた、読んでみた)」などなど、どんな「行動」を起こしたくなかった、起こさせられただろうか？

※3 「原因・きっかけ」は、「仕掛け学」で言うところの「トリガー(引き金)」です！いったい何が引き金となっているのだろうか？それは、下のうちのどれだろうか？

〈 トリガー 3種 ①ソフト ②ツール ③景観 〉

枚方まち歩き、草津まち歩きの際に参加学生へ配布したミッションシートより一部抜粋

- [註1] ・参加学生（枚方まち歩き参加5名、草津まち歩き参加4名、仕掛け提案3名）  
美術領域 現代アートコース  
3年 中村早希  
メディアデザイン領域 写真コース  
3年 小林桂子  
メディアデザイン領域 写真コース  
3年 矢吹未帆  
総合領域 デザインプロデュースコース  
3年 嘉数慎  
美術領域 日本画コース  
4年 織田沙希  
・担当教職員  
地域連携推進センター・附属近江学研究所 研究員 加藤賢治・石川亮  
総合領域 客員教授 コミュニティデザイン担当 由井真波  
※上記はプロジェクト実施時点（2015年度）のもの

- 2] 東洋経済新報社による「住みよさランキング」は各種統計調査をもとにした15の指標による「数値」評価による。（たとえば「利便度」であれば人口あたりの「小売業年間商品販売額」「大型小売店店舗面積」で評価をおこなう。）一方、2015年9月3日に発表されたHOME'S総研による調査研究レポート「Sensuous City [官能都市] 一身体で経験する都市：センシュアス・シティ・ランキング」では人間がどう感じたか「五感」で評価する（ただし、客観性を確保するためどのように感じたかではなくどのような経験をしたかを問う。たとえば「街を感じる」指標では「商店街や飲食店から美味しそうな匂いが漂ってきた」経験の頻度を問う）。独自のランキング傾向が顕れており、従来とは異なる評価指標として注目されている。（本レポートのエピローグに「少なくとも本調査の結果に基づく限り、東洋経済のいう『住みよさ』と住民の『幸福度』や『満足度』との間には、まったく相関がないという結果である」とある。）

参照：

HOME'S 総研. Sensuous City [官能都市] 一身体で経験する都市：センシュアス・シティ・ランキング (<http://www.homes.co.jp/souken/report/201509/ranking/>) 2017年12月9日閲覧

- 3] 本稿に使用の1～7の写真および1～21の図版は全て「平成27年度 草津市社会実験としての企画提案『草津市内における歴史街道軸をもとにした地域活性化事業 草津 街道まるごと、たのシカケ!』成果報告書」より。
- 4] 文化遺産の中とその周辺に住む人々を「カストーディアン（門番）」とする見方がある。国際記念物遺跡会議（ICOMOS）の「国際文化観光憲章」に出てくるこの概念を、宗田好史氏（京都府立大学）は「三層構造」（文化遺産を中心としてそれを取り巻く三重のリング構造）として捉えている。氏は著書「創造都市のための観光振興」の中で「第一のカストーディアンは、まさに門番としてその文化遺産を日々管理する人々」「博物館であれば遺産を研究する人々」とし、さらに「第二のカストーディアンとは、その周辺で文化遺産と関わりながら生業を営む市民・事業者である」「第三のカストーディアンとは、そのまちに暮らす一般市民である」としている。「観光客には、これら三層になったカストーディアンが区別できるわけでもないが、その層が厚いことは分かる。厚ければ、その文化遺産の価値がより大きく深く思われる。薄ければ、その観光対象が、死んだ文化遺産か、あるいはつまらない文化遺産に見えてくる」とある。

参照：

宗田好史. 創造都市のための観光振興：小さなビジネスを育てるまちづくり. 京都市, 学芸出版社, 2009, p.72-78

- 5] 「仕掛学」とは、松村氏の論文によると「人の意識や行動を変える『仕掛け』によって社会的課題を解決することを試みる研究テーマである」とある。また、「装置はあくまで人の行動を変えるためのトリガーとして使う」とある。

参照：

松村真宏. 双対問題としての仕掛学 第26回人工知能学会全国大会（2012）. (<https://kaigi.org/jsai/webprogram/2012/pdf/372.pdf>) 2017年12月9日閲覧  
また、トリガーは「物理的トリガ」（physical trigger）と「心理的トリガ」（psychological trigger）からなる」とあり、それぞれを人が五感で感知できる刺激（物理的ト

リガ)と、それを知覚したことで引き起こされる「～したくなる」との心理的プロセス(心理的トリガ)としており、この2つを組み合わせるところが「仕掛けの鍵」としている。

参照:

松村真宏. 仕掛学概論 人々の人々による人々のための仕掛学(2013)(<http://id.nii.ac.jp/1004/00008317/>) 2017年12月9日閲覧

- 6] 「枚方宿くらわんか五六市(ごろくいち)」とは、毎月第二日曜日に京阪枚方市駅から枚方公園駅間の京街道の沿線にて開催されている定期市。歴史的なまちなみの残る沿道に、手づくりの雑貨や食べ物など200～250店ほどのテントが並ぶ。「枚方宿」を東海道として数えると56番目の宿場となることから「五六市」と名付けられている。(草津は52番目である。)
- 7] 学生たちには「ワクワクを感じたポイント」とともに、「いまひとつワクワクできずに残念に感じたポイント、あるいはもっとワクワクできるぞ、のびしろあるぞ!と感じたポイント」を探し、撮影してもらった。
- 8] niwa+(ニワタス)は、草津市の市街地活性化事業として、2014年、JR草津駅東口にオープンした5つの店舗から成る商業施設
- 9] 草津市の市花として認定されているツクサ
- 10] たとえば「歴史まち歩きツアー」と銘打たれたイベントであれば、今回の学生たちはエントリーしなかったと言う。(「歴史を学ぶ」ことを目的として行かなければ意外に楽しめ」たとしている。[図6]「今すでにコミットしている」以外の人に、草津のまちの魅力を新しく

「発見」してもらうには、「違う顔」から自然に入っていきける機会が多く開かれてほしい。図3の案であれば、学生自身のセンサーを基準とし、「いけるカフェあるねん、ちょっと歩くけど、今やったらアオバナが咲いていて、散歩にもエエカンジャねん!」という入り口が仕立てられている(ワークショップ時の学生のコメントより)。草津の歴史に出会うような「遊び心のある出会い方(=仕掛け)」がまちに増えていくことが、結果として「草津の歴史を守る人々」を増やすことに繋がる。

- 11] 参加学生たちは、自分のセンサーを基準に「たのシカケ」を考えつつも、「これだけではない」と自覚している。まち歩き後のワークショップにて「他のメンバーが何を感じたか」を聞き合い、同じルートを歩いても着目する点が違うこと、プラスと感じるかマイナスとを感じるか評価が分かれることなどの経験を通して、他者の異なるセンサーの存在を尊重する態度が養われた。「色々な方面から見ることで気づけることがたくさんあった」「住人の笑顔を優先した町づくりを目指してほしいと思った」「地元の人々の協力が大事になってくると思った」などのコメントからそれが伺える。
- 12] 〈理由〉となるトリガーの「証拠写真」を押さえ自覚することで論拠となり、ブレがなくなる。ワークショップで、自らの感じたことを、記憶のみに頼って「そのまま」語ってもらうのは難しいが(その場に合わせた編集が無意識になされるので)、自身の感覚をセンシングし、トリガーとともにカード化していったん定着させる今回の手法は、特に非専門の人々にとって有効であると感ずる。

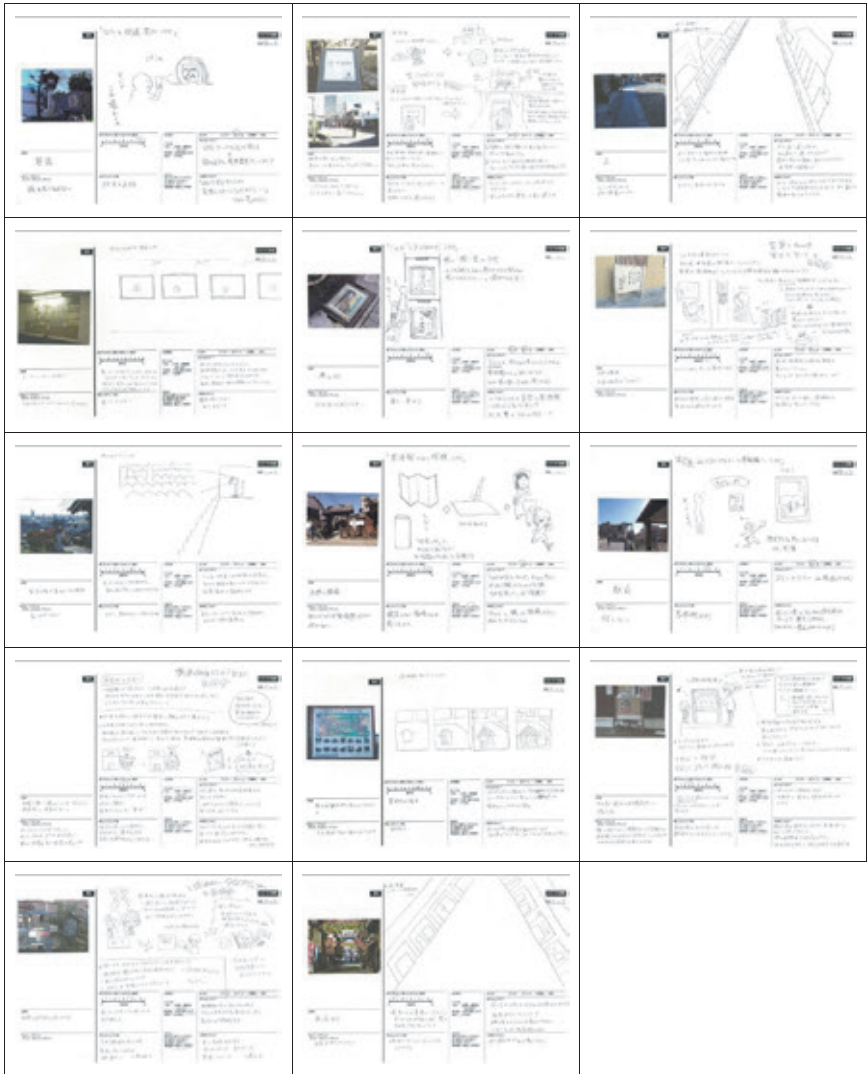


図7～20 「草津 街道まるごと、たのシカケ！」14案（全17案のうち文中で紹介した3案を除く）

## 実施概要 2 草津のまちの印象

「仕掛け」案を考え、ブラッシュアップするに平行し、参加メンバーが草津のまち歩きを行い、それぞれが感じた「印象」を出し合い、意見交換を行った。概要は以下のとおり。

**■ 面白くないのは何ですか？**  
 ・特に草津、ここは歩いてみたいところはない  
 ・入り口が狭い。一人で来たら入っていきなかつた

**■ 建物のイメージ**  
 ・家賃があるなんて知らなかった。昔からの学校のこともあったけれど最近のビルは入りにくい

**■ 草津の魅力？**  
 ・「草津の緑」が印象的だった。公園も緑も多かった。ほどほどに緑が広がっている感じが良かった

**■ 緑生空間を感じませんか？**  
 ・カーブロードの緑生空間は印象的。道幅が広い

**■ 緑道にしようがない！**  
 ・目撃的なものはなかった。歴史がある建物があるのを感じた

**■ 草津の歴史が面白い！**  
 ・草津の歴史が面白い。草津の歴史が面白い。草津の歴史が面白い。

**■ 草津のまちが面白い！**  
 ・草津のまちが面白い。草津のまちが面白い。草津のまちが面白い。

**■ 草津のまちが面白い！**  
 ・草津のまちが面白い。草津のまちが面白い。草津のまちが面白い。

**■ 草津のまちが面白い！**  
 ・草津のまちが面白い。草津のまちが面白い。草津のまちが面白い。

ピンクのライン……目撃したルート  
 緑色のライン……魅力を感じた場所

図21 草津のまちの印象



# 特別研究助成 成果報告



大草 真弓 教授（メディアデザイン領域）

共同研究者：石川 亮 助教（共通教育センター）

研究・制作テーマ：

「肺の力ゲーム」実施マニュアル制作と

「吸入療法啓発のためにデザインには何ができるか」に関する研究

Production of the “Power of the Lungs” Game Implementation Manual and Research on the Question “What can we do for inhalation therapy enlightenment?”

I taught students how to support social activities in medical care with doctors and pharmacists for the “Power of the Lungs” game of the “Shiga Inhalation Therapy Collaboration Forum (SKR)”. We researched the situation surrounding the use of the “Power of the Lungs” game, exploring problems, repeatedly creating prototypes, and putting forward various proposals to make the game easier to use. We also created an implementation manual so that anyone interested can use the game set.

## 1. 研究・制作の背景

成安造形大学ではSKR（滋賀吸入療法連携フォーラム〔註1〕）からの依頼で、2013年に吸入療法啓発ポスター等のデザイン〔図1〕、2014年に喘息とCOPD（慢性閉塞性肺疾患）の潜在患者を発見するための「肺の力ゲーム」のデザイン〔図2〕をプロジェクト演



図1 2013年 吸入療法啓発ポスター・パンフレット等のデザイン



図2 2014年 肺の力ゲームのデザイン

習として実施してきた。吸入療法啓発のために医師や薬剤師が行っている社会活動に対して、デザインを学ぶ学生が【私たちはデザインで何をサポートすることができるのか】という根本的なところから考えて、依頼されたモノのデザインをそのままアウトプットするのではなく、一緒に探究できる環境が整ってきた。

また、SKR（滋賀吸入療法連携フォーラム）の小熊哲也医師（国立病院機構 東近江総合医療センター〔註2〕）が日本呼吸ケア・リハビリテーション学会でこのゲームを紹介された際に数カ所から貸出しを打診されたことも、今回の助成で新たなツールやマニュアルを制作するきっかけとなった。

## 2. 研究の概要

### 2.1 目的

- A) 次世代のデザイナーに求められているのは、多くのステークホルダーと共に課題を解決する共創的なデザイン力である。デザインを学ぶ学生自身が予防医療に資する社会活動に参加し、それぞれに課題を発見するところからスタートして、医療従事者と一緒に解決策を探究する体験自体がひとつの目的である。
- B) それとは別に、「肺の力ゲーム」自体の目的は、全国各地で行われる健康イベントで喘息やCOPDの潜在患者を発見し、医療機関での精密検査に誘導することである。2014年はSKR（滋賀吸入療法連携フォーラム）での使用を前提にゲームツールのデザインを担当したが〔図2〕、今回の研究助成による制作物は、全国組織であるASSISTs（NPO法人 吸入療法のステップアップをめざす会〔註3〕）経由で、滋賀に限らず各地で使用できるゲームセットのデザインと運営マニュアルを検討することとした。
- C) また、「メディアデザイン演習5」（履修者11名）と「プロジェクト演習」（履修者6名）（うち2名は重複履修者）の2つの授業を通して異なる授業での連携の可能性を明らか

にし、同じテーマに対して異なる領域の学生が実施したそれぞれの専門分野を活かしたアプローチとその結果をお互いに感じてもらうことも目的とした。

## 2.2 概要・方法・スケジュール

目的 A) のために、①利用実態調査を2つの授業で共有し、②調査結果から発見した課題を解決するデザイン案を制作した。「メディアデザイン演習5」は前期で終了するためデザイン案の提案までにとどめたが、「プロジェクト演習」では、目的 B) を果たすために、③制作したプロトタイプを使用してイベントを開催し、現場での使用方を医師・薬剤師らと共に再度確認した後、改善点を洗い出した。その後、④「肺のカゲーム 運営マニュアル」の制作を行った。目的 C) に関しては、「プロジェクト演習」の成果物は大学祭のイベントで体験できるかたちで公開し、「メディアデザイン演習5」の成果物は進級制作展で展示して相互に確認することとした。

### ①2014年に制作した「肺のカゲーム」の利用実態調査

- ・5月17日(日)：長浜バイオ大学で実施された健康イベントでの調査 [図3]
- ・5月30日(土)：メセナひらかた会館で実施された健康イベントでの調査



図3 健康イベントでの利用実態調査

調査対象は、[前年度にプロジェクト授業で制作したツール類の利用状況]に加えて、[開始前から終了までのイベント全体における参加者の体験]、および[そこで見つけた各種ツールとその利用状況]とした。また、多くの医療関連イベントが行われる長浜バイオ大学では、[他のイベントの様子]も観察することとした。

予め調査レポート用のシートを配布し、[スタッフとして実際に来場者に説明したりサポートしたりする時間]と、[カメラを構えて観察する時間]の両方を体験するように指示した。レポートへの記入内容は下記の2点。後で全員に共有した時に内容が伝わるよう、写真を配置するものとした。

- (1) イベントに参加して気づいたこと・良かったこと・問題点：来場者の反応・年齢層・質問されたことなどを含めて、その場で感じたことをできるだけそのまま記入。
- (2) イベントの改善点：上記の問題点に対して、実施者の視点はもちろん、来場者の視点で考えた改善点をアイデアも含めて記入。

来場者が多くてイベントに集中しなければならない可能性も考慮して、履修者ではない写真コースの学生に撮影のみのアルバイトを依頼してその写真も共有した。

- ②「そこで何をデザインすべきか？」を考える → 調査結果に基づいたデザイン提案
- ・メディアデザイン演習5：スマホやタブレット用アプリへのデザイン展開
  - ・プロジェクト演習：アプリ以外でのデザイン展開



図4 アイデアをイベントフロー順に整理してデザイン提案するツールを決める

まず、調査結果を2つの授業履修者全員で共有し、そこで発見した課題に対して各自が改善のためのアイデアスケッチを行った。その後、それぞれの授業でイベントのフロー順に整理して、効果的と思われるいくつかのアイデアに収束させた。全体像を俯瞰することによって、ゲームに直接関わるツールだけでなく、ゲームの周りにある環境や状況などにも視野を広げる必要があることに学生たちが自ら気づいて、デザイン提案する対象を決めていった [図4]。

「メディアデザイン演習5」では、アウトプットは最初からスマートフォンタブレットのアプリデザインに限定した。各自が設定したペルソナ（どんな状況のどんな人なのか）が抱えている特徴的な課題に対して、どんな機能や体験を提案すべきなのかを、人間中心設計の考え方とプロセスを学びながら考察していった。

「プロジェクト演習」では3領域の2・3・4年生が混在するため、各自の得意分野を活かせるように担当を決めて分担する必要がある。また、ひとつのゲームデザインとして成立するように、全体のディレクションを担った学生を中心に、何度も話し合っ

### ③プロトタイプ制作・イベント実施・改善点検討

- ・7月～9月：アプリ以外のツールのプロトタイプ制作
- ・10月10日（土）-11日（日）大学祭会場で「肺のカゲーム」をSKRと共催



図5 大学祭会場で新しいツール類を使って「肺のカゲーム」を実施

「プロジェクト演習」の履修者が制作した新しいツール類のプロトタイプを、SKRの医師・薬剤師に使用してもらう形で2日間にわたってイベントを開催した [図5]。同時に、イベントスタッフとして参加者の反応を観察し、ツール類の微調整箇所を探った。

### ④配布用「肺のカゲーム 運営マニュアル」の制作

- ・10月10日（土）思考発話法による設営時の行動観察とビデオ分析
- ・誰でもが「肺のカゲーム」を実施できるようにするためのマニュアル冊子の制作

このゲームイベントを何度も実施している医師や薬剤師の実践知・経験知を運営マニュアルに活かせるよう、ツール類を組み立てている様子を録音・録画・撮影しながら観察した [図6]。情報デザイン研究会 [註4] の学生たちがサポート役を買ってでくれた。



図6 設営時や運用時の行動を観察

### 3. 成果物

#### 3.1 調査レポート

2つの授業の履修者15名による35枚の調査レポートが提出された [図7]。



図7 健康イベントでの調査レポート

#### 3.2 「肺のカゲーム」用アプリの提案

「メディアデザイン演習5」の履修者がゲームの運用をサポートするアプリを提案した [図8]。

提案されたアプリの対象者の年齢層はかなり幅広く、健康イベントの提供者が利用者と共に使う設定で考えられたものもあった。利用シーンに関しては「測定時」のみに絞り込んだものもあれば、「測定前」の知識提供段階から「測定後」のコミュニケーションサポートまでをトータルでサポートするものも見られた [図9]。

現場観察を行わずに想像だけでアイデア展開を行った場合、このような幅の広がりにはなかなか見られない。実際に老若男女が参加する休日の健康イベントを観察したからこそアイデアの広がりがあったと考える。

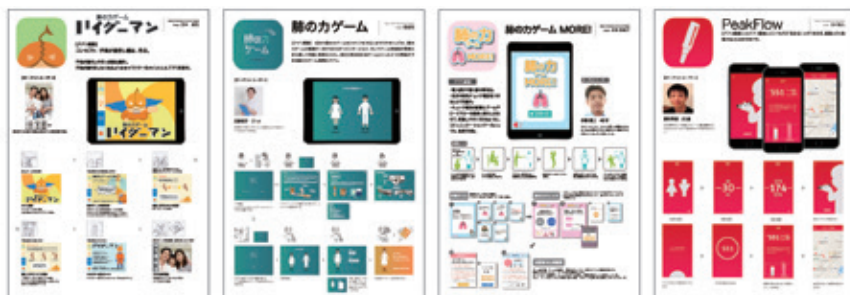


図8 提案されたアプリの一部

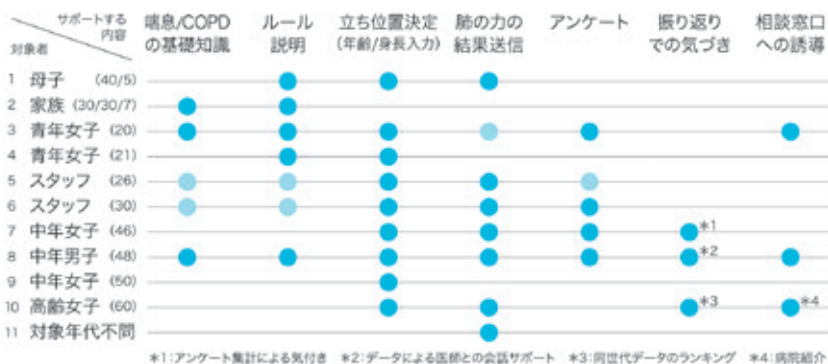


図9 提案されたアプリの対象者と、アプリがサポートする内容

### 3.3 「肺のカゲーム」用の新しいツール類のデザイン提案と制作

前年度に制作した「肺のカゲーム」をブラッシュアップし、参加者・運営者の双方にとってより使いやすく楽しめるようにすることを目指して制作を行った [図10]。

チラシとデータカードは、使用するシーンがそれぞれ2箇所設定されている。異なるシーンに別々のツールを制作した方が良いか、1つにまとめてしまうのが良いのか、イベント参加者だけではなく、イベント提供者の目的（データ収集など）の有無や経費対効果（印刷費用・外注か内製かの判断）も含めて、イベント全体の流れの中で情報が吟味され、開発対象ツールが選択された。

#### ● ASSISTs 用制作物

バックシート、ポスター、色選択シート類、データカード、データカード用POP、サイン、結果記録用スタンプ、チラシ、肺の力手帳、Tシャツ（デザインのみ：景品類）



図10 解決すべき課題と制作したツール類  
岸本由美子さん（総合領域3年）のポートフォリオをベースに追記

● SKR・ASSISTs 共通制作物

PR 動画「肺の力劇場」[図11]



図11 イベント会場入り口に置く PR 動画「肺の力劇場」  
蒲生楓さん（イラストレーション領域3年）制作



### 3.4 「肺のカゲーム」運用マニュアルの制作

- SKR・ASSISTs 共通制作物 [図12]



図12 「肺のカゲーム」運用マニュアルとプロジェクトに参加した学生たち

### 3.5 その後の展開

その後、滋賀医科大学の予算がついたため、大学祭イベントでの経験を踏まえた上で横浜でのイベント（市民公開講座：神奈川県立がんセンター・聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院共催、於：横浜市瀬谷公会堂）用に下記の追加と制作を行なった。

- SKR・ASSISTs 共通制作物

バックシート、ポスター、色選択シート類、データカード、データカード用POP、サイン、チラシ、肺の力手帳、景品類（ティッシュ、マスク、クリアファイル）、【デザインデータのみ】景品類（ボールペン、ポストイット）、Tシャツ、【購入品】ゲームキット用スーツケース

## 4. 研究結果・考察

### 4.1 目的A) に関して：

現場を観察し、課題の発見からスタートすることは、適切なアウトプットを提案するためには当然必要なことである。

しかし、それだけでなく、普段は接することの少ない医師や薬剤師、老若男女の混在する利用者の反応を直接目にはすることは、学生の「学び」に対するモチベーションを喚起・維持するためにも効果がある。学生の感想を引用しておく。「呼吸器系疾患の患者さんを発見する医療イベント用のゲームをデザインし、実際に行われたイベン

トにスタッフとして参加しました。デザインによって起こる効果や改善される点を肌で感じる事ができ、とても感動しました。」

自分たちが学ぶことの意味や目的を実感できる機会を持ち、0から何かを創り出した達成感を味わうことによって、学んでいる専門知識や技術の修得・研鑽に前向きになる学生は多い。

#### 4.2 目的 B) に関して：

「肺の力ゲーム」への参加者730名のうち、約16%の120名がピークフロー測定を経て喘息や COPD への注意を促されており、医療機関受診への動機づけにつながっている [参考文献1]。運営マニュアルによってこのイベントを全国で展開できるようにする意義は大きい。

制作にあたっては、音声録音・ビデオ撮影・静止画撮影を行って後で分析することを前提に設営中の医師たちの行動を観察したが、この手法はこのプロジェクトとしては失敗であった。使用した機材はある程度使い慣れているとはいえ、行動観察という目的のために使用した経験はなく、機材自体のハンドリングに気を取られすぎていた。また、動画や音声はデータを見直すだけでもかなりの時間がかかるため、担当した学生がなかなか分析に取り掛かることができず、結果として完成が非常に遅くなってしまった。その場での観察に集中できるようメモを取りながら静止画のみ押さえておくという方法や、本格的な機材を使用するのではなく、スマートフォンで動画と静止画を手軽に使い分けながら観察するやりの方が適していたと考えられる。今後は、調査・分析目的を意識した機材の使い方を研究しておく必要がある。

完成したツール類は、10月のイベントでの利用状況を見るといずれも良くできていた。特に、人の流れを意識しながら制作したチラシ>データカード>スタンプの連携はとても上手くいっており、イベント運営をスムーズに実行することができた。

#### 4.3 目的 C) に関して：

成安造形大学のプロジェクト演習では、同じ科目を異なる学年で4回まで連続履修することが可能である。このプロジェクトはこの時点で3年目であり、3・4年生にそれぞれ1名ずつ連続受講者がいた。医療課題に対して「前年度にやり残したことがある。」「今年はこちらを充実させたい。」という意識でイベント全体のプロセスを俯瞰し、下級生をディレクションしながら取り組んでくれたことは、アウトプットの質と量の充実につながった。また、外部と連携して継続するには授業日程とのスケジュール調整も必要だが、年間プロジェクトとして柔軟に取り組むことができる環境はありがたい。

2つの授業のそれぞれの受講者数は少なかったが、現地調査に出かけた14名が合計35枚の調査レポートを共有することで、少人数では難しい多方向の視点からの気づきを得ることができた。最終的に異なるアプローチやアウトプットを実施する場合でも、現場の観察から始めるという点でデザインの基本スタンスは同じである。アウトプッ

トするメディアを指定されていたとしても、観察眼は全方位に張り巡らせる必要があるが、現場ではそれを意識することができなかった学生も、後で調査レポートを共有した時にその大切さを認識できていた。

このように、調査観察を共有することで、同じテーマに対して複数の授業を連携させることは十分に可能であるし、一定の効果もあるということがわかった [図13]。また、両方の授業を履修した学生が2名いたこと、情報デザイン研究会の学生5名が自主的に参加してくれたことも視点の広がりに繋がった。



図13 共通テーマでの授業連携の可能性

最後に、この2つの授業を履修していた学生（岸本由美子さん：当時総合領域3年生）が制作した就職活動用ポートフォリオを紹介する [図14]。このように広がりのあるプロジェクトでは、制作までで終わらずにメタ視点でそれを振り返ってまとめることで学びがしっかり強化される。

彼女のポートフォリオでは、「何のために」「誰のために」「どんなものを」デザインすべきかを考察したプロセスが別冊としてまとめられているだけでなく、グループワークの中での自分と他の学生の立ち位置も整理されている。プロジェクト授業は本来、こうした振り返りを授業内で全員が行ってこそ意味があるということに、彼女のまとめを見て改めて気付かされた。

授業内でリフレクションの時間をもっととるべきであったし、また、その結果を両方の授業の履修者間でしっかりと共有しておく必要があったと感じている。

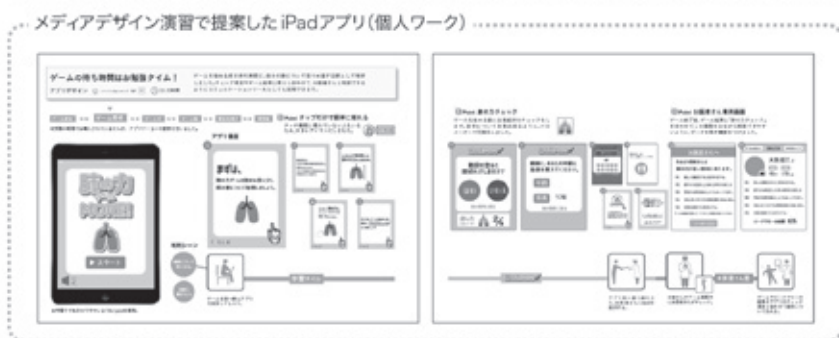
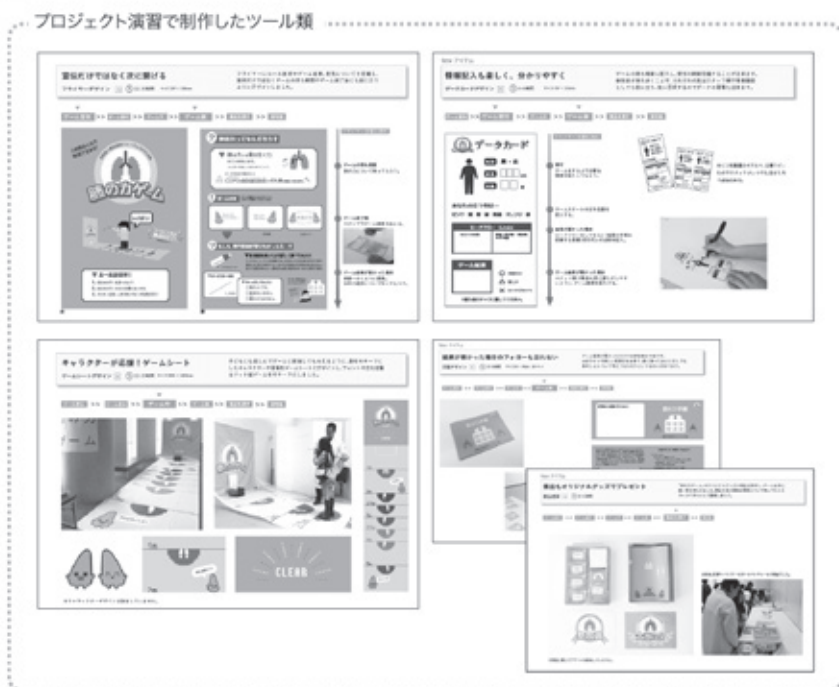


図14 学生による振り返りとまとめ：岸本由美子さんのポートフォリオより抜粋

## 5. まとめ・今後の展開について

高齢化社会を迎えて予防医療の必要性が重要視されてきている。なかなか病院には足を運ばない〔隠れ〇〇の人〕が多いのも事実であるが、健康イベントやヘルスツーリズムなどで医療が未病の人に開かれる場も増えている。そうした場を捉えて、様々な領域から集まった学生がそれぞれの得意分野を活かして取り組める医療に関わるイベントデザインやワークショップデザインを学ぶ授業は今後も続けて設けていきたい。

現場での行動観察の手法に関しては、今後、観察記録のための記録用紙のフォーマットや機材の使い方を試行錯誤したい。

また、連続して同じプロジェクト授業を履修している学生の学びの深まり方についても、同様なプロジェクトを担当されている教員と話す機会をとりたいと考えている。

- [註1] SKR：滋賀吸入療法連携フォーラム：滋賀県で吸入療法を広めよう！という医療関係者の集まり。
- 2] 当時。現在は「おぐまファミニークリニック」院長。
- 3] ASSISTs：NPO 法人 吸入療法のステップアップをめざす会：吸入療法を標準化し、日本全国で共通した吸入方法を確立、エビデンスを構築することを目的とした医療関係者の全国組織。

- 4] 情報デザイン研究会：成安造形大学の学生が主体となって情報デザインを学んでいる部活動。

### 参考文献

小熊，永井，重森，平，山口，中野，石川，大草，寺田，中野．吸入療法的一般人へのアピール方法についての検討．日本呼吸ケア・リハビリテーション2014．登録番号10121（2014.10）．

小田 隆 准教授

(イラストレーション領域：美術解剖学、  
イラストレーション絵画)

研究・制作テーマ：

新しい美術解剖学の教科書を作るための画像制作

Image creation to create new textbooks for artistic anatomy

Many of the traditional artistic anatomy books seldom show appearance of joints and muscles that tends to change in motion, and only few explains based on live models. Knowledge of artistic anatomy is important, but it will be difficult to express rich human body without the eye to observe live models. I introduce the process of extracting features of human body in the light of artistic anatomy through my sketches.

## 1. はじめに

美術解剖学を学ぶための書籍は数多くあり、良質なものが出版されていて、ネット上でも様々な情報が紹介されている。しかし、それは誰かの目と手を経たものであり、リアリティを持って自ら制作したものではない。

従来の美術解剖学書の多くは、解剖学的正位の姿勢を基準としており、動きを伴った関節の動きや筋肉のレリーフの変化を図示したものがあまりない。

実際にモデルを使い、その場で素早くスケッチし、後日、それぞれの部位の解剖学的特徴を、別紙に描いていくプロセスを紹介する。

## 2. モデルを使ったスケッチを描く

モデルはプロのヌードモデルにお願いしている。ヌードによる安定した長時間のポーズをとってもらうには、経験のあるプロのモデルでなければ難しい。20分を最長の単位として、こちらが納得したスケッチが描けるまで同じポーズを繰り返してもらった。

授業では多人数の学生がいるため通常の照明のもとで描くことが多いが、体表のレリーフがより分かるようにスポットライトを使った照明を利用した。

モノクロのスケッチだけでなく、色画用紙にチャコールペシル、パステルを使い、立体感と解剖学的特徴が明確であること、プロポーションが正確であることを重視した。

## 2.1 座った女性を背中から描いたスケッチ [図1]

モデル台の上のせた椅子に座ったポーズ。体幹に重点を描いたため、全身までは描きこんでいない。体幹、上肢に重点を置いている。背筋をまっすぐに伸ばし、両手を腰のやや下に揃えて当てている。背もたれのない椅子に姿勢良く座っているため、側方から見た背骨のラインは、直立している時とほぼ同じと考えられる。背中から描くときの難しさは、目印となる部位の少なさと、肩甲骨の位置の変化が大きいことによる。このポーズでは肘が後方に向かっているため、肩甲骨もそれにつられて後方へ張り出していることがわかる。左右の上肢のポーズもほぼ同様なため、左右の大きな違いはない。

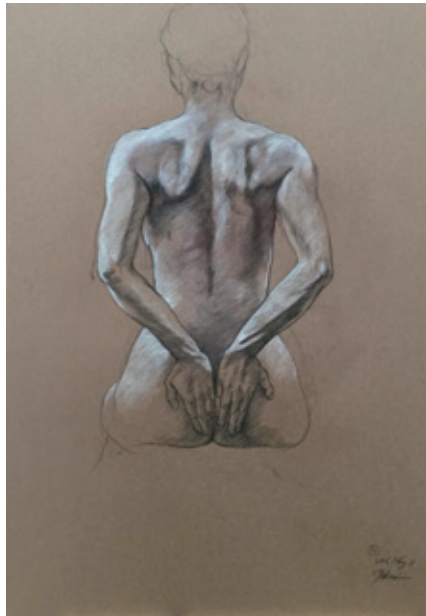


図1 女性のヌードのスケッチ。80分ポーズ。  
色画用紙にチャコールペンシル、パステル。  
2016年制作

## 3. 描いたスケッチを使った美術解剖図の制作

体表に現れる筋肉や脂肪のレリーフを手掛かりに制作するが、まず、骨格図を描くことから始めることが重要である。人間の体表には、骨の位置を確認できる部位がいくつかある。体幹であれば、正面からだ鎖骨、胸鎖関節、肋骨、上前腸骨棘など、背面からだ肩甲棘、後正中溝（背すじ）、上後腸骨棘、仙骨などである。[図2]

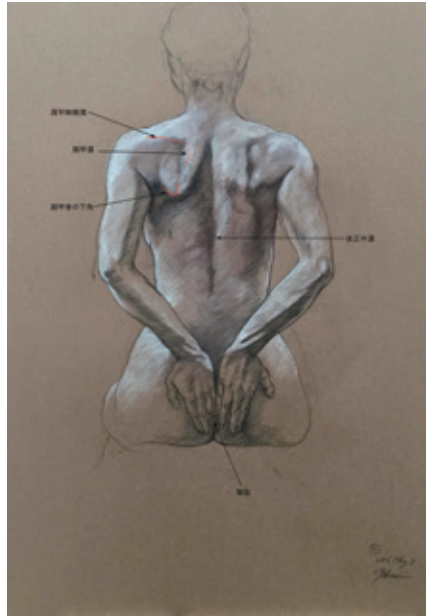


図2 体表からわかる特徴を图示したもの。

骨格図があれば、筋肉の起始と停止を明確にすることができ、深層から浅層へと筋肉の構成を順にたどることができる。

ひとつのスケッチについて、具体的な方法を説明していく。

### 3.1 骨格図の制作 [図3]

デッサンを撮影しプリントアウトしたものの上にトレーシングペーパーをかぶせ、アウトラインと主要なレリーフの稜線をトレースする。このプロセスののち、次のように骨格の特徴を拾い出していく。

背面からの骨格図を描く上で、肩甲骨の位置が明確なことは、大きな助けとなる。肩甲骨にはもうひとつ重要なポイントがあり、それは肩甲棘の存在である。肩甲骨は肩甲棘、肩峰を介して鎖骨と関節し(肩鎖関節)、鎖骨によって体幹の胸骨とつながっている。肩甲棘は筋肉の位置関係を知る上でも重要な役割を果たしている。[図4]

肩甲骨の背側面には棘上筋、棘下筋、小円筋、大円筋といった筋肉の起始があり、肩甲棘を境界に上方には棘上筋、下方には棘下筋がある。棘上筋は僧帽筋に隠れてしまうため体表からその存在を確認することはできないが、棘下筋ははっきりと見ることができる。小円筋は大円筋と棘下筋に挟まれて目立たないが、棘下筋と大円筋の位置から、その存在を確認することができる。[図5]



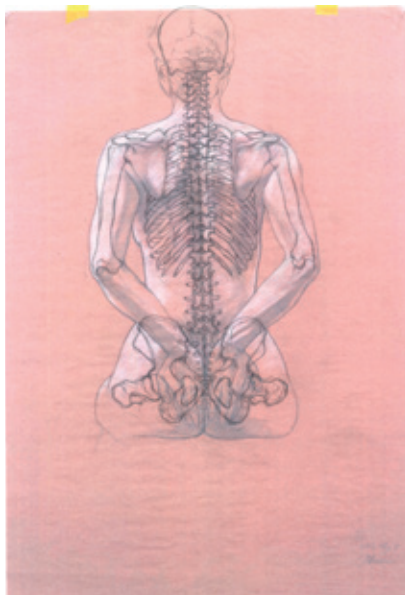


図3 スケッチの上にトレーシングペーパーをおき、骨格図を重ねたもの。

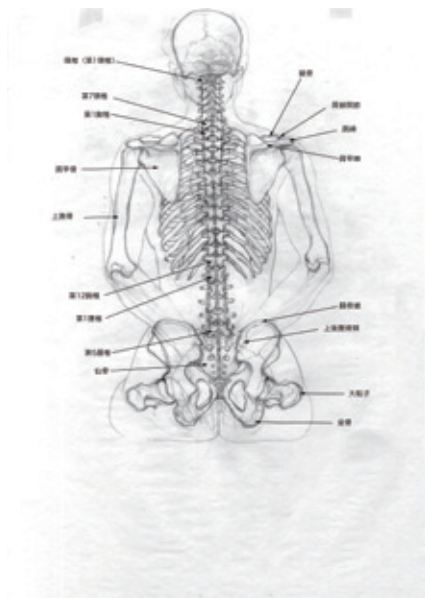


図4 骨格図に主要な骨格の名称を書き入れたもの。

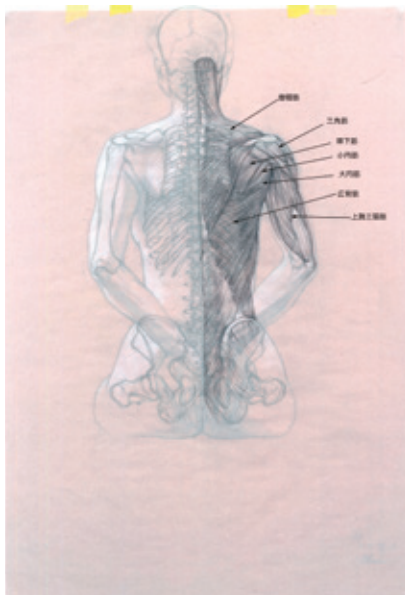


図5 骨格図をもとに一部の筋肉を描いたもの。

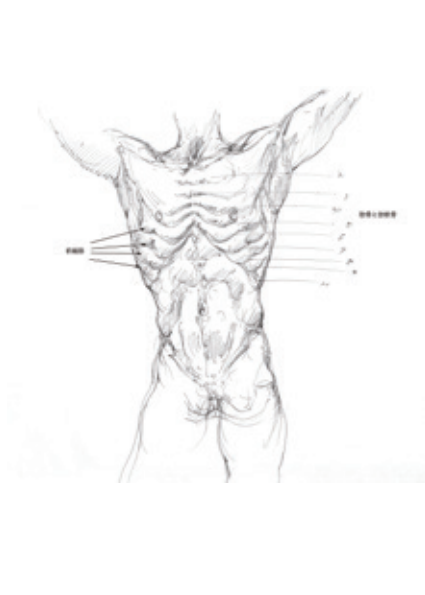


図6 胸郭を中心に描いた男性のヌードのスケッチ。10分ポーズ。前鋸筋、肋骨、肋軟骨の形態がはっきりとわかる。

また、肩甲棘は僧帽筋の停止であり、三角筋後部の起始でもある。肩甲骨全体の位置とともに、肩甲棘の位置を知るとは、とても重要な意味を持つ。上腕のポーズによって、肩甲骨、肩甲棘に付着する筋肉はそのレリーフを変化させるため、極めて複雑な表情を見せることになる。

体幹を正面から見た場合、特に痩せ型の人だと、肋骨のラインをはっきりと確認することができる。特に7番目から10番目の肋骨と肋軟骨が描く曲線は、胸郭の形態を明確に示していて、脇腹に覗く前鋸筋からも肋骨の位置を知ることができる。[図6] 一方、背中から見た場合は、肋骨の位置と形態を明確に知ることがむずかしくなる。背すじは脊柱起立筋群に挟まれた溝（後正中溝）があるため認識しやすいが、筋肉におおわれているため胸郭全体の形態ははっきりしない。

骨盤のもっとも高い位置にある腸骨稜も、正面からであれば臍の位置から推測できるが、背面からだともこれらもむずかしい。ヴィーナスのえくぼと呼ばれる腰小窩が見つければ、それをてがかりに上後腸骨棘から骨盤の位置を特定することができるが、腰小窩が目立たない場合も多く、正面からと比較すると難易度が高い。後正中溝と臀裂の間にある溝がなくなる部分には仙骨があり、この部位からもおよそその骨盤の位置を知ることができる。

男性、女性ともに臀部には厚い脂肪が存在するが、特に女性の場合は大きく、側面にも多くの脂肪がつく。坐骨と椅子の座面の間にも大臀筋と厚い脂肪があることがわかる。

## 4. その他の作例

### 4.1 座った女性のヌードのスケッチ [図7]

体幹を少し捻って座っているポーズである。背中に肋骨が浮かび上がっているため、胸郭の形と位置を把握しやすかった。腸骨稜、大転子の位置もよくわかる。

トレースと骨格図 [図8]

骨格図 [図9]



図7 女性のヌードのスケッチ。  
40分ポーズ。色画用紙にチャコールペンシル、パステル。  
2016年制作

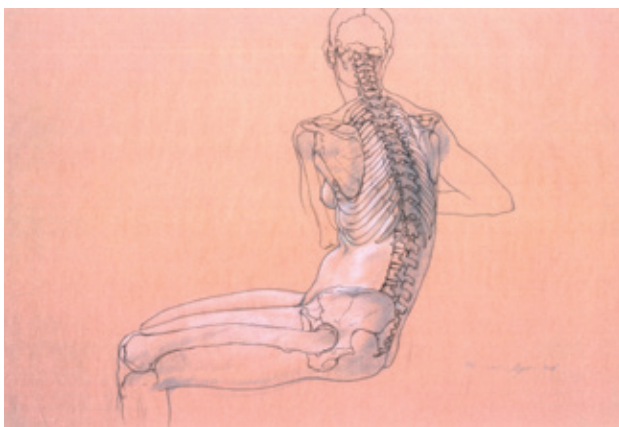


図8 スケッチの上にトレーシングペーパーをおき、骨格図を重ねたもの。

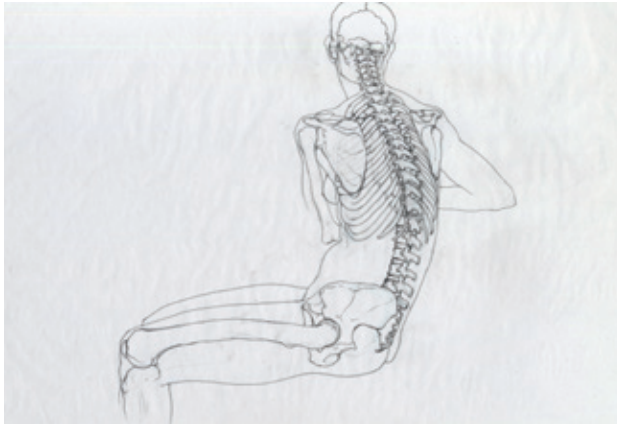


図9 スケッチをもとに描いた骨格図。

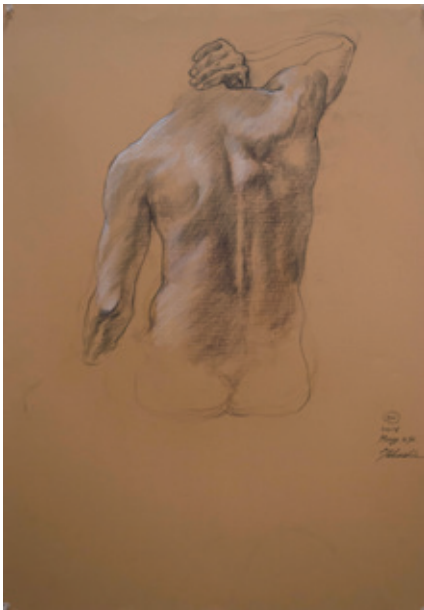


図10 男性のヌードスケッチ。40分ポーズ。  
色画用紙にチャコールペンシル、バステル。  
2016年制作

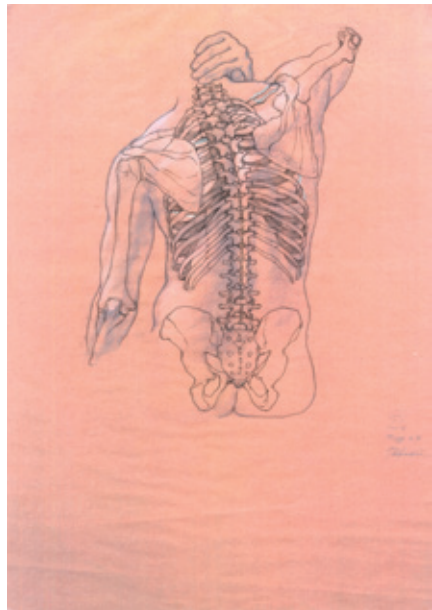


図11 スケッチの上にトレーシングペーパーをおき、骨格図を重ねたもの。

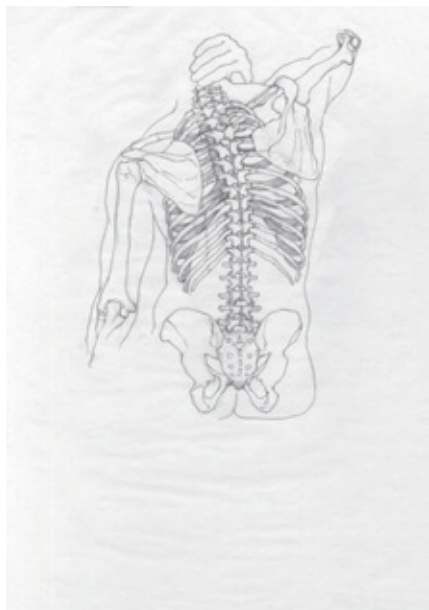


図12 スケッチをもとに描いた骨格図。

#### 4.2 座った男性のヌードスケッチ [図10]

首をややかたむけて、右腕をあげて首筋に手をあてているポーズである。左右の肩甲骨の位置が大きく違うことがよくわかる。女性に比べて筋肉質で背中の筋肉も厚みがある。

トレースと骨格図 [図11]

骨格図 [図12]

#### おわりに

現段階では本の出版には至っていないが、順調に制作は進んでいる。はじめに書いたように、美術解剖学の知識は重要だが、それ以前に実際のモデルを観察して、その体表のレリーフが何であるかを認識し、それらを美術解剖学の知識と結びつけていくことが大切である。

また、美術解剖学的な構造が把握できれば、観察して迷った時に、はっきりとそれが何であるかを理解し、表現に活かすことができる可能性がでてくる。どちらも不可分なことではあるが、やはりまず重要なのは、多くのモデルを描きたくさんのスケッチを描くことである。観察できる眼、正確に描ける手なくして、美術解剖学の知識を活かすことはできない。

## 参考文献

### 【図書】

- フレデリック・ドラヴィエ. 目でみる筋力トレーニングの解剖学. 東京, 大修館書店, 2002, 126p
- フレデリック・ドラヴィエ. 美しいボディラインをつくる女性の筋力トレーニング解剖学. 東京, 大修館書店, 2005, 142p
- 佐藤良孝. 体表から構造がわかる人体資料集. 東京, 廣済堂出版, 2012, 159p
- Michael Schunke, Erik Schulte, Udo Schumacher. プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系. 第2版. 東京, 医学書院, 2011, 599p







## 編集後記

ここに成安造形大学紀要、第8号を刊行いたします。

2018年、すでに21世紀も20年近くが経過いたしました。世紀の変わり目に支配的であった新しい時代に対する楽天的な期待感も、当然のことかもしれませんが、さまざまな分野で重大な課題に直面しています。そして多くの課題が、自由であろうとするものや弱きものに対して、抑圧的な性質を帯びているように見えるのは、編集子の誤解に基づくものでしょうか。しかし、芸術や学問は、自由を希求する意志と弱きものに向けられるまなざしを最強の武器としなければなりません。私たちがこの小さな刊行物を世に問い続けなければならない、一番大きな理由は、ここにこそあります。

書物という媒体の劣勢が懸念されるようになって、かなりの時間がたちます。しかし幸いにして編集子は、現代美術の若い担い手たちが、書物という形式のもっている可能性について問いかけるさまざまな試みを世界中で展開していることを、目撃してきています。一見、遠回りに見える私たちの作業は、時代の流れに押しつぶされまいとする私たちの本能に対する、高らかな賛歌にほかなりません。この小さな書物は、目先だけの功利主義への屈服を拒絶する私たちの意志の表明でもあります。

(Chepito)

## 成安造形大学紀要 第9号

### Journal of Seian University of Art and Design No. 9

---

発行日：2018年3月23日

Date of Issue: 23 March 2018

発行者：学校法人京都成安学園 成安造形大学 附属芸術文化研究所  
〒520-0248 滋賀県大津市仰木の里東4-3-1  
電話：077-574-2111（代表）

Publisher：Kyoto Seian Gakuen, Seian University of Art and Design, Center for Arts  
Oginosato-Higashi, 4-3-1, Otsu-City, Shiga-pref.,  
zip 520-0248, Japan  
Tel: +81-77-574-2111

編集：芸術文化研究所  
Editor：Center for Arts

印刷・製本・デザイン：株式会社 北斗プリント社  
Print, Design：Hokuto Print Co., Ltd.

---

【 】

成安造形大学